

平成24年12月12日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 朝長 勇
3番 上田雄一
5番 山口良広
7番 宮本栄八
9番 石橋敏伸
11番 上野淑子
14番 末藤正幸
16番 小柳義和
19番 山口昌宏
21番 牟田勝浩
23番 黒岩幸生
26番 江原一雄

副議長 山崎鉄好
2番 山口 等
4番 山口裕子
6番 松尾陽輔
8番 石丸 定
10番 古川盛義
12番 吉川里己
15番 小池一哉
17番 吉原武藤
20番 川原千秋
22番 松尾初秋
24番 谷口攝久

2. 欠席議員

25番 平野邦夫

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 筒井孝一
次 長 松本重男
議事係 長 川久保和幸
議事係 員 江上新治

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
政	策	部	角			眞
つ	な	が	宮	下	正	博
營	業	部	森		孝	畑
營	業	部	北	川	政	次
く	ら	し	山	田	義	利
こ	ど	も	蒲	原	惠	子
ま	ち	づ	石	橋	幸	治
山	内	支	成	松		薫
北	方	支	坂	口		勉
会	計	管	浦	川	正	盛
教	育	部	古	賀	雅	章
教	育	部	白	濱	貞	則
水	道	部	松	尾	満	好
総	務	課	中	野	博	之
財	政	課	水	町	直	久
企	画	課	平	川		剛

議 事 日 程 第 4 号

12月12日（水）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成24年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
9	6 松 尾 陽 輔	1. 子ども、子育て支援事業について 1) 通学路の安全対策について 2) 子ども、子育て関連3法の具体化について 3) 不育治療への公費助成について 4) 利用者負担の軽減について 2. 指定管理者制度について 1) 福祉事業団（公益財団）を事例に 3. 公会計制度の統一について 1) 上下水道事業会計について
10	23 黒 岩 幸 生	1. 市長の政治哲学について 2. IT行政推進について 3. シェアハウス建設について 4. 交通安全対策について 5. スポーツ中心の街づくり 6. 放射能問題について 1) 同心円避難では被曝を防ぐ事は出来ない。避難訓練の見直しが必要
11	21 牟 田 勝 浩	1. 道路交通行政について 2. 教育について
12	4 山 口 裕 子	1. 武雄市の今後の方向性について 1) 図書館について 2) 観光について 3) 各種行事の連携と統一 4) 広報について

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は4番山口裕子議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、6番松尾陽輔議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、6番公明党、松尾陽輔の一般質問をただいまより始めさせていただきます。

一部通告の順番を入れかえさせていただき、まず最初に、今回は子ども、子育て支援事業についてお尋ねをしていきたいと思います。まず1点、通学路の安全対策についてお尋ねをさせていただきます。2つ目には、社会保障と税の一体改革のポイントである子ども・子育て関連3法の具体化についてお尋ねをしていきたい。3つ目に、不育治療への公費助成についてお尋ねをしていきたいと思います。最後に、利用者負担の軽減について、子ども、子育て支援事業の1項目とさせていただきます。

2つ目には、公会計制度の統一について、上下水道の事業会計について、御提案を申し上げたいと思います。

最後に、指定管理者制度について、福祉事業団の事例を参考に、今後の運営について、あり方について見解を求めていきたいと思います。

それでは、まず初めに、質問でも新年度の予算関係の質問を出させていただいておりますので、冒頭、市長に新年度予算に向けた考えをお尋ねしておきたいと思います。市長も演告で言われておりました、景気の停滞感が懸念をされております。ただ景気にはよくなったり悪くなったりする波がありますので、下降の兆しが見えたときに、いかに迅速に対応、対策をとっていくかであります。これは病気と一緒に、早期に対処すれば、治りも早く、回復も早いということでもあります。

そこで、9月の一般質問で、公明党の防災・減災ニューディール政策を紹介をしながら、具体的な質問をさせていただきましたが、今回は市長に新年度の予算編成に向けて、地方版、武雄版の防災・減災ニューディール政策、景気対策を具体的に打ち出すべきと考えますが、新年度予算に向けた市長の見解を冒頭にお尋ねしておきたいと思います。御答弁をよろしく願いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

日々、来年度の予算編成はどうしようかなと考えておるところであります。その中でやっぱり大事なのは、あのトンネルの事故が物すごくショックを受けておまして、これは我々としても見直して、公明党さんがおっしゃる防災・減災については、新たに何かつくるより

は、そちらの道路の修繕であるとか、そういったもの、これはもともと我々はそうやっていますけれども、そちらのほうに予算を投資する必要があるだろう。しかし、公共事業でとどまらず、それが雇用を生むであるとか、いろんな地域としての付加価値を生むとか、そういう一石二鳥、三鳥を呼ぶような公共投資をする必要があるだろうと。ばらまきにならない公共投資をする必要があるということがまず1つ。

そして2つ目は、やっぱり命を守るということです。やはりこれだけ皆さんの所得が落ちているときに、きょうもNHKで報道されていましたがけれども、病院に行きたくても行けないという方々、これが結果的に地域の、もちろん個人の幸せをそぐことになりましてけれども、地域の活力をそぐということにつながりますので、そういったケアをきちんとする。これは以前、黒岩議員さんを初めとしておっしゃっていましたがけれども、いろんな予防対策ですよ、あるいはピロリ菌であるとか、そういったものについて、できるだけ公費を投入しなければいけない時期に差しかかっていると。やっぱり夏に今いろいろはやるじゃないですか、インフルエンザであるとか、これもやっぱり抵抗力が落ちているというのと同時に、やっぱり早くそれをとめるということが僕は必要だと思っているんですよ。ですので、これについても、医師会の話の伺いながら、そこは来年度はきちんと手を打つ必要があるだろうと思っています。

いろいろありますけれども、語れば2時間半ぐらいになりますので、とにもかくにも、これ議会も我々も私もそうなんですけれども、今期の最後の仕上げの段階になりますので、市民の皆さんたちが議会並びに私を選んでよかったと言ってくくださるような施策をしてまいりたいと思っています。ですので、選択と集中が必要だと思っています。何でもかんでもできるわけじゃありません。もしやるとなったときには、そこに重点的にきちんと配分をするということも必要だと思っていますので、ぜひ議会の論戦でそういった松尾議員さんのような前向きな御意見を賜れば、私はありがたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今、選挙戦の真っただ中でありまして。そういった中で国民の皆さんの関心事は、原発と同時に、この景気の停滞感をいかに浮揚させていくかということも非常に関心があられます。また雇用をどうふやしていくかという部分の中で、ぜひとも武雄版のニューディール景気対策を具体的に来年度予算に反映をさせていただければと思いますので、どうかよろしく願い申し上げながら、9月でしたか、防災・減災、いかに災害を防ぎ、いかに減らしていくかということで、佐賀県小・中学校の耐震化の状況の説明を9月にもさせていただいたところでございます。約9割がもう耐震化が学校は終わっているというふうな状況の中で、武雄市においては、耐震化の完了予定が2019年度には全て耐震化が終わるというふうなことで公表も

されておりました。

ただ、ここで今後の課題ということで、先ほど市長も触れられました。中央自動車道の笹子トンネルの天井の崩落事故、9名のとうとい命が亡くなりました。その9名のとうとい命を無にすることなく、何とかその辺の対策を早急にとっていくべきじゃないかと思う一人でございます。そういった中で、前の障害物は何とかよけようがあるんですけども、上から落ちる分に関しては、よけようがないというか、そういった中で、先ほど申し上げました耐震化が2019年終わりますけれども、今後の課題ということで、体育館、武道館の天井や照明器具、そういった非構造物の点検、耐震化の計画を文科省の通達で2015年まで早急にやれという通達が教育長、来ているかと思えます。そういった中で、公明党の調査で、構造物の耐震化はもう9割ほど全国的に推進、終わりつつありますけれども、この非構造物、天井や照明器具に関しては、まだ耐震化率が32%ですよ。これに関しては早急に武雄市も、私もあちこち体育館を見て回っております。特に若木あたりはまだ設置して新しいものですから、そこまではないでしょうけれども、あちこちはこういうふうな天井がもう落ち込んでいるとか、こういうふうな状況も見受けられますので、ぜひともこれは早急に対応を講じていただきたいと思えますけれども、市長、御見解をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁いたします。

現在もう既に始めております。以前、古賀部長の横に座っておりました浦郷前教育部長を中心として、市内の小学校、中学校の上の構造物については全て今チェックをしています。一方でこれは予算を伴う可能性もありますので、その際は、臨時議会を直ちに開いて、これはもう本当に速やかに対処したいと思っております。とにかくこれはスピードが最大の付加価値でありますので、もうやっておりますので、御安心をしていただきたいと思えます。今のところ異常があるという話は聞いておりません。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

早急に対策を講じていただきたいと思えます。

あわせて社会資本の建築後50年以上ということも9月の定例議会のときに紹介をさせていただきました。河川管理、水門等、あるいは橋、高架、道路、あと17年後にはもう半分が50年以上たつわけですよ。私もあちこち橋の状況を見てまいりました。もう50年、60年の、武雄市内にもそういう橋があります。そういったことに関しても、早急に手を打っていただいて、防災・減災ニューディール経済対策を具体的に予算に反映をぜひともしていただきたい

ということを強く要望をさせていただきたいと思いますので、どうかよろしく願いをしておきたいと思います。

それでは、子ども、子育て支援事業に入らせていただきます。

まず最初に、通学路の安全対策についてお尋ねをさせていただきます。

これも9月の一般質問で、8月末までに緊急総点検が実施をされました、通学路の危険箇所と再点検を私自身も質問の中で確認をさせていただいたところでございます。そういった中で私も市内各地あちこち通学路の状況の道路のいろんな危険箇所を見て回って紹介もさせていただきました。その中で若木町川古山中の国道498号線の横断歩道の設置を何とか検討できないだろうかということで、歩行者の多少ではない、行政の役割は一人の命を守ることだということで訴えもさせていただきました。また、若木町皿宿の通学路においては、通勤者の迂回路として、朝夕非常に車が多かった。そういった状況の中で、区民の皆さんから、また保護者の皆さんから、何とか対策を講じていただけないだろうかということで、いろんな対策を、通学時間の通行規制ということでしたけれども、通学路に白線歩道をどうですかということで、9月に提案をさせていただき、即座に対応していただき、白線を引いていただきました。白線の効果、大ですよ。これ私の車ですけれども、全然違うわけですよ。そういったところで、車道と歩道を区分するので、非常に狭く感じるわけですね。非常に狭く感じるということは、自然とスピードが減速するわけですよ。非常に効果がある。きのう末藤議員さんもぜひとも山内町のところに白線をということで、すぐ対応するということで答弁をされたようですけれども、そういうところは早急に対応を。これがカラー歩道とか、カラーになってくれば、非常に単価も高額な予算も必要かと思いますが、白線等はある程度の予算でできますから、こういう箇所は素早く対策を講じていただくよう、よろしく願いを申し上げながら、歩行者の交通事故の死者数をちょっと調べてみました。2011年、全国で1,686人ですよ。全体の交通事故死の36%。特に車道幅員5.5メートル未満、生活道路における歩行者の交通事故がふえております。

そういった中で、武雄署管内のことし1月から10月までの事故状況を調べてみますと、何と人身事故が1日1.5件ですよ、武雄市管内。発生が463件、死者が2名、負傷者が613名。物損事故が1日当たり2.8件ですよ。871件。どこかで人身事故が1日1.5件、物損事故が2.8件という管内で起きている状況をまず御承知をいただいて、いつ何どき子どもたちが事故に巻き込まれるかわからないというふうな危険な今の交通事情、子どもたちを取り巻く環境を確認をしていただきながら、冒頭申し上げました通学路の総点検の実施を教育長していただいて、すぐさま対応していただいたかと思いますが、まだまだ十分ではないということも思っております。そういった中で総点検を実施されて、実施したら、野放しにすることなく、それを年度的に、年度整備計画の策定をして、地域では要望したけれども、いつしてもらえんのだろうかというふうな声も出ています。そういった中で、総点検の実施をされて

危険箇所をある程度把握もされておられると思いますけれども、それに対して年度計画の整備の計画をぜひとも策定をすべきと、私は強く要望しておきたいと思いますけれども、その辺の策定計画はあられるかどうか、確認をさせていただきたいと思います。御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。平成24年度の緊急合同点検を実施した箇所については、整備計画としてまとめております。武雄市内の各小学校単位で72カ所の点検を行っております。内訳を申しますと、国の管理する国道管理区間が10カ所、県管理区間、これは公安委員会も含めてということになりますが、38カ所、それから市道管理の分が24カ所というふうになっております。その中で、対策年度、対策の内容等も定めておまして、この点検結果については、市のホームページで公表しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

作成して計画的に改良していくということで安心をしたところでございます。

そういった中で、新年度予算にも安全対策予算、ぜひとも反映をさせていただきたいと思いますが、前年度比増加をどのくらい見込んで対策を講じられる計画なのか。その辺は、それは今から当然、査定されていくかと思っておりますけれども、ぜひともこの分に関しては、増額補正をしていただいて、予算づけをお願いしたいと思いますけれども、御見解をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは政権がかわったら、この部分については、もう重点的に投資をしたいということをおっしゃっていますので、これにあわせて我々も補正を組むなり、新年度予算にしっかり反映をさせていきたいと思っています。ですので、やっぱりこれも広い意味でいうと防災なんですよね。ですので、これもしっかりやっていきたいと。

それと、先ほどありましたけど、橋の部分ですよね。一番今、頭抱えているのは橋なんですよ。うちの部長は石橋部長と言いますけど。これ本当に頭抱えていて、何かあったときというのはもう遅いんですよね。トンネルの落下みたいですね。ですので、こちらのほうを優先したいということを思っておりますので、ここは国と今度の政権がかわることを想定しつつ、今度の政権与党ときちんと歩調を合わせてやっていきたいと。今まで武雄市は冬の時代が続

きましたので、変えて、やっぱり武雄市民の皆さんたちが、ここに生まれてよかった、住んでよかったと喜んでくださるように、我々としてもしっかりやっていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

危険回避の優先順位というのは当然あるかと思えますから、その辺は市民の皆さんも御理解いただけるかと思えますから、その辺は計画的に優先順位、危険回避のために予算、また着工をよろしくお願いを申し上げながら、そういった中で、道路の危険箇所総点検には、3省庁が絡んでの早期点検ということで実施をされたかと思えますけれども、そういった中で、せっかくそういうような形で年1回の見直しをされて、今回そういうふうな72カ所の危険箇所が見つかったということですが、定期的な安全対策会議も武雄市としては開いていくべきじゃないかというような形で、合議制会議の定期的な開催をぜひとも持っていただきたい。その中には、実際、子育てされている当事者あたりも、またPTA、育英会あたりも入れていただいて、現場を十分に認識させていただいて、定期的なそういうふうな会議の中でハザードマップ的な部分の中で、危険箇所の対策を講じていただきたいというふうな思いもありますけれども、その辺の対策会議の開催あたりはどのような考えでおられるのか、御見解をお尋ねさせていただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

通学路の安全点検でございますけれども、これは学校ごとに毎年1回以上開いているという状況でございます。関係機関、それからPTAの保護者の皆様方を初め、道路管理者も含めて会議を行っているというところでございまして、今年度は定期的な1回の会議に加えまして、臨時的な点検も行ったということで、さきの議会でもお答えをさせていただいたところでございますので、今後とも関係機関の御協力を得ながらやっていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やはりこれに加えて、議員の役割というのはすごく大きいと思うんですよ。現場を一番知悉されておるのは、僕は議員さんだと思っておりますので、これ名前はあえて挙げませんよ、よく言ってくださる議員さんとそうじゃない議員さんと、名前は挙げませんが、やっぱりこの通学路のおかしなところといたことであるとか、例えば、空き家の話もそうですし、

さまざまな通学路もそうなんですけれども、それこそ、ここを早くしたほうがよかばいというのは、やっぱりおっしゃっていただくというのは、私は議員さんの役割だと思いますし、これは政治家である私の役割でもありますので、現場第一、やっていることが大事だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

わかりました。事故が起きてからは遅いわけで、十分な連携をとりながら、またお互い情報を発信しながら対策を講じていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

2つ目の子ども・子育て関連3法の具体化について話を進めさせていただきたいと思っております。

要は社会保障と税の一体改革のポイントが子ども・子育て関連3法の成立であります。中身を見てみますと、具体的には認定こども園の制度の充実、あるいは地域の子どもたちの支援をいかに充実させていくかということがポイントになっているようであります。本格実施は2015年度からということで、武雄市も万全な準備をぜひとも整えていただきたいという思いの中で、今回質問をさせていただきました。

要は、もう少し具体的に話をさせていただきますと、認定こども園、武雄市には14の保育園があります。それから5つの幼稚園、それから幼保連携の認定こども園が1園、三間坂保育園が認定こども園で1カ所。そういった中で、認定こども園の垣根が低くなったといえますか、今まで所管が2つあったんですけれども、その所管を内閣府に一本化をさせたということですね。そういった形で申請や補助金の交付、あるいは給付制度が簡素化になったということで、非常に垣根が下がって、その認定こども園の普及に非常にハードルが下がって、ニーズに対応しやすいようになったということもあります。

また、放課後児童クラブ、今まで小学校3年生まででしたけれども、これが拡充になって、小学校6年生まで拡充になるわけですよ。ただ、その中で、拡充するに当たっては、市町村が設備運営の基準を条例で定めることということになっております。また、そういった形で設置に努めることになっている一方、子育て支援は各市町村の業務として明確に位置づけられ、国と県はそれを支えていくということが明記されております。ただ、そういった形で、放課後児童クラブに関しては小学校6年生まで、2015年度から実施をされる計画ですけれども、ただ、その中に放課後児童クラブに関しては、いろんな問題も抱えているわけですね。質の向上には指導員のスキルアップが課題であるとか、あるいは非正規雇用による不安定さや低賃金も背景にあるということで、いかに指導者の雇用に待遇改善をしていくかということで、いろんなまだ課題が見える中で、要はその子ども・子育て関連3法を具体化していく

ためには、市長、平成25年度に合議制の会議を設置しなければならないとなっているわけです。ただ、中身を読んでいきますと、その合議制会議とは何ぞやとなってきたときには、子ども・子育て会議の設置と。ただ、これは子ども・子育て支援法第77条では、会議の設置は市町村の努力義務ということになっているわけです。しかし、武雄市においては、子育て支援をしていく、子育ての重要政策という位置づけの中で、ぜひとも努力義務じゃなくて、これは早々に平成25年度に合議制会議、子ども・子育て会議の設置を強く要望したいと思えますけれども、その辺の計画、御見解を市長、お尋ねをさせていただきますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

つくりますけれども、こんな市町村の努力義務と勝手に書かれていますけど、上から目線で。それはつくりますよ。つくるけど、こんなものつくっても、何の意味にもなりませんよ。というのは、考えてみてください。これ真面目な話、放課後児童クラブ、これどこの所管でしょう、厚生労働省なんですよ。学校教育はその時間までは文科省なんですよ。だから、こんな会議やったって、そこでまた縦割りの話になりかねないですよ。

それと、もっと問題なのは、この認定こども園はどこの所管かと、内閣府ですよ。保育園どこでしょう、厚生労働省ですよ。幼稚園どこでしょう、文部科学省でしょう。このばかな縦割りがあるから、全くニーズに即さないし、こんながちがちな制度をつくるということは、地方をばかにしている証拠なんですよ。ですので、僕この会議つくったら、反旗を翻すような会議にしたいと思っています。冗談です。ですので、やっぱりそこをもう少し、僕ら政治家は考えないといけないと思っています。僕がこれ恐れているのは、政権交代あったときに、また族議員が復活しますよ。幼稚園の族議員とか、厚生労働省にひもついている族議員というのは自民党が一番多いですよ。これは言わなきゃいけないと思います。ですので、諸外国見た場合に、フランス、カナダ、ドイツ、こんながちがちな制度をしているところないですよ。ですので、ここは僕は国交省は偉いと思っています。社会基盤の整備については、ある程度自由に我々の意見が酌みできるようになっているんですよ。だけど、この子育ての部分こそが縦割りの権化です。ですので、今度、政権がかわったときに、これは厳しく言っていこうと思います。今の政権は私が言っていることはほとんど無視されましたけど、今度の政権は我々が言っていることは多分聞いてくれると思います。聞いてくれなかったら変えたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私自身も縦割り行政の解消を今回のこの3法でぜひともさせていきたいという思いの中で

思っている状況であります。そういった中で、子育てニーズの調査をどこかで吸い上げていかないかということだと思うところであります。まさに子育て当事者の声もどこかで反映をさせていかなくちゃいけないということで、この子育てニーズの調査もぜひとも平成27年度からの本格稼働というふうな打ち出しの中で、平成26年の上期までは事業計画の策定をぜひともお願いしたい。そういった中で新年度予算での子育てニーズ調査費の計上もぜひとも確保していただいて、子育て当事者のニーズの声を拾い上げて、反映をしていただきたいと思いますけれども、その辺の御見解をいま一度お尋ねをしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

また国は何もならんことを言いよつとです、こうやって。もう次世代何とかプラン計画とか、エンゼルプランとか、全部これで失敗したじゃないですか。計画つくったって、単に計画書つくってあるだけです。私の机にも置いてあるだけです。しかも書いてある中身は全然とんちんかんなことを書いてあるから、そうじゃだめなんです。そうじゃなくて、やっぱり我々が日々のいろんな活動とかの中で、実際のお母さんとかお父さんのお困り事をその場その場できちんと聞くというのが役割で、調査をして計画をつくって終わりというのは、それはやめましょう。そうじゃなくて、やっぱりその場その場で、本当に目の前に困っている方々のもとを聞くと。それをその場その場の施策に反映する。できない場合はそれを吸い上げて、きちんと施策計画にちゃんと入れていくというのが、我々に課せられた役割だと思うんです。こんな計画ばかりつくっていたら、計画市役所になりますよ。ですので、そうじゃなくて、平成26年とか平成27年を待たずして、やっぱりその場その場でちゃんと対応をしていくというのが、樋渡市政の根幹であります。ですので、これもしやるとしたときも、もうそんな大がかりな予算を投下してじゃなくて、この前の図書館で1,000人のアンケートしたじゃないですか。あれって予算ほとんどただですよ、ゼロですよ。しかし、1,000人やって、4日間か5日間で大体集まるわけですよ。そういうふうにこれにいたずらに予算をかけるのではなくて、やっぱりそういうふうにニーズをきちんと承るというような仕掛けにぜひしていきたいと思っております。もう次世代何とか計画の失敗は懲り懲りです。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私もちょっと今からの質問に具体的に入っていきますけれども、資料が平成22年3月の次世代育成支援行動計画ですよ。この中に支援事業が皆さん幾らあると思いますか、事業が122ですよ。122の子育て支援事業が今実施をされている。そういった中で、ちょっと視点を変えて、合計特殊出生率、一人の女性が一生に産む子どもの数ですけれども、全国合計特殊

出生率が2009年度、1.37人、2010年度、1.39人、2011年度、1.39人ですよ。これと相関関係、これだけ事業を展開しながら、なかなか出生率がふえてこない。ただ、事業を実施しているがゆえに維持しているという見方も当然出てきますね。ただ、そういった中で、全国の平均の合計特殊出生率、武雄の今の合計特殊出生率は幾らになっているか、まず確認をさせていただきたいと思います。御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

武雄市の合計特殊出生率の過去20年度からの数値なんですけれども、平成20年度が1.73、平成21年度が1.75、平成22年度が1.90となっております、国の率に比べますと、かなり高い数値となっております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

このように全国の特出生率を上回っていると。しかもその特出生率が上がっているということに関して言えば、政策的な効果が一定あるというように認識しております。それ以上に、やっぱり武雄が今ブランド化しつつあるんですよ。いろんな具体的な政策はまだ追いついていないかもしれませんが、やっぱりこういう豊かな環境であるとか、例えば、びっくりしたのは、黒尾です。黒尾で今、物すごくまた人が移り住んできているんですよ。それで、なし黒尾に住むですか——別に嫌みを言うわけじゃないですよ。こういう話がありました。前はそこに第2保育園があったんですよ、良広さんとか、吉川さんとか、僕が見事な成績で出た朝日第2保育所があったんですが、第2保育所がなくなっても、僕はなくなったら、そこ来ないと思っていたんですよ。そしたら関係なかったですね、依然まだ家が建っています。それで、私ランニング途中で何人かに聞きました。何でここにお住まいなんですかと聞いたときに、もうびっくりしました。ここは雰囲気がいいと、あるいはここにもういろんな人たちが住んであられると。住んであられるけんが、そいけんが私もここに住みたいとなっておりますよ。ですので、ああ、やっぱりそういうことかということも一応思います。だから、政策のことは何もしないわけじゃなくて、そういう住みやすいというか、そういうブランドというのをさらにしていく必要があるだろうと思っております。

いずれにしても、この伸びていること自体は僕は喜ばしい。いろんな政策が生きているのかなということは思っております。こども部も一生懸命、宮本栄八議員さんから何もしない部とかと言われてはいますが、ちゃんとしていますので、寝ておられますけど、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

武雄市は全国を上回って、また年々増加ということで、非常に喜ばしいことだと思います。いかに住みやすい環境をつくっていくかということも大事な政策だと思います。ちょっと若木町の私の下村区ですけれども、うちのほんな上ですけれども、もう何十年と空き家ですよ。そこに佐賀から移住してこられるというような、もう年内にはこっち来られるというふうな話も聞いております。そういった形で、いかに住みやすい環境をつくっていくかということで大事な部分だと思います。

ただ、そういった形で、先ほど申し上げました支援事業と合計特殊出生率との相関関係です。これだけ122の事業をしながら、なかなか伸びてこない。そういった中で、いま一度支援事業を精査、検証して、私は少ない事業は廃止せろというふうな立場は一切ありません。かえってそういうところはもっとふえるような対策ができないのかどうかという部分の中で、そういった122の事業の統廃合といいますか、もう一回見直して、効果のある支援対策を打つべきと、また打っていくべきというふうな形で思っておりますけれども、その辺に対する御見解をお尋ねさせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

先ほど次世代の育成支援計画について御紹介していただきましたけど、120以上の事業でこども部のほうも中心に頑張っております。議員御指摘のとおり、やはり精査をして、効果的に進めていかないといけないというふうに思っております。例えば、今年度、出生祝金を見直したしまして廃止をいたしました。そして、その削減できた経費を活用いたしまして、今までは就学前までの子どもが対象だった乳幼児医療助成制度から、小学生、中学生までの入院を対象とする子ども医療助成制度とすることができました。議員おっしゃいますように、適宜に事業を見直しながら、より効果的な事業に進めていきたいというふうに思っております。今後とも御助言どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

この次世代育成支援行動計画も未来課がしている支援事業、それから福祉課、それから学校教育課と、いろんな課にまたがって、120以上の事業が展開されております。先ほど申し上げたように、もう一度精査をしていただいて、よりよい支援事業の充実を図っていただきたいということで思っておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げておきたいと思っております。

そういった中で、3番目の不育治療への公的助成についてお尋ねをさせていただきたいと思います。

まず、武雄市の不妊治療への公的助成はもう実施を今されております。そういった中で、今、不妊治療への公的助成の状況について、どのような利用状況なのか、ちょっとお尋ねをさせていただきたいと思います。御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

お尋ねの不妊治療への助成状況でございますけれども、武雄市では平成21年10月から不妊治療の助成を始めております。平成21年度で7件、平成22年度で25件、平成23年度で25件でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

どうしても産みたいけれども、なかなか子どもが授からないという思いは切実なる思いです。そういった中で、非常に通常お産と比べればもう何百万円という医療費というか、治療費の負担をされている中で、今回は不妊治療とあわせて不育治療、全国年間の出産数が約106万人子どもさんが生まれておられます。武雄市は昨年431人。その中で一般的に約15%の方が流産と、年間19万人です。厚労省の調査では、妊娠経験者の約38%が経験されていると。そういった状況の中で、不育治療で出産された場合は、通常のコストよりも20万円から30万円負担がかかるということの状況で、市長、不妊治療とあわせて、この不育治療にも同じ立場ですから、ぜひともこういうふうな形で手厚い助成をして、住みやすい環境というか、何としても子どもを産みたいという方々の思いをここで酌み取っていくべきだと思いますけれども、市長の御見解をお尋ねさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これも深刻な問題だと受けとめています。その一方で、これ市町村によって、じゃあこの市はやりますと、ここの町はやらないというのは、これはおかしいと思うんですよ。やっぱり住んでいるところで、これが区分されるというのは、僕はおかしいと思っていますので、この件については、ちょっともう一回政権公約を見てみて、国と県と一体となって、この件については行うべきだと思っていますので、ちょっと時間をいただければありがたいと思います。この件について、不育治療について、その重大性と深刻性については理解をしていますので、ちょっとお時間をかしていただければありがたいと思っています。

やっぱりこれ、不育治療もそうなんですけど、僕は介護保険とか、国保の負担も住んでいるところによって著しく違っているのは僕はおかしいと思うんですよ。日本国民なんで、それこそ全部国がやれと言うつもりはありません。それは自治体の努力というのもありますけれども、余りにも差があるじゃないですか。その矛盾がこの不育治療とかにまた出てくるような気がするんで、もうそれこそ公明党さん、よろしくお願いしますよ。いいですか。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういった中で、保険適用外への不育治療費の助成をとということ、ぜひともよろしく願いをいたします。

全国でもまだこの補助をやっている市町村は50ぐらいしかありません。そういった中で、地方分権もいいでしょうけれども、やっぱり国でやるべきところは国がちゃんとやっていくのが当然の国の責務だと思いますから、その辺は公明党も頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。（発言する者あり）本当ですよ、地方分権は分権でいいです、国でやる場所は国で、きちっと守っていくべきと私も思っております。

それでは次に、利用者の負担の軽減ということで、子育ての反面、要介護の方、要支援の方に対する対応について、関連で申しわけないんですけども、お尋ねをいたします。

介護保険の対象で、福祉用具、それから住宅改修費に関しては、費用の補助が実施されております。限度額が住宅が20万円、用具が10万円ということでされておりますけれども、これが償還払いと受領委任払い制度、2つの方法があるわけですね。償還払いというのは、まずもって業者に全額支払って、後で9割をいただくと、申請後にいただくと。要するに1割負担ですね。ただ、限度額が住宅改修に関しては20万円ということですね。ただ、受領委任払いに関しては、業者に1割の負担でいいわけですよ。要するに住宅の場合は、仮に20万円かかっても2万円がいいわけですね。全額一時立てかえる必要ないわけですよ。そういった形で住宅に関しては2つの選択制がなっています。両方いいですよと。受領委任払い制度もしていただいておりますけれども、要は福祉用具は償還払い、受領委任払いになっていないわけですよ。同じ制度ですから、同じ状況なんですけど、福祉用具の購入に関しても、ぜひとも受領委任払い制度の実施を早急にしていただきたいと思いますけれども、その辺のお考えをお尋ねさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

ただいま御指摘のありました福祉用具購入につきましては、杵藤地区の介護保険事務所の

担当ではございますけれども、今、議員さんおっしゃいましたように、受領委任払いにはなっていないところであります。なぜなっていないかということで、事務所のほうに問い合わせをしながら話をしましたところ、来年の4月から実施したいということでございますので、御報告したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

来年の4月から実施ということで、利用者は喜んでいただけるかと思えます。

そういった中で、第5期の介護保険事業計画も冊子がございます。その中で、住宅改修に給付された金額が平成23年度で7,500万円ですよ、利用が。それから福祉用具の販売が1,700万円ということで、非常に利用が多くなっております。そういった中で、武雄市も武雄市介護予防住宅改修助成事業が実施をされております。要は、これは要支援、要介護の認定を受けた方しか利用ができないわけですよ。しかし、要介護、要支援のぎりぎりのところの方々も何十人といらっしゃいます。何とかお世話にならんで、自力で自分もまだ頑張るよと言いつつながら、なかなか手すりがあったら、またよかばってんねとか、階段が上がりづらいという方もいらっしゃいます。そのぎりぎりの認定を受けられない、そういうふうな65歳以上の方に、武雄市単で武雄市介護予防住宅改修費助成事業というのが実施をされておりました。申しわけなかったんですが、私も知りませんでした。今回こういうふうな形で、武雄市もこういうふうな武雄市介護、ただ条件的には、要支援、要介護と判定されていない65歳以上の方が対象ですよ。ただ、助成の条件としては、高齢者のみの世帯、あるいはこれに準ずる世帯、所得税を課税されていない構成がされている世帯、また改修費用の額に100分の90を乗じて、最高限度額が5万4,000円ですよというふうな制度ですから、そういうふうな方もぜひ利用をしていただければと思いますので、この場をおかりして紹介をさせていただきたいと思いますので、どうかよろしく願いをいたします。

それでは、1問目の質問を終わらせていただいて、2つ目の公会計制度の統一についてということで質問をさせていただきます。

これは初日の古川議員のときに、下水道、農業集落排水、それから戸別浄化槽の事業の一元化ということで、私も常々、四、五年前から訴えていたことが、やっと答弁で一元化するというので御答弁をいただいたところですけども、市長、もう一步踏み込んで、この会計制度も検討していくべきということで思っております。要は水道事業会計は公営企業会計ですよ、下水道事業は特別会計。公営企業とは何ぞやということですよ。公営企業とは、要は自治体が経営する企業ですよ。具体的には地方財政法施行令第37条にある13事業ということで定めがあります。水道事業、工業用水事業、交通事業、それから公共下水道事業、13事業ですね。これは地方財政法第6条で、独立採算性を基礎とする定義がされております。そ

ういった中で、ただ、公営企業法では、全部適用と任意適用ということで選択がされております。全部適用としては、水道事業、工業用水事業ですね、任意適用としては公共下水道事業。武雄市では、上水道会計は公営企業会計、下水道事業は特別会計ということになっております。

そういった形で、そしたら特別会計と公営企業会計の違いは何かと見たときに、ちょっと調べてみました。予算区分がどこが違うのかとか、経理方法がどう違うのかとか、また資産の把握がどう特別会計と公営企業会計と違うのかということ調べていくと、予算区分では、特別会計では歳入と歳出しか区分がないわけですよ。公営企業では損益、赤字か黒字かとわかるわけですよ。しかし、特別会計ではわからない。歳入歳出区分だけですから。また経理方法に関しては、特別会計は単式簿記、公営企業では複式簿記。単式簿記とは具体的にかわりやすく言えば家計簿ですよ。現金の増減のみ。複式簿記は現金の増減と資産をその現金で幾ら保有したのかどうかというのが複式簿記。また資産の把握、特別会計では幾ら資産を抱え込んでいるかわからない。武雄市も一般会計も幾ら財産があるかわからんとですよ、今。武雄市の財産わからんとですよ。財産台帳はあります。しかし、原価が幾らあるかわからない。公営企業会計では減価償却管理ですから、財産が幾ら、明確にわかるわけですよ。

そういった中で、下水道事業の健全化、健全化と言いますけれども、健全化は、要は特別会計ではその経営がどういう状況なのかわかりづらい。また歳入と歳出、ほぼ一緒なものですから、どこに問題点があるかわからんとですよ。部長、その辺どうですか、わかりづらいと思われていますか、御答弁いただきたいと思っておりますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

公会計制度でございますが、今の制度と並行して2年前から決算後、分析を行っております。言われるように、今の制度は非常にわかりづらいというのは言われております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ別に上水道とか下水道にかかわらず、本当にわかりにくいんですよ。国の予算であるとか、県の予算であるとか、決算もそうなんですけれども、石原都知事が、今、東京都の会計制度を変えて、これで大分無駄が出ていると。先ほど松尾陽輔議員さんからあったように、無駄な部分がこれでわかるということになっていきますので、これで恐らくわけのわからん総務省がやっていくと、今までいろんなアドバイスあったんですけど、やっぱりわからないんですよ。わからない。企業会計見ると、これはわかりますよね。どれだけ資産があって、どれだけ現金の流入があるかというのがわかるんですけども、どうしても全く企業とは一緒

にならないですけど、それをとっても非常にわかりにくいというのがありますので、一旦これ市がいろいろこねくり回すよりは、全体、特別会計とか一般会計とか、僕は分ける必要ないと思っているんですよ。要するに入り口を一緒にして、あとの財布の部分に分ければいいだけであって、全体としてどうなのか。

だから、よく市の総借金幾らだと言われたときに、誰も答えられないんですよ、実は。定義すらないんですよ。だから、これイコール地方債の残高と我々は基金の積み増し分というふうな定義をしていますけど、総借金と言った場合にね。それすら各自治体でも定義、やっぱり違うんですよ。それは議員がおっしゃるように、会計制度がそれに対応していないんですよ。ですので、あれわざとわかりにくくつくったんですよ。こう素人さんがわからないように。ですので、これは今度、やっぱりこもただしていきべきだと思います。ただ、これ自民党は全くこれは関心ありません。関心があるのは維新の会と公明党なんですよ。維新の会も石原さんが関心あるんですよ。ですので、それもよくいいところは取り入れるというところで、これは武雄市だけじゃなくて、それこそ比較ができるようにしなきゃいけないんですよ。例えば、伊万里市とうちの水道事業どうだというふうな比較ができないと、武雄市だけが一部分こねくり回しても、それは余り意味がないので、ただ、そうは言っても現状よりわかりやすくするような努力はきちんとしていきたいと思います。そういった意味で、企業会計に精通している松尾陽輔議員さんを初めとして、議員の御知見は十分に踏まえたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今の武雄市の一般会計でも非常にわかりづらい。若干私も精通したつもりですけども、なかなかどこに問題点があるのか、非常にわかりづらいですね。そういった中で、下水道事業、今からというか、総事業費は何と85億円の事業ですよ。85億円の事業、お金を投じていく中で、どこに問題があって、どうやった形で健全化をしていくかということは、やっぱりこの企業会計で見て行って、料金の適正化もここで決めんといかんとですよ。特別会計の実態が見えない中で、料金をいかにしていくかとか、そういう議論はできないわけです、実際問題。企業会計で幾ら使用料があって、幾ら経費がかかって、幾ら赤字が出ているのかどうか。それと財産がどれだけあって、いつごろまたその財産を回収していくのかというふうな、いろんな財務諸表があってこそ計画というか、使用料の値段も決められるわけですよ。

そういった中で、この企業会計をすることによって、事業の運営に必要な経費が使用料で賄われているかどうかは明確にわかるわけですよ。特別会計決算ではわかりませんよ、これは。またそれを事業を形成している資産がどれだけあって、それを構成している財源はどこで賄っているかというのが貸借対照表。これで判断して使用料を決めていきべきだというふ

うな形で思っておりますので、ぜひともその事業の一元化とあわせて、この辺の会計制度も一、二年ではできませんよ、これは。5年、10年のスパンの中でこういうふうな会計制度の組み替えというか、移行もしていくべきだと思いますから、事業の組織化の一本化ということもするという事で市長もおっしゃっていただきましたけれども、あわせてこの辺の会計制度の見直しも勉強をしていただいて、市民に説明責任が当然出てくるわけですから、要は事業体も経営というふうな視点が今から非常に出てきます。そういった意味で申し上げましたように、いろんな下水道、上水道事業あたりは公営事業ですから、企業ですから、やっぱり市民にわかりやすい説明とわかりやすい決算書の中で、使用料のこういう決め方によって、先ほど市長もおっしゃったように、伊万里市とか鹿島市とか佐賀市と、どういう状況なのか、比較ができんわけですよ、今の特別会計では。まさに他市とは比較できない。この企業会計があれば、他市とどこが、うちが問題があるのかどうかというのが原因がわかってきますから、ぜひともあわせてこれはお願いしたいと思います。

また、企業会計のあわせて上水道事業との組織の統一をとということで私も提案をさせていただいて、これは古川議員のほうにも御答弁をいただいたので、割愛させていただきますけれども、この下水道事業との組織の統一化を新庁舎とあわせながら計画していただければ、よりよい効率化が図られるかと思えます。

また、技術者も恐らく違うと思えます。それで、技術者の育成も交流も、上水の技術者、また下水の技術者もいらっしゃるかと思えますから、お互い交流をし合いながら、対応できる体制をぜひともつくっていただきたいと思えますので、どうかよろしく願いをいたします。

それでは、3番目の指定管理者制度についてお尋ねをさせていただきたいと思えます。

今、指定管理に委託しているところが7団体ですか、今回、図書館問題といいますか、図書館のCCCで8事業団に指定管理者の指定をされるかと思えますけれども、この指定管理の話の前に、57歳の若さで亡くなった歌舞伎界の第一人者と言われる中村勘三郎さんが生前おっしゃられた言葉をちょっと紹介させていただきますと、「古い伝統、歴史を承継、守りつつ、一方では、この歌舞伎を子どもから若い人たちに、今に合った新しい歌舞伎に挑戦し、身近に見て、知っていただくことが私の仕事でもある」ということでおっしゃっておいりました。市政も全く同じ状況で、市役所も、また図書館も、今に合った新しい形づくりが当然求められるというか、市民のニーズも多様化してきていますから、そういった状況の中で、形づくりが必要だと私も思っております。市長、2歩進んで3歩下がれば後退ですから、常に市政も前進ということだと思いますから、ぜひとも3歩進んでいただいて、2歩下がるところは2歩下がっていただくということも大事なところだと思いますから、ぜひともよろしく願いを申し上げながら、きのうから質問も出ておりますけれども、図書館の蘭学館が閉鎖と。私もたまに蘭学館に行きますけれども、貴重な財産があるわけですから、そこに。閉鎖する

んですか、市長。ちょっとこの記事に対して、御答弁を、見解をまずお聞きしておきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁に入ります前に、緊急情報ネットワークシステムが武雄市に参りまして、先ほど9時55分25秒受信日時で、これは官邸の危機管理センターからでありますけれども、先ほど北朝鮮の人工衛星と称するミサイルが南方向に発射されました。続報が入り次第お知らせしますということですので、まず報告をしたいと思っております。また、続報が入り次第、この場でもまたお伝えをしたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

答弁に入りたいと思います。けさの佐賀新聞には驚愕しました、本当に。あそこは本当に僕のことを嫌いなんです。病院問題のときからずっとそう。記事はまともですよ、記事は真っ当です。ですが、こんなことを書いちゃだめですよ、「蘭学館閉鎖へ」と。（記事写しを示す）これは佐賀新聞じゃなくて、詐欺新聞ですよ。僕、本当に怒っています。報道機関の役割というのは、批判はいいです。批判はいいんだけど、こういうセンセーショナルリズムとか、このごろ佐賀新聞、それ多いんですよ。福祉避難所もそうですよ。病院問題なんかずっとそうですから。ですので、批判はいいんだけど、批判以上のことをやると、それはやっぱり僕はだめだと思いますね。これは徹底的に僕言います、これから。一旦書かれたことに対しては、やっぱりこれ取り消しできないですもんね。できません。ですので、これはあちこち僕も割と性格はしつこいほうですので、これは言います。めったに怒ったことはないんですけれども、これは怒ります。

正確に言うと、（資料を示す）今度条例改正のときにまたちゃんと御説明いたしたいと思うんですけれども、今の蘭学館というのが、入って正面のところにあります。これが今です。今度、しようと思っているのは、今の蘭学館というのは図書館のスペースにします。この図書館のスペースに位置づけて、ここでCDとかDVDのレンタルをする。じゃあ、さすれば、ここの蘭学館のものについては、どうするかというと、今の企画展示室とメディアホールを改めて蘭学・企画展示室にしようと思っているんですよ。そこにお引越すするんですよ、暫定的に。しかもこれはきのうも申し上げましたし、1年ぐらい前から言っていますけれども、新庁舎にあわせてこの蘭学館というか、企画展示室というのをきちんとつくりたいというふうに言っているわけですよ。ですので、これはぜひきょう多くの方々、私のところも早速連絡ありましたけれども、誤解はしないでいただきたいと思っております。佐賀新聞読むのやめようと思っております。

もう1つ、官邸危機管理センターからですけれども、受信日時が10時02分50秒、北朝鮮の人工衛星と称するミサイルは、先ほど沖縄県上空を通過した模様。続報が入り次第、お知ら

せしますということでもあります。

ちょっと長くなって恐縮なんですけれども、これ平成9年3月に、武雄市と教育委員会がまとめた武雄市図書館・歴史資料館建設基本計画というのがあるんですよ。そのときに蘭学館の位置づけというのが、（資料を示す）このような位置づけになっているんですね。あの蘭学館のスペースでこれは無理です。ですので、上げた上で、しかも将来的には申し上げたように、ちゃんときちんと展示しようというふうにしているわけですよ。ですので、今までの武雄が持つ蘭学のというのが、あのスペースの関係上、なかなか見れなかったということと、あれ実は資料ごとの専門家に言わせれば、あそこできちんと保存はできないんですよ、保存しながら見せるというのは。湿度の関係等々ありますので。ですので、それをきのう吉川議員にもお答えしましたけれども、横のほうに広げて展示しようとしているということなんで、それはぜひ御理解をお願いしたいと思っております。

ちょっと最後にしますけれども、不適切な発言がまたいつものようにあったかもしれないけれども、我々は本当に武雄の歴史とか文化とか、それを一生懸命守ろうと。しかも広い意味で一人でも多くの市民にしようとしているのに、この蘭学館が閉鎖という記事については、許しがたい行為だと思っておりますし、ぜひ佐賀新聞はこれについて、反論を書いてください、もう本当に。読みません。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ちょっと私も見出しで「蘭学館閉鎖へ」ということで書いてありましたから、私も何でというふうな思いが、きのうの答弁からちょっと確認をきょうさせていただいて、閉鎖ではないということで安心をさせていただきました。ぜひ歴史あるものですから、守っていただきたいということをぜひ申し上げておきたいと思えます。

それでは、指定管理者制度について。また原点に戻って、指定管理者制度の導入の目的は、当初、何であったのか、いま一度確認をさせていただきたいと思えますけれども、よろしくお願いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

この制度につきましては、市民の皆さんの多様な要望に効果的に、効率的に応えるために、公の施設の管理に民間団体の能力を活用して、住民サービスの向上を図ると。これとともに経費の節減も図るということから、この制度はつくられたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

制度の目的は、民間のノウハウを導入して、住民サービスに十分に役立てていきたいということと、一方では経費の削減ということが、私もその辺は確認をさせていただいたところでございます。ただ、そういった中で、今後の導入予定はということで、市営住宅管理業務の委託ということで、これは黒岩議員のほうからも話も出ておったかと思えますけれども、文化会館の運営、あるいは公民館も指定管理制度で時間が不規則なものですから、いろいろな幅広い、今後、指定管理者のあり方ということで、計画立てて対応の方針を明らかにしていただければいいかと思えますけれども、その辺の対応に関して、御見解があればお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

指定管理者制度を導入したからといって、うまくいくということにならないですね。これはあくまでも道具なんで、どこがするかということが大事だと思うんです。それで今まで、私、市長に就任して以来6年半、いろんな答弁とかさせてもらっていますし、いろんな地域、北方町であるとか、花島であるとか、いろんなところに行きますけれども、そのときに地域のパワーがすごいんですよ。ですので、例えば、放課後児童クラブを婦人会が請け負う。そうすると、婦人会のパワーを生かして、そうすると、すごく近いじゃないですか。お母さん世代の方々、あるいはお母さん世代を卒業されたと言ったら語弊がありますが、そういった方々が、おじいちゃん、おばあちゃんですね、見方によればね。そこと接するというのも僕はありだと思っておりますし、例えば、まちづくり協議会、いろんなあるじゃないですか、武雄町まちづくり協議会が。そこが市のどこかの部分を指定管理者で請け負って、だから今、指定管理者は全国的に見た場合に、こういった財団とか事業団とか、そういったところが多いんですよ。図書館でいった場合には大きな企業さんとか、今度、CCCもそうなんですけれども、あるいは丸善とか紀伊国屋とかもそうなんですけど、考えてみた場合に、今の武雄市のすごいところは、やっぱり老人会の皆さんたちがむちゃくちゃ元気ですもんね。老人会の皆さんであるとか、婦人会の皆さんであるとか、まちづくりの団体であるとか、女性ネットワークの方々とか、そこに指定管理者に手を挙げていただければ、やっぱりもっと、特に放課後児童クラブの場合は僕はそうだと思うんですよ。ですので、実際、多分そういったこと念頭になかったと思うんですよ、婦人会の皆様方とか。それをやっぱりできない理由よりは、できる理由を僕らがやっぱり指し示すということが大事だと思います。それによって地域の連携とか、これはよく上野議員とか山口裕子議員が女性の目線でおっしゃっていますけれども、そういう連携をこの指定管理者に生かすということが、僕は今すごく武雄ではこれはできるんじゃないかなというのを御質問承りながら思っている次第であります。

今度、防衛省の情報で、落下物が10時5分ごろ、フィリピンの東約300キロの太平洋で落下物が確認をされました。これは防衛省中央指揮所の情報であります。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

国民の生命と財産を守る報道ですから、ぜひとも優先をしていただいて、逐次情報があれば、中断されて結構ですから、よろしくお願いを申し上げながら、地域力は非常に大事な財産だと思います。若木の大楠公園も地域力で運営をさせていただいております。ただ、具体的にはいろんな課題もまだまだ非常にあります。そういった中で、地域の婦人会とか、いろんな形の活力というか、地域力を生かしていただいて、指定管理の業務委託も一つの検討の方法だと思いますけれども、せんだって視察で香川の丸亀市の福祉事業団に視察をさせていただきました。そこはちょっと財団のコンセプトを読ませていただくと、昭和51年に丸亀市民会館や総合会館、現在の生涯学習センターの管理運営を行う組織として設立をされ、その後、丸亀市の発展にあわせ、競艇場の売店業務、あるいは市営駐車場、市関連の事業経営を次々と受託し、今や非常勤職員も含め200名を超える大集団となった。その中で、加えて平成20年9月には、一般労働派遣業務の認可を受けて、丸亀市役所の総合案内、あるいは図書館等に人材派遣まで進めた。また平成22年4月からは公益財団の認定を受け、新たに公益財団法人丸亀市福祉事業団として、再スタートをしました。今後は、収益事業のより一層の強化を初め、活動財源を寄附金や市からの補助金に依存するのではなく、この辺が大事な部分ですね。活動財源を寄附金や市からの補助金に依存することなく、自主財源により活動する、いわゆる自立した公益財団法人として、丸亀市へのサポートのみならず、幅広い分野で積極的に活動して展開をしてまいりたいと思いますというふうな形で、丸亀市はこういうふうな形の展開をされております。

要は、指定管理者の受託が、市民会館、それから総合文化会館、生涯学習センター、それから児童館、放課後留守家庭児童会、それから丸亀市の市営駐車場、それから労働派遣事業、それから競艇売店事業と、ありとあらゆる分野で、要は行政と一体となってここは引き受けられて、自分たちの努力によってもうけた分は公共事業に投資していくというふうなコンセプトの中で立ち上げて、非常に成功しているところです。ここはまさに制度の目的である民間のノウハウを導入して、市民ニーズに応えながら、経費削減に努めると。みずから稼いだお金は、そういうふうな公共事業に投資してというふうな、この公益財団法人の福祉法人ですね、こういうのも一つのやり方ですよ。先ほど婦人会というふうな方法論もありますけれども、この財団法人と、福祉財団ということも一つの選択肢といたしますか、今後考えるべき、こういうふうな形態だと思いますけれども、私もこの前、11月にここに行った限りで、もう少し情報を収集しながら、こういうふうなところにも委託をすれば、もっと幅広くすば

らしい指定管理というか、いろんな市民ニーズも拾い上げながら、また地元雇用も200人の地元雇用ですよ。そのような中で、事業の展開が、また先ほど申しあげました行政との連携、事業の収益、また連携の強化といった形での枠組みができるかと思えますけれども、市長、これに関しての御見解があれば、御答弁をお願いしたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

実はこの公益社団法人、公益財団法人は、私、一人でやっているわけじゃないですけど、総務省時代の最後の仕事だったんです。これをつくるに当たって、やっぱりいろんな方々のお力、お知恵をかりたんです。ですので、これが自分が一角に加わった制度、指定管理者も実はそうなんですけど、加わった制度は、こういうふうに使われていると、本当に生みの親としてはうれしいですよ。親も100人ぐらいいますけど。やっぱりうれしいというか、すごくああよかったなと思えます。だから、国はもう少しこういうさっきの子どものあれじゃなくて、こういう使い勝手のいいのをつくっていかなきゃいけないなと思いました。

これ正しいと思えます、本当に正しい。もういづれにしても、全部市とか町が丸抱えでできる時代というのは過ぎます。じゃあ、かといって民間ができる、あるいはNPOができるかといったら、そこはまだ無理です。したがって、こういう公益財団法人とか社団法人がそこを担うということについては、非常に僕は正しいと思っています。ですので、これについては、勉強会をきちんとやりたいと。民間の皆さんたちも入れて勉強会をする。これが起業になればいいなと思っているんですよ、実は。ですので、名前を挙げて恐縮なんですけれども、CSOの中間支援団体で頑張っている中村直子さんとか、ああいう人たち、特に女性の皆さんたちがこれをやりたいというふうになれば、物すごく支援はしやすくなるんですよ。これが我々がつくって、はいござい、だったら、僕もそんなに好かれているわけじゃないので……（発言する者あり）ああ、そうなんですか。ですので、そんなにもろ手を挙げてというのではないと思うんですけど、やっぱりこれは民間の皆さんたちの草の根の自主性を手を挙げる。こういう制度がありますので、これについては、支援をしたい。それと、今度うちも退職者が結構出てきますので、そこには加わってもらおうと思っております、無給で。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

職員さんというか、200名いらっしゃる中で、市の職員さんもいらっしゃるんですか、一切おりませんということですよ。そういった状況の中で、ぜひともこれを見ていただい

る起業家の方は手を挙げていただいて、こういうふうな立ち上げをぜひお願いしたいと思います。資料もいただいてきました。事業報告書、それから決算報告書、事業計画及び収支予算書ともすばらしいものですよ。コンセプトがすばらしい。先ほど申し上げたように、丸亀市のサポートのみならず、自治体のサポートのみならず、幅広い分野で積極的に展開をしていくという形で、将来のあるべき姿がここにあるんじゃないかということで視察をさせていただきました。市長の前向きな答弁をしていただいて、ぜひとも私も今から申し上げたように、11月、研修させていただいたばかりですから、これは追っているんな形の質問の中で、提案をさせていただきたいということを切にお願いを申し上げて、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で6番松尾陽輔議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備等のために10分程度休憩をいたします。

休	憩	10時19分
再	開	10時29分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、23番黒岩議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

おはようございます。黒岩幸生でございます。一般質問も3日目になりますと、いろんなところが重なり合って、非常にどうしようかなと思う問題もございます。しかし、原則はお互い改革するため執行部に質問しているわけでございますので、重なるということはいいことなんですね。非常にその主張が重なっていくというのは大変うれしいんです。けれども、中には全く反対の主張をされているということで、きのうは北方の町民の皆さんと何人か会ったんですけども、非常に神経を逆なですると、そういう質問もあったわけでございます。やっぱり一般質問というのは、皆さんは武雄市というコップに、一般質問という場に水をつぎ注ぐというような質問がいいんだと思いますね。コップを揺すぶって、水をこぼして何になるかと、ぜひとも考えていただきたい。無理ですかね。

一般質問を始めたいと思います。（全般モニター使用）

皆さん、「日経ビジネス」（現物を示す）で見られた方、おられますか。この中に「次代を創る100人」、世界から100人なんですよ。武雄市からじゃないですからね。これは、第1番目にこういうふう書いてあるんですね。「次代」てこの字ですけどね、次の代を創る、「次代を創る100人」ということを書いてございます。この1ページ目に、第一人者は何といてもこの方ですね。これは似とうごたるですね。ああ、聞こえたですかね。いやいや、

孫正義さん、ソフトバンクの社長ですね。第1番目ですよ。次に見てみてびっくり、14番目、こここのところですよ。我々の武雄市の市長が載っておる、14番目。世界の100人の中ですよ、14番目ですね。これは最初言い忘れましたけれども、改革者、物事を改革しているということで紹介をされております。そして、その後にと言ったら怒られますかね、19番目、大阪の橋下市長さんが載っておられます。さらには、今度ヒーローという中で、これ私、間違えた。内村航平選手ですね。逆さまじゃなかったですよ。体操選手やけん逆さまなんですね。さらには、権力者としてロシアのプーチン氏とアメリカのオバマ氏が載っていますね。そういう中に100人が載っているわけでございますけれども、この「日経ビジネス」に改革者と市長さんが紹介されているわけでございますけれども、このことに対してどのような感想をお持ちか、まず最初の質問といたします。よろしくお願いたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

実感はゼロなんです。というのは、私は一介の首長です。人口5万1,000人の皆さんたちから選んでいただいた一介の首長ですし、橋下さんとか、プーチンとか、大きいところの人じゃありませんので、本当に一地方自治体の長というふうな認識しか持っていないんです。ですが、ここに取り上げていただいたのは非常に名誉なことだと思っております。これは私だけじゃなくて、武雄市民の名誉だと思っております。選んでくださった武雄市民の皆さんたちに対する、これは荣誉だと思っております。

ただ1点、これは、私は黒岩幸生議員さんを尊敬していますけれども、病院問題のときに、これは本当に学びました。山口昌宏議員さんからも学びましたけれども、やっぱり自分のためじゃなくて、人様のために行うと。目に見えない方であるとか、目の前にいる方がどうやったら幸せになっていただくかということはずっと考えています。ですので、私はリコールも食らいました。住民監査請求というわけのわからんものも食らいました。あるいは、今訴訟も21億円がダンプングして9億円ぐらいになっていますけれども、そういうさまざまな誹謗中傷もいただいています。ですが、もう全然、全く気にならない。というのは、そこに目の前にあるのが市民の皆さんたち、広く言えば地域の所得向上を含むとする市民価値の向上しかありませんので、むしろそういうわけのわからん誹謗中傷は、乾布摩擦、皮膚感覚を鍛えるという意味でね、それは非常にありがたいと思っておりますし、ただし、その誹謗中傷の中にもすごい意見もあるんですよ。これについては柔軟に取り入れていくということを考えています。まさか「日経ビジネス」で評価をされる、しかも、頼んでもいませんけど、「AERA」で「日本を立て直す100人」にも選ばれたということ、それは日本を立て直す前に、おまえの性格を立て直せというふうに言われました。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

性格は直さなくていいと思うんですね。いいと思うんですよ。今の性格だからできたことと思うんですから、考え方の違いですけどね。

ただ、市長に言いたいのは、もしそういうことであれば、例えばパソコン導入、これも苦勞しながら吉川委員長の中で決めたわけですよ。私は執行部がずらりとみんな持ってくると期待しとったですね。議会はそれぞれ個人ですので自由ですが、ここは市長が一口言えば皆持ってくると思います。残念でたまらんのは、誰と言いませんけど、前回、部長さんがモニターできれいに説明していただいた。それは市民のためなんですね。我々もわかりやすいけど、そういうことをしていただきたい。そのためにやっぱり持ってくるということをしなければ、副市長さん、教育長さん、あなたたちが持ってこんぎ、やっぱり後ろんにきは持ってくるにいか。昼休みからいいじゃないですか、今度次のとき、全部持ってきてください。そう思うんですね。まだ配線してなかけんね、それはああばってん、やっぱりやってください。

それは先ほど聞いていて思った。蘭学館の問題ですよ。話は横に行きますけれども、蘭学館の問題、市長さん、一生懸命だと思う。真面目ですよ。

〔市長「はい」〕

一生懸命書類を見て言いよんさった。見えんとですよ。私、目も悪かですけどね。きのう使ったモニターを使っただけであれば、ここに何を持ってくると、市民の皆さんがわかると思うんですね。ぜひともお願いしたいと思います。

今回、私は6件について質問をしたいと思います。

まず、市長の政治哲学ですね。普通、政治姿勢て言いんさあですよ。そいどんが、私は市長さんにね、先生のふりして、おい、姿勢を正せという話じゃありませんので、市長さんの政治哲学ということで聞いていきたいと思います。

それから、IT行政推進についてでございます。これ毎回言っておりますけれども、3D検索の実用化ですね。実践に向けてやっていくという質問でございます。

シェアハウスについて、この問題につきましても、今まで答弁の中で起業家がかなりここに注目しているんですね。今、武雄が注目されています。ぜひともこの建設に向かってやっていただきたい。

交通安全対策については、先ほど松尾陽輔議員が言われましたけれども、少しだけ目線が違うところで話してみたいと思います。

5番目はスポーツ中心のまちづくり、スポーツ中心ということはスポーツマンシップですね。よどんだと言いませんけれども、何とか武雄市がぼっと明るい雰囲気にはならないものかということで、半年以上このことを言っておりますけれども、ぜひともスポーツ中心のまちづくりをしていただきたい。

それから、6番目は放射能問題についてでございます。今の訓練状態では、武雄市民を放射能の被曝から守ることはできないという主張を1年近く続けておりますけれども、今回も続けたいと思います。

これ、市長さんがこの「日経ビジネス」に載った背景でございますけれども、実は武雄市立図書館の問題が書いてあつたんですね。ここにCCC指定管理者、そしてスターバックスを入れた、このことが「日経ビジネス」に載ったんですね。これイメージ図と書いておりますけれども、本来は、これだけすばらしい表紙ですので、これを入れたかった。これはできないんですよ。だから、私は下手ですけども、要は「日経ビジネス」の中でここですね、「次代を創る100人」ということでございますけれども、中身的にはこのように書いてありますね。「次代を創る100人」、この下がすばらしいんですけども、「我々は、絡みつく鎖を引き裂き、まだ見ぬ未来へと導いてくれる先導者を求めている」、こういう書き方の100人なんです。これに選ばれているんですよ。これは市長さんですね。写真を変えました。この中のものをもらうわけいきませんのでね。これ市長さんの顔、やっぱりよか顔していますね。アップしますと、もっとよかですね。笑顔のよかです。この顔が似合うですよ。

この中に実はこういうふうにかかれてる。「樋渡啓祐さんを見ていると、本当にタブーがないんだと思う。公立図書館にスターバックスを誘致」、これからのことですけども、「ゆったりした空間でコーヒーを飲みながら本が読めれば、それにこしたことはない」、「ゆったりした空間でコーヒーを飲みながら本が読めれば、それにこしたことはない」とおっしゃっているんですね。陸前高田の市長さんはこのようにおっしゃっている。

ちょっと横道にそれですけども、どういうことだったかということですけども、ここ武雄市立図書館ですね。ここに図書館とコーヒーということでスターバックスだと、この話が6月議会でけんけんごうごうやったわけですけども、CCCプラススターバックス、このことが本に紹介されているんですね。

振り返ってみますけれども、5月4日だったんですね、武雄市が図書館委託を計画、市長さんが合意をして決めてきたんですよ。このことは後で触れますけれども、それはCCC、つまりTSUTAYAを運営している会社を連れてきた。そして市長さんが一番気に入られたと思うんですけども、年中無休、開館4時間延長、利用カードはTカードを利用、このTカードもめますけども。このことですね。年中無休、開館4時間延長、Tカード、Tポイントがもらえますという話ですね。さらに、費用効果1億2,200万円ですよ。きのうやったですか、おとといやったですか、1,000万円と言った人もいますけれども、年中無休、4時間延長して、さらに費用が今より安いわけですから、上、下を比べたら1億2,200万円なんですね。

〔市長「そうです」〕

このことを見た佐賀市の方が、うちを見たときね、うちもぜひ直営でしてください、佐賀

市は言われて、今検討されていると思うんですね。これ皆さん注目しておっていいと思います。1億2,200万円余計出せばできますけれども、そのところなんですね。そういうすばらしい恩恵をこうむるということですね。これが我々の賛成論。

一方、これこの前の9月定例議会、これ私ですね。ちかっと毛の薄うないよるばってんが、これが4つですね。大体4本の柱で6月議会で反対をされたんですよ。それをモニターができたために、いろんなことが詳しくここで説明されますので、9月議会で説明した様子ですね。

まず、個人情報漏えいする、これはちゃんと個人情報保護審議会ですか、弁護士さんは松尾弁護士さんやったですか、問題ないとおっしゃった。この中で個人情報というのは、先ほど言いましたTポイント、きのう少し市長さんの説明と違ったと思う。私が思うのは分析装置ですね、嗜好調査、例えば、黒岩幸生が放射能の本を借りていったというときに、放射能の新冊が出たときには教えてくれる、アマゾンもやっていますよね。ほとんどの人はみんな助かるて言いんさっです。図書館に探しに行かなくていいんだ。しかし、それでも個人情報が怖いのであれば入らなければいいだけの話なんですね。それをここで言った。

それから、ここが全く、突然の合意発表は認められないとおっしゃった。市長は合意をしてこんざ、議会にはまずかけられん。合意をして、そして教育委員会に話をして、教育委員会がだめだと言われたらできないかもわかりません。その前、ちゃんとそろえたのを議会に持ってくる。議会がよく聞くことですがけれども、そがん言うばってんが、市民は納得しとらんやろうもんと、こうなんですね。違うて。ここにおる26人こそが市民なんですよ。それが市民の代表ですよ。

〔市長「そうです」〕

だから私、前、市民の小使、市民の御用聞きをしまして、大分批判も浴びました。うちの同僚の松尾議員も一緒のお考えですけど、私は市民の代弁者、888人の代表ですね。票をそれだけいただきましたのでね。ということですね。だから、突然の合意発表じゃない。

このときは市営住宅の話をしましたね。市営住宅というのは、議会にかける状態というのは、指名競争入札をして、落札者を決めて、仮契約をして、印紙を打って、それを消印したのを議会に持ってくるんですよ。これこそ、これに触れますよね。それだけちゃんとしたものを執行部として議会に提出する義務がある。だから、突然の合意発表を認めないということはないんですね。もし中身が悪ければ議会で否決すればいいだけですから。

それから、条例を改正する必要はない。これもややこしかった。9月定例会で、ここで説明したんですけども、それでもやっぱり一般の人はわからんとやけんね。もう一回簡単に言いますが、条例改正と書いてありますけれども、運用するための条項の追加やったですよ。しかも、体育施設については18年の3月1日に改正してあったけれども、この図書館は条項がなかった。14、15、16ですか、だから、それを追加しただけなんです。それを条例

改正という形で出たんですね。だから、当然しなければならないことをしていなかった。18年3月1日、それを書いただけなんですね。

最もびっくりしたのがこれですよ。文部科学大臣は反対している。所管の大臣ですよ。それは、少数意見報告書が出たんですけれども、ここに、福祉文教常任委員の平野さん、そして石丸議員さん、さんづけせじよかね。2人が書いとるんですね。

〔市長「うん」〕

そして、みんな一緒ですけれども、ここに反対意見と書いてありますけれども、こそくにも1カ所変えているんですよ。まあ、いいです。これは、文部科学大臣は当然ですけれども、推進をしておったんですね。

〔市長「そうです」〕

しかし、実績が少ないとおっしゃる。なぜ少ないか。これずっとここに書いてあつですよ。なぜ少ないか。それは、指定管理者制度の導入は長期的視野に立った運営が、これきれいに書いてあつですよ。ここから、これは文部科学大臣はなじまないというか、難しいとおっしゃったんですね。こうおっしゃった。これを平野議員と石丸議員は入れかえたんですよ。入れかえたらどうなりますか、市長さん。

〔市長「難しいからなじまない」〕

難しくなる、図書館にはなじまないで。文部科学大臣がなじまないと言うたというんですよ。

〔市長「反対じゃないですか」〕

だから、文部科学大臣が反対をしている。だから、我々は反対だとおっしゃった。こういうことがまかり通っている。

しかし、このモニターを使うことによって、これを口頭で言ったら無理ですよ。モニターがあるからこれができるんですね。モニターに反対の人もいますけどね、なぜかわかりません。

これは先ほど言いました年中無休、開館4時間延長、Tカードが利用できる、必要ない人はTポイントをもらわなくていい。費用効果が1億2,200万円、この1億円を使ってね、15年ですから、1億円として15億円あるんですよ。これが我々の賛成の理由なんですね。

横道にそれましたけれども、「ゆったりした空間でコーヒーを飲みながら本が読めれば、それにこしたことはない」とおっしゃったんですね。

ただ、こここのところ市長さんね、ここが主張が違うところ。ただ、従来の常識では公立図書館に民間企業を入れるなどということはありませんと陸前高田市長がおっしゃった。そしてさらには、その常識に直面して、普通は——いや、市長が常識ないと言いやらんとですよ。普通は来ないでしょうと、ここ、諦めるというんですね。常識が邪魔して、常識あるとですよ。普通は諦める。しかし、樋渡さんは、利用者にメリットがあれば、先ほど言われました

ね、市民のためと、市政は市民ですよと言われた。ここだ。ひるまずに改革を押し進めていかれる。前例がない中で、最初にテープを切るのは勇気が要る。

病院問題ですけれども、うちが病院問題をしよるころ、どこと言いません。言えといったら言ってもいいんですけれども、ある2つの自治体を知っているんですね。ほかの自治体、うちも民営化するとある市がおっしゃっていたんですよ。1つは町かな。おっしゃっていた。近くですよ。市長がリコールを食らってからもうぱたっととまった。

〔市長「そうです」〕

知っておるですかね。

〔市長「知っています」〕

だから、前例がない中、テープを切るのは勇気が要る。先ほど子ども手当かれこれね、つまらなくて、文部科学省、いろいろ言いよんさったですね。あのとき、私は思ったんですね。市長が上において、文部科学省とか、教育とか使えばいろいろ言わんでいい。市長がつくった案に従えというふうに行くべきですよ。上から言うとおりましたら、補助金をもらいに行ったらやられますから、やっぱり武雄が一番上に立って、ワンマンになれということじゃないですよ。そういう気持ちで持っていくことが、前例がない中で、最初にテープを切ることは難しい、勇気が要る。しかし、行政には住民目線の当たり前の発想が不足しているて、当たり前の発想の。樋渡さんのような感覚を持つ首長がふえていけば日本は変わるて。行政には住民目線の当たり前の発想が不足しておるといいます。樋渡さんのような感覚を持つ首長がふえていけば日本は変わると、こうおっしゃったんですね。

タブーをなくし、お伺いですがけれども、住民目線の当たり前の発想、これはどこから生まれてくるかと思うんですね。先ほど言われたですね、住民目線、どこにあるのか。よければお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の趣味は武雄市、そして私の特技は戸別訪問です。ですので、そういう現場でやっぱり市民の皆さんの悩みであるとか、苦しみであるとか、お困りの点をできるだけ政策に入れていく。そして、次の原点が私はこの議会です。議会でさまざまな議論があつて、それで、あつ、これはいいなと、先ほど松尾陽輔議員さんのときも言いました。朝長議員さんのときも言いました。上田議員さんのときも言いました。いいなと思うものについては、それは柔軟に取り入れて修正をしていくということ。ですので、現場があつて議会があつて、そしてこれは本当に最後一人になったときに、決めて提案するという意味で決めるのは私ですので、最後一人になったときに、選択肢があつた場合に、どっちが困難かなと思います。どっちが困難かな。だから、病院問題もどっちが困難かなと思つたら、今のままだが楽だったんですよ。

CCCと図書館もそうです。蘭学館の話もそうです。今のままが楽ちんなんですよ。ですが、やっぱり選択をしていったときに、苦しいほうを選べと、私に直接おっしゃっていただいたのが、かみそり官房長官で知られた後藤田正晴さんです。後藤田正晴さんにお伺いを立てたときに、長官はどうやってそれを選ぶんでしょうかと聞いたときに、私は苦しいほうを選びますと。それを同じことをおっしゃったのが、佐賀県が生んだ古川貞二郎元官房副長官です。ですので、その教えに従って、私は最後結論をするときはそのようにしています。そうした場合に、余り外れはないというふうに思います。

そして、この議会でもありますけれども、わけのわからん反対にはもう耳をかさない。もう聞くとぐあい悪くなっていますので、そのときは耳なし芳一になります。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長と今のところ少し違うところがあるのは、苦しいと思うことであっても、市民のためと自分が信じていたら突き進むということですね。苦しいほうを選ぶだけではちょっと誤解を招きますけれども、市民のために立っておったらね、恐ろしいことないと。そのため、選挙前、私、非難に遭いましたよ。何千枚、何万枚のビラを書かれてね。

〔市長「そうそう」〕

和白さんから家建ててもろうたて。

〔市長「いや、僕も言われたですよ」〕

そうですか。家建てるところか、選挙に1回でん加勢も来やらんやった。建ててもろうたとは、はっきり言いますけれども、本山さんから建ててもろうた。本山建築です。大工さんはヤマトさんでしょう、大和さんですね。隣の土地を高く買ってもらったんですよ。私、養子だから金を使うわけいかんけんですね。まあ、いいです。

これは、垂れ幕じゃなかったばってんが、これ玄関前の、言葉ええとこ言いよったばってんね、何やったかね。垂れ幕ですね。いっぱいあるですね。ここに、「歓迎 行政視察」とずるっと書いてあつです。もうすごかですね。ここの前で、ほとんどの研修の方は写真を撮っていかれるそうですね。私たちこういうところに行ったことないし、しょっちゅう行ってもね、ここの前で写真を撮ること余りありません。

さらに、ここのところですけども、県議会まで来とんさあですね。

〔市長「そうそう」〕

県議会まで来ている。これは議会に対してですよ。市長のところもこれくらい来よつとでしょう。というのは――掲示が遅かったですね。ごめんなさい。

これ、議会事務局の掲示板ですよ。11月ごろずらつと書いてありますね。すごか。調べてみたんですね。5月から10月まで75件の608人、1カ月100人て思うごたるばってんが、違う

とですね。つまり6月、9月は断ります。実質は4カ月。そしたら、1カ月150人来よる。それも、この近場は別ですけども、遠くは5人以上かな。

〔市長「はい」〕

1 泊武雄でするのを条件ですね。それでもこれだけ来ておられるんですね。

それで、実は来年1月にIT行政推進特別委員会、北海道の大学に研修に行くことに決めました。雪の日にばかじゃなかかと言われるばってんが、暇がないとですね。このときしかなかった。ということで言ったところが、北海道の教育委員会が大歓迎だった。話題になっておった。佐賀県の武雄から来らすばいて——いや、来らすばいて言いんさらんばってんね、武雄から来る、大歓迎です。これはびっくりした。改めて思うたんですけど、やっぱり市長の影響力のすごさですよ。佐賀県の武雄市、わあという話ですよ。また、ユーストリームというですか、流れていることありましようけれども、結構北海道からの研修も多いですもんね。雪の中、行きますけれども、物すごすごかったということを紹介しておきます。

そこで、研修目的はフェイスブックが一番多いということを事務局に聞きました。それで、具体的内容、余り長う言われても困るんですけども、どういうところが来られたのか、答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

（モニター使用）モニターを変えてほしいんですけども、まず、数がこういうふうになっています。私が着任したのが平成18年ですので、その前からすると10倍から20倍に膨れ上がっています。ありがたいことだと思っています。

視察のテーマ件数なんですけど、フェイスブック、F&B良品が多くて、やっぱり図書館指定管理者が多い。イノシシだったり、あと、ここには出てこないんですけど、議会をユーストリームで流しています。特に黒岩幸生議員さんの場合は2,000人の方々が見られていますので、こういう議会の質問のあり方とか、答弁のあり方についてよく聞かれますので、そういう意味で言うと、もう武雄市議会には本当に感謝をしたいと思っています。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

次は、IT行政推進についてでございます。

ITを駆使して行政の刷新をということですからずっとやってきております。つまり、3D検索ですね。ちょっともう1年ぐらい言いよるですかね。システムの実現に向けてやっていこうという話でございます。

これは11月17日の佐賀新聞ですね。私は佐賀新聞しか読みませんので、市長さんとちょっと違いますよね。ここで、「行政文書をウェブ公開へ」と書いてありましたね。行政文書をウェブに公開するんだ。それは、請求不要、誰でも閲覧できるんですね。どこからでもいけるといことですね、クモの巣ですからね。武雄市構想、来年度から実施、それを日本フェイスブック学会で樋渡会長が発表したと載っていますね。さらには、公開される文書はもちろん開示できるものだけ、個人情報など禁止されている文書は省きますよ、当たり前ですね。開示する文書は全てクラウドに保管をしていきます。今までの状況の中で、紙文書であれば、東日本大震災では行政文書は流出したんですね。そうでしょう。流れたんですね。破損した。

〔市長「そうです」〕

我々会派は沖縄に行ってきました。つまり、沖縄がサーバーを預かるところが一番いい。なぜか。本土と離れている。だから、同時に災害が起こらない。そしてまた沖縄は地震が少ないそうですね。そういうことであつたんですね。

その後の新聞に2種類の文書を別の場所に保管すると書いてございましたけれども、どのようなことを意味するのか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

1つの場所に保管をしておく、それが絶対にアウトになるということになります。ちょっとごめんなさい。2種類の文書というのは、これ多分保管の場所を2つ以上というふうに申し上げたつもりで、これは私の言い間違いだと思ふんですが、要は、もう1つ、今までのデータというのは、武雄市全体でいっても、もうびっくりしたんですけれども、今、もう5万円ぐらいのハードディスクに入るぐらいなんです。基本的には映像がありませんし、動画がありませんので、ですので、これはちゃんと手元に保管をしておく。あと何か所か雲の上のクラウドに保管をすると。先ほど議員が御指摘のとおり、個人情報の文書であるとか、そういう相手がある話であるとか、あるいは著作権に関する話というのは、漏えいの危険性がないわけじゃありませんので、それについてはそういうふうにクラウド、あるいはサーバーに置いておくというのは基本的には考えておりませんので、そこはぜひ御安心をしていただきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

いや、御安心じゃなくて、ちょっとがっかりしたんですけれども、公開文書を2つの場所にとすることは今わかりました。

私が思ったのは、やはりこれから公開できない部分というですかね、それも絶対できない

部分と、公開してほしいけれども、することによって物すごく便利になる部分と分かれてくるんですね。だから、財産など絶対公開できない分は、例えば個人の貸し金庫、ITの貸し金庫と私言っているんですけども、ぜひそれをつくってくれということを山崎さんにも言っていますけども、貸し金庫に置いておく。

そして中間というのは、例えば、私が医療カードですね、これは個人情報ですよ。しかし、これを出すことによって、どこかで災害、私が造影剤に弱い。頭を打ってぶっ倒れたとき、誰も教えてくれない。頭ですから、造影剤を打ったら心臓がとまるんですね。しかし、電子カルテに結びつけば直ちに助かるんですよ。そういう分野に今来ているんですよ。今後でいいですけども、だから、公開はしないけれども、万万万が一破られるかわかりませんよ。交通事故と一緒にですよ。交通事故が怖いから車に乗らない人はいないわけですからね。リスクを背負ってでもある一定の公開、そういう文書の保管というのは今後要ると思うんですね。そういう意味だと思いましたがけれども、それだけ今後検討して——ああ、そうですか。答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それこそ御本人の同意だと思うんですよ。同意があつて、そういう危険性がありますということ踏まえた上で、車はもう議員おっしゃるとおりですもんね。ですので、そういったリスクもありますということも踏まえて、同意をしていただいた方々に対して、特に僕は医療関係、これ僕も山崎さんと相談していますけれども、そういったことはもう絶対必要だと思っております。

ただ、このときの保管の場がね、多分そういう保管の場とは違うことになるかとは思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

以前、ここで防災背番号、任意制でと言ったことがありますね。希望者だけでいいですよ。さっき言った分析装置も一緒。便利になれば怖い面もある。それにいかん人、うちの姉、自動車は乗りませんからね。事故が怖いから、免許を持っていません。そういう人も中にはいるんですよ。それはそれでいい。しかし、大多数が好むほうに向かっていかなければ進んでいけないということですね。先ほど公会計問題で市長さん、ベテランの会計のプロがね、松尾議員がおっしゃっていたんですね。あのとき私、全くわからん。つくづく聞きよったとは、今まで自治体がもうけるという考えしていなかった。だから、あれでいいですよ。しかし、これからは自治体であっても、もうけるという言葉は悪いかしれん。やっぱりもうけ

にやいかんですよ。そうすることによって、例えば国保にも金ば入れられるわけですよ。いろんなところに公共事業、公共事業だけじゃなくて、市民の負担が軽くなるんですね。だから、ぜひともそういう考えから、これからもうける、合理化だけじゃなくて、もうける話をつくっていかんやいかんと思うんですね。

それでは、実は先日、三井業際研究所の方がここに来られたんですね。私と前議長の牟田議員さんとここで会いました。そこにずらっと座られて、そうそうたるメンバーですよ。約2時間いろいろやりとりをここでいたしました。三井業際、この業際というのは皆さん御存じでしょうけれども、1つの分野でなく、幾つかの事業分野にわたることなんですよというんですね。これを研究するところなんですね。日本ユニシス総合技術研究所とか、関連部、来られました。また、どういうことですかと聞いたら、フェイスブックの活用についての質問なんですね。つまり、午前中は市長さんとこれについて物すごい深いやりとりがあったと思うんですよ。やりとりして、午後に私と、何で私が呼ばれたかわからんですけどね。私は、いつも言うように、計算機の組み立て方はわかりません。しかし、計算機は使いきるですよ。そういうことで対応したんですけれども、この三井業際研究所というのはすごいグループですけれども、まず、三井グループ、三井不動産、ファイナンス、みんな入っているんですね。三井グループにおいて異業種間の業際分野における知識集団としての機能を果たすことを目的としているんですね。そして事業として意見の発表、政策の提言・建議、情報の収集・管理、提供、調査・研究開発と事業化促進、これがすごいところなんですよ。後でシェアハウスは言いますけれども、こういう人たちが市長のところに来るというだけでも全く変わったところですね。国内外の諸機関と交流、この31社というのは、三井グループ、日本ユニシス、IHI、イビデン、王子製紙、太平洋セメント、トヨタ自動車、東レ、東芝、日本製粉、富士フィルム、フジクラ、超一流ですよ。そういう方たちが研究されているところなんですけれども、これはIT行政推進特別委員会で総務省の川島先生から習ったことをその中で話をしたんですね。

なぜこの話になったかといいますと、実はフェイスブックの講座について聞かれた。非常にフェイスブックによって情報が入ってくるのが早くなった。対応も早かったために、どこやった、防災ですね、カメラで撮って、武雄市に送って、直ちに通行どめされた話、以前ここで紹介されたですね。

その反面、どうしてもインは早くなってくるけれども、出す、アウトのほうが遅いですよという話をここで私したんです。そのとき言ったことなんですけれども、それは、総務省の川島先生からIT行政推進特別委員会で習ったことをここで言ったんですね。つまり、入ってくる情報、そして住民、企業への便益、つまりアウトですね。そう考えますと、武雄市役所の仕事というのは情報処理ですね。つまり、災害対応関連職員さんや災害対策本部を大きかたを立てたり、あるいはもっと大きかとは、災害対応の予算をつけたり、災害発生を通報した

り、地域防災計画、あるいは災害対応であったり、いろんなことをしなければならない。つまり、行政の仕事は情報処理そのものですよということを川島先生がおっしゃった話をここでしたんですね。なぜこれをしたかといいますと、これずっと今までこの議会で三、四回になりますかね、もう1年近くなります。話してきたんですけども、この3D検索化の話をしたんですね。つまり、25掛け5というのは、暗算であっても、そろばんであっても、頭の中、あるいは手先で比較検討しながら選別して答えを出すんですよね。計算機は、大人であっても、子どもであっても、誰であっても、25掛け5と入れさえすれば機械が判断して答えを出すんですね。これが3D検索ですという話をここでしたんですよ。そしたら、それを聞きながら、普通はそれは何かと言われるですよ。期待しておったですけども、何も言いみません。みんな、だからどうしたんかという顔ですよ。

ちょっと困りながら、次の話をしたのが、ちょっとグロテスクですけど、こういう話なんです。お医者さんの話をしたんですね。心臓の話をしましたけど、ちょっと手に入りませんでしたので、これ図はイメージ図ですね。つまり、3D表示は病院で進んでいるというわけですね。つまり、立体的表示は進んでいますよ。どういうことかといいますと、ここは脾臓ですね。めったに聞かんです。脾臓、ここにありますがね。せつかくですので、脾臓というのは、血中の異物や老廃物を破壊する場所なんですよということですね。これいいですけども、このところを見るときに、これ本当は平面ですよ、二次元の世界ですから。しかし、これ斜め、こっち前から見たぎ、ここから見たところですね。これは今度は横から見た。今度は後ろから見た。きれいにこれを手にとって、一遍に立体的に透き通ったように見られるんですね。だから、どの骨をどうすれば治療されるとか、いろんなことで今利用されているんですね。この話もしました。そしたら、先ほどと変わらん。では、何をするのか。なぜ3D検索が必要かという顔ですよ。そこで、私、行き詰まった。それ持っていなかった。いきなり行政文書に飛びきらんやった。

その後、フェイスブック学会がここであっていたんですね。あったときに、会場づくりのとき、ここを見たんですね。どがんとぼつくてあるかにやあと。そしたら、3番目やったと思いますけど、行政のプラットフォーム化と書いてあった。私は講義を受けておりませんので、中身は定かではありません。この行政のプラットフォームというたことに私自身ががーんと頭を打たれた。感じたんですね。プラットフォーム、出発点。

これは、東京駅から家に帰るとき、東京駅のプラットフォームに立ちます。そして公共交通網、公共機関を聞いて、武雄まで帰ってきて、そしてその後は自家用なりタクシーなり、目的地に帰るという考え方ですね。つまり、東京、羽田、福岡、博多、武雄というふうに交通機関でやっていきますね。これは交通網の中の一つのプログラムですね。それから、武雄から家までは歩いて帰ってでんよか、どがんで帰ってでんよかですね。つまり、オリジナルですね。これで人と物を運ぶんですね。

さっきの行政のプラットホーム化で思ったのがここですよ、市長さん、ここ、余り出ておらん。ここですね。次のところですよ。文書情報をプラットホームで考えたんです。今、みんな年賀はがきばつくりとしようとするんですが、議員は出されんか。東京駅ですね、このところがはがきに置きかえるですね。交通機関はパソコンになりますね。このプログラムというのはアプリケーションソフトでしょう、アプリ。言うてよかかにか。 「筆まめ」とか、いろいろありますね。それば使わんばいかん。それだけじゃいかんですね。そこに自分で住所録を入れたり、バージョンアップしていくですね。一緒のことなんですよ。それを行政のプラットホーム化と思ったんですね。これをつくっていけば、これF&Bと一緒になんですよ。

総合窓口、これ私はもう25年になる、もっと前になるかわかりませんが、北方町議会議員をしていたときに、松本町長さんに、総合窓口をつくってくれんやろうかと。なぜなら、町民の皆さん方は、建設課は向こう、教育委員会は上とかね、もう町民がしょっちゅう回らばいかん。だから、1カ所で話ができないかという総合窓口を設けてほしいと当時言った。町長さんが言われるには、いや、そがん気のきいたとはおらんけん、されんて言いさった。ワンストップ行政、これ今県が言いよるとですかね。なるだけ県民の皆さん方がたらい回しされんでよかごとせろ。これとプラットホームと一緒にの考えに立てるんですね。立ったんですけれども。

これは、住民要望を例えた場合、それと市役所との関係ですね。まず窓口、窓口から真っすぐ行かれるかわかりませんが、それから、こう行きますよね。係に行って、係長に行って、課長に行って、部長に行って、副市長に行って、市長に行くんですね。市長さん、副市長さん、こういうふうになるでしょう。これを、理論の部門で聞いてください。現実には置きかえたら、市長腹かいたらいかんけんね。理論の部門ですよ。これを、こう行くとすれば、市長さんが全てを知っておるとしますね。例えば、トイレの洗剤が切れた。その洗剤はどこの店に売っているというのを知っているとしますね。そうすれば、市長さんのところだけでみんな終わると、済むとですね。これが総合窓口。

じゃ、これをどうするかという話が今までずっとしてきたところなんですけれども、3D検索システムを使っていけば、このことができるというのがこの行政のプラットホーム化につながったんです、F&Bとですね。まず、総合窓口、ワンストップ行政、1カ所という、この発想は、今の発想じゃなくていいですけども、1カ所で済むという話ができればということに対してどのように思われるか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すごくいいなと思います。特に今度、庁舎の研究に当たっては、これまだ事務方には全然相談していませんがね、アップルストアがどうなっているかという、お客さんが入ったと

きに、定員さんがぱっと寄ってくるんですね。今、我々がどうなっているか、この市役所がどうなっているかという、例えば戸籍関係とか福祉関係だったらばらばらなんですよ。でするので、今度の新しい庁舎では、例えば、市民の方がお越しいただいたときに、そこに座っていただくといったときに、そこに1人がやってきて御用を伺って、そこでしばらく待ってください。レモングラスティーを出します。待っていただいて、そこで全部解決、その場で解決をするという、それこそ住民目線のワンストップサービスをしていきたいと。本当に今でも実はできるんですよ。できるんですが、この役所の構造上、そこは無理なんですね。でするので、今度の庁舎の中に当たっては、そういう市民本位の、住民本位の、座った時点で、そこでもう解決できるというような話をする。

ただし、例えば消費者相談とか、そういうのは別ですよ。それは目的に沿ってお越しいただくということで、きちんと張りつき、ああ、来たら楽ちんだなと思っていただくようにすると。黒岩議員がおっしゃるように、今、ITの世界でも、ITの話を駆使すれば、実務でもそれはできるんですよ。あとはもうやるかやらないかというだけだと思うというのが私の認識であります。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長さんおっしゃるとおり、先ほどの話も、東京駅から自宅まで歩いて帰ってもいいとですよ。しかし、いろんなものを利用して、これと一緒に発想なんですね。前、合併問題がいろいろあっているときに、嬉野の谷口市長さんとお会いして話をしたときに、あの人はこうおっしゃった。形は違いましたがね、当時はあの人に聞いたとき、私は総合支所がいいと思うとおっしゃったんですね。どんなに離れていても、2階と3階が分かれているのと一緒のように、場所が離れても距離はないんだという話をされたんですね。まさにその発想につながっていくと思います。

これクリップですよ。挟むやつですね。つまり、お医者さん、看護師さん、医療事務、受付、いろんなことを挟んでいる状態ですね。クリップ、一緒に挟むんですね。それで、お医者さん、受付、医療事務、わかるように色を変えたんですね。色を変えてクリップでとめてみました。しわを伸ばしとうぎよかったばってんね。つまり、お医者さんというのは、自分のノートのようにITを使いたい、患者さんの全てがよくわかる簡単なメモが欲しいと、こうおっしゃる。一方、看護師さんは患者様の情報をさっと見たい。しかし、パソコンに向かうのは今なかなか難しかねという悩みですね。受付は受付として、カルテの検索、生年月日から何から、病状から、何か検索するときは大変だというんですね。もちろん医療事務においてもレセプトの作業は大変だという、いろんな思いをもみながら、このみんなの意見をクリップした姿ですね。

これをばらばらにしたんですね。ちょっと離れた。お医者さんのメモの中にはいろんな人の病状が、これ1枚ですけどね、ノートの中にいろんな人の名前、Aさん、Bさん、いろんなことが書いてありますね。看護師さんのメモの中にもいろんな検査など書いてありますね。医療事務についてもレセプト、いろいろ書いてあります。あるいは受付についても、生年月日、病状、いろんなことが書いてありますね。これを例えばXさんという方は、お医者さんのここに書いてある。看護師さんはここに書いてある。そして医療事務ではここに書いてあって、受付がここに書いてある。これをクリップで結べば、自由にお互い看護師さんが、お医者さんも見えるし、医療事務もみんな見えるという発想なんですね。同じくMさん、Mさんもここに書いてありますよ。看護師さんはここですよ。医療事務はここですよ。そして、ここですよというふうになるんですね。こういうふうになります。そしたら、今度はBさん、市長さん、上の字を見て何も思わんですか。今回、取りやめましたけどね、BMXね。

〔市長「ああ」〕

今回、ちょっと遊びです。

Bさんのものと同じくずるっと来るんですよ。今のと上手かでしょう。苦労したんですよ。こういうことでね、全体が輪でつながるというんです、クリップで。ただの鉄ですけど、考え方ですね。これは、医療総合システムのクリップということで既に特許がとられております。統合するんですね。つまり、先ほどのいろんなメモを、これ高速回線ですね。これ今言うたクリップですね。これにぶち込むというんですね。そうすれば、お医者さん、受付、医療事務、看護師がここに全部入れれば共通した一つの情報を抜粋することができる。ここに提供、山崎と書いておったですけれども、これ山崎先生がIT行政推進特別委員会に提供してもらった資料です。つまり、クリップを高速回線でつなげば、どこからでも情報がとれるということなんですね。先ほど言いました医学界では3D表示が最大限に利用されております。

そこで、行政分野に取り入れれば飛躍的に前進すると思いますけれども、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も山崎さんとよく話をしますけどね、それがやっぱり技術的にも可能だということですので、あとはやるかやらないかの部分だと思います。もし行政でやるとするならば、医療の場合割とやりやすいんですよ。例えば、黒岩議員さんが風邪を引く、私が風邪を引くというのは、症例としては風邪というので束ねられるんですけど、行政の場合は、例えば福祉と土木じゃ全然違いますので、やっぱりあるカテゴリーの中でくくるということで、これもしやるにしても、試験的に例えば土木分野とか、そういったところでやる必要があるだろう

なというふうには思っております。あとやるかやらないかだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これ5月23日、IT行政推進特別委員会で山崎先生から御指導をいただいた内容ですけれども、行政のためのオートタグシステムということでいただきました。

まず、役所の仕事というのは何が一番多いか。役所の仕事というのは紙のやりとりですね、やりとりで、がん書かすとですね。紙のやりとりが多い、当然ですね。先ほど市長が言われる、対面サービス以外の指示や記録は全て紙ベースで行われている。そしてさらに、契約書、領収書、請求書など全てひもづけ、現物保管しておかなければならないということをおっしゃっているんですね。先ほどのウェブ等の話と全く違うところですけど、これが現状ですと。そしてさらに、紙、紙、紙でこうして探し回しておってね。

〔市長「そうそう」〕

ここですね、市長さん、自慢するばってん、もろうたとが動くとですよ。こう紙を探しよんさつとの。もうとめるのに一苦労した。まだ難しかけんね。動かすぎくるわるっけん。こういうことですよ、紙、紙、紙ですよ。これを、全ての紙を高速回線に投げ込むという発想です。そしてみんなでオートタグ、ここんところですけどね、オートタグを育てていく。つまり、3D検索ができるタグ打ちをしていくんだと。さらに、そのオートタグが全てをインデックスする。つまり、インデックスというのは皆さん既に御存じのとおり、目的の情報を探すための索引・指標、これつけておるですね。私は、大体人間にもタグばつくとるです。彼が法律に詳しくとかね、一緒のことですね。そして、さらにはインデックスの木をみんなで使う。クモ、ウェブね。そして「探さない、訊かない、訪ねない」、「迅速」、「ノーミス」を確立していくんですよと、こうIT行政推進特別委員会で習ったんです。習ったけど、非常に高度過ぎて難し過ぎてですね。私はこればつくろうでちゃ、これは山崎さんがつくらしたとですけども、一般質問つくろうで大体3カ月かかる。そいけん、3カ月かかるということは、もう12月んとは頭に入よる。こういうのをつくろうと。今度、病院問題を書こうと思う。わかりにくかったけん。何であそこで訴訟するかということだね、これを今度やろうと思います。

横に戻りますけれども、「探さない、訊かない、訪ねない」、みんなここで時間を食いよる。だから、高速回線に投げ込めばね、それで利用できれば、「迅速」、「ノーミス」ができますよということ。つまり、これ私が書いたんですけども、フェイスブックで物すごく早く情報は入ってきます。しかし、それを「探さない、訊かない、訪ねない」ということをしなければだめですよということなんですね。そうすれば、「迅速」、「ノーミス」の確立がします。さらには、的確な情報処理と事務処理ができますよと。

これも当たるかわからんですけれども、ある優秀な役所の職員さんですね、半日かけて数字の読み合わせばしよった。山崎先生が「どがん思うですか」と私に言いんさった。私はようわからんけんが、単純に言った。「数字ば重ぬっぎよかろうもん、書いたとば。そいぎ間違いはすぐわかろうもん」て言ったとです。天下の東京大学を出た方ですよ。読み合わせよったです。重ねるぎよかろうもんで話した。山崎さんも「そうですもんね」て言いんさったけん、そいばしやすかとばつくってくいございてもう言うたですもんね。まあまあ、いいです。

的確な情報処理と事務処理、これ機械でできるんですけれども、国や県への申請書、これも自動に選別できる。そうすることが行政文書の文書化、まだ半分しかできない。公開する分しかできないかしれませんけれども、いずれここに向かっていく。そして市役所のペーパーレス化にのっていく。これが一番いいのは、これを機械的に判断できるかなんですね。そうすることが、「迅速&ノーミス」の確立につながる。

次、このこのところですよ。市長さん。今、F&B検索を持っていますね。非常に好評だと、F&B良品ですか、どんどんネットで広がっている。その検索システムを使ってね、行政文書ものせていくという発想なんですね。つまり、F&Bの検索システム改良で行政文書にも対応できるですか。さっき言うた、できるて言いんさるですよ。このことに対して市長はどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁に入ります前に、防衛省中央指揮所からの情報が入りました。10時26分で、もう情報の総括ということで最終情報になります。12月12日水曜日、北朝鮮西岸から南に向かって1発の人工衛星と称するミサイルが9時49分ごろ発射されたことを確認した。ミサイルは分離し、1つが朝鮮半島西方の洋上、これは予告落下区域内だそうです。もう1つが朝鮮半島南西の洋上、これも予告落下区域内です。そして、もう1つがフィリピン東方の洋上、これも予告落下区域内だそうです。落下したものと推定される。破壊措置の実施はなしということで、これについて、本件については、武雄市のJアラートについては正常に作動したところであり、しかしながら、これは放送区域外ですので、市民の皆様方には防災無線等を通じて放送はしておりません。報告させていただきます。

いずれにしても、北朝鮮のこの行為についてはあってはならないものだと思っておりますので、この場で抗議をさせていただきたいと、このように思っております。

答弁に入りますけれども、検索できると思います。できると思いますし、なるべくあっち行ったり、こっち行ったり検索ばらばらじゃなくて、一つのところでF&Bも検索できる、行政文書も検索できる、グーグルも検索できる、エバーノートも検索できるというようなも

のをやっぱりつくる必要があるだろう。これをパッケージにして各自治体等にやっぱり売り込んでいく必要があるだろうと僕は思っていますし、それには山崎さんのお力が必要だと、このように認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これもIT行政推進特別委員会で習ったんですけれども、現在の災害対応状況ということでございますけれども、それは、電話、ファクス、防災マニュアルということで、これに今一つ使われていますね。フェイスブックで迅速に来るということですね。そして、情報はダブって入ってくるんだということですね。非常に対応に困る。しかも、この通知を見ようとしても警告がないと、いろんな悩みがありますよと、これはIT行政推進特別委員会で習ったところですね。

そこで、例えばある橋の水位が1.5メートルを越えたらということが、今見ていろんな状況を勘案しながら出すんですけれども、このところなんですけれども、ここにちゃんと3D検索で、いろんなところへ情報ができるシステムで自動判断すれば、直ちにこれが連絡、通告、ピンポイントに連絡できるんですね。つまり、今までここでしていたのが、3D検索をすることによって、直ちにそういう場合はこうですよ、先ほどJアラートと一緒にですね。防衛省も一緒です。ここに来たときはどうだということをやちゃんと決めておけば、今飛んだからわかったんですけれども、この前のときには、何とか〇〇防衛大臣は40分間沈黙しとったですね。機械だったら飛んだになるんですよ。次は方向が見えないになるんですね。しかし人間ですから、見えないから、飛んでいないかな、飛んだかなと悩みよる。それが無いのが機械なんですね。だから、越えたら真っすぐ、ここないですよ、直ちに次の仕事ができる。防災に一番役立つんですよ、この3D検索ですね。もちろん防衛には一番役立つそうですと余り言われんごたるですね。

そこで、市長にお伺いですが、防災システムをつくり東日本復興支援、防災、のせて、先ほど言われました、それはのせればいいわけですが、仕事をさせればね。あるいは行政文書が破損、流出しているの、修復は必要ですので、そこについても加勢をそれで入れていく。さらには、災害被害状況が刻一刻と変化する様子をつくることできるんですね。そういう意味合いから、F&Bの検索システムに、先ほど言われましたように、行政分を上乗せして、他の自治体へぜひともつくり上げてから紹介していただきたいと思います。これは質問にしません。先ほど言われましたからね。だから、ちゃんとした実物がなければ、市長が満足するものでなければほかに紹介できませんので、それいいですよ。だから、そういうのをぜひ足を踏み出してほしい。これで世界が変わりますよ。もしできなかつたら、私、世界一の大ぼら吹きになりますよ。それくらいの代物なんですね。世界が変わりますよ。とにかく、

この二次元の世界を三次元でやっていくわけですから、大変な時代なんですね。ぜひともお願いしますね。

シェアハウスについて質問いたしますけれども、さきの質問の中で、9月ですね、武雄市図書館を知的活動拠点にすると言われましたね。その横にシェアハウスをつくったらどうかという話をここでいたしました。実は、唐津のある会社の3代目の社長さんがうちに来られた時の話ですね。その方は、中国の大使とのつき合いがあられる方です。言われたとおり、そして唐津の病院が赤字なので何とかしてくれと言われた。そこで、唐津から壱岐に、あるいは壱岐から博多に回るフェリーで三角形、トライアングルをつくりたい、こうおっしゃったんですね。そしてお客さん呼んで検診というんですか、人間ドックですね、それしたい。海を物すごう中国の方は好まれる。やっぱり内地ですからね。だから、フェリーの旅をさせるし、壱岐に連れて行って、福岡で買い物をさせる。そのときおっしゃったのは、唐津に温泉のなかって。ぜひとも武雄も入れようねという話ですね。よろしくお願いします。トライアングルは今度はテトラになるんですかね。そのとき言うておきました。うち新病院もありますので、うちの病院もよろしくお願いしますと言ったんですけれども、船会社の方ですよ。調べればわかりますけどね。その人がおっしゃったのは――すみません、横にそれよった。このシェアハウスの話を知っておんさった。いつできるとですか。今、尖閣問題であれだけやっておるから簡単にいかないけれども、必ずこれはもうどこかに落ちつきますと。そしたら、約束しておってもいいですかね。すぐでも呼びたい。また来たいらしいですよ。それは市長がシリコンバレーですか、あなたが思う以上に、どう思っているか知らんけれども、思う以上にやっぱり評判なんですよ。そして、先ほど言った三井業際がやってきたというだけでも全く違う。日本ユニシスが来るということがね。それだけの場所なんです。場所というのは人物ですよ。今までは地理的なことが場所でしたけれども、今は人ですもんね。高速回線を使えばどこでも、山の上でもできるわけですから、だから、市長のところなんです。市長の名声なんです。これはもうよししょでも何でもありませんとおっしゃった。そのときおった次の社長もね、いや、俺たちも入られるやろうかという話です。それだけ起業家はもう動き出しているというのが現実ね。

だから、このシェアハウス、この前はつくるという話をされましたけど、本当につくる気があるのか、今どういう状態なのか、質問をしたいと思えますけれども、完成予定を実は聞かれた。つくるものとか、その後の経過はどのようなものであるのか、答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

中で議論していたんですけれども、なかなかやっぱり財源の手当てが難しいということなので、これはぜひ議会の後押しをちょっとお願いしたいと思っています。

一方で、先ほど三井の話が出てきましたけれども、民間活力をこれは導入したいと思っています。

ただ、一方で私もこの場でもうやりますと言いましたので、必ずやります。必ずやる。やると言ってやらなかったのが民主党、やると言ってやるというのが私です。樋渡です。ですので、それはやります。

それで、ちょっとあれなんですね、今、図書館ですごくやっぱり注目が集まっていますので、4月以降、年間多分100万人を超す、今、年間24万人から26万人なんですよ。ずっと減っていますので、特に初年度は100万人を超す皆さんたちが図書館に多分殺到すると思います。そのときに、やっぱり起業家の方々もいらっしゃるんですよ。ですので、住むことを約束してもらって、もう10人とか15人になった時点でね、そこはつくると。一番公共がやってだめなのは、つくったのに来ない。今の蘭学館みたいなものですよ。ですので、つくった以上は必ず入っていただくということを担保にできれば、そこは私は絶対やる必要があるだろうと思っていますし、それともう1つ、ちょっとそれで恐縮なんですけど、雇用促進住宅、これについては市が買収の方向で今最終調整に入っています。雇用促進住宅、あれ中野ですよ。中野の雇用促進住宅、これ山口良広議員さんからも御質問賜りましたけれども、この住宅をできれば、図書館のできる前にシェアハウスみたいにできればいいなということ。だから、シェアハウスのようなもの、あるいは今入りたくても入れない方々がいらっしゃるんですよ。方々とかというのは、この市の裁量で今度決められますので、まずそこを過渡期的な措置として行って、ここについては起業家が今移り住んできていますので、その人たちがそこに集まるというように、短期的、中期的にちょっと分けて考えていければいいなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

起業家、言葉は一緒ですよ。フェイスブック、いろんなことで一緒ですけども、パソコン一つで大きな企業になるんですよ。昔は雇用人口500人とか1,000人とか言いよったんですけども、パソコン一つで何兆円の企業が来る時代なんですね。だから、それをわざわざよそにとられる必要はない。場所は好みませんので、あとはその支援体制、市としての支援体制があるかどうかの違いなんですよ。やる気があったら絶対来ますよね。しかし、それもえらい今度はあれですよ、石橋をたたくごたるですよ。しかし、それはそれとして、やっぱりやると今言われたことが発信されると思いますので、ぜひ何人打ち切りでやったら早いんじゃないかと思っておりますけれども、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

多くの皆さんたちがユーストリームでごらんになっていますので、本当にさっき申し上げたとおり、15人集まったらもうやります。もうやります。

ただし、これは議会の議決が必要ですので、うちの議会にはしごを外すという人は若干いますけれども、ぜひそこはお願いをしたいというふうに思っております。起業家を集めて、前も申し上げましたけど、島根県の海士町、海の武士の「士」と書いて海士町ですよ。あそこが、僕はテレビでしか見ていませんが、町営住宅を起業家の方々に低廉の価格で貸して、そこに起業家が集まって、ナマコが特産品だったですね。でも、なかなかナマコが売れなかったと。町が融資をすることによってナマコの加工場をつくって、それを干し物として出すということで、非常にそこで雇用が生まれたと。その彼を慕って次々にまた人がやってきているという流れを武雄市でもつくりたい。ですので、海の海士町、陸の武雄でいきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長さん、今、はしごを外さるって言いんさったでしょう。

〔市長「はい」〕

はしごを頼っているんですか。（発言する者あり）頼っていなければ、外されても結構なんですよね。

では、交通安全対策について質問してまいりたいと思います。

実は、これ大変なことだったんですけれども、この前、Z問題を言われた。これは21年3月定例議会で私もここに来て質問したんですね。北方は3年目になって、北方が一番大きく問題を抱えているのがここなんです。これは高速インターで買収されているところですよ。これが20年間できないという話を3月にしたんですね。その前に実は古賀誠先生にお会いしておりました。ここで話をして、北方の悲願ですよ。なぜならば、これができなければ、川上から来たドライブインふちがみの前の道路もできないし、多久に行く道路、いろんな道路の中心、扇のかなめのようなところですので、北方は20年間泣いてきておる。そういう中で、苦労に苦労を重ねながら、市長の選挙のときに、久津具でどがんするとかと言われてね、私は、前、末藤議員さんと杉原議長さんが古賀誠さんにお会いされたのを知ったけど、とっさのあれで、古賀誠に頼んだけん、するくさいと言うたのが実現したんですね。実現する前の3月議会ですから、北方はこういう悩みを持っていますと一般質問をしていた。みんなこれ悩んでいるんですね。それを、このZのところですね。これ運搬道路で、昔、ここで石炭を運んでいた道路なんです。それをもらって、なけなしの材料できれいに道をつくった。だから、ここは直角に交わっていない。しかし、これをつくるときに、陳情するときに、

この道路はどこに行くのか。北方は意思を持っていますよ、下にずっとね、考え方を。しかし、このときに、考え方を、きょうおんされんね、当時、松尾定部長さんが差し当たりここに出しますと、ここも改良しますと言われた。ここもなかなか改良しにくい。いろんな問題があったんですよ。何か裁判終わったんですけどね。そう言いながらも、彼がつくってくれたことなんです。この道路をここにつなぐということですね。このZ軸を言われてね、何人の方が憤慨されたです。何ば武雄しよっとやて。やっここがでかかったとき、まだそげん話しよっとやということですね。つまり、これは北方町のまちづくり推進協議会、当時、末次会長さんのとき、立派なのをつくってもらったんですね。ここに市営住宅、ここに何とか、いろいろ地図をつくっていただいた。これが今の場所ですよ。この丸の真ん中んところがZ軸になるということですね。北方町のみんなが、こういうふう北方小学校の前を通ってと思っている。

問題は、その先の線路を越すか越さないかですと悩んでいたんですね。それは大町との関係があるからです。それを途中から脱線になるのはね、もってのほかだという話が来ました。余り文句を言ってもしよんないんですけれども、路線決定は、石橋部長がするわけじゃないんですよ。誰がする。建設費は市長がつくるわけじゃなかです。

こういう中で、私もぼけていますけれども、これは、当時の、大きくしてきました、古賀誠先生に私が相談しているところ。これは、実は市長から古賀誠先生を柳川で紹介してもらうまでには、国交省は北方町が反対していると言っていたんです。それは平成2年の大水害で六角川の水が、そして、国道がつかったんですよ。だから、住民は反対していますよと国交省は言っていた。だから、先ほど言うように、3月定例会後に古賀先生から呼ばれて、それで、私も思わず立ち上がってね、先生、ぞうたんのごと、それは違うばいと言ひよる瞬間ですよ、これが。こういう苦勞をしながらね、本当にしてやっ、これが国土交通省の課長さんです。実質力を持つとんさあ人ですね。この2人の方に、この白髪は誰かわかるでしょう。稲富県議ですね。それと、原口義己さんと一緒にここに行って、このときに20億円つけますと言われた。ただし、2年にわたりますよとおっしゃったんですね。そして民主党政権にかわったんですよ。その後、また議長と一緒にほかのところに陳情に行きましたけれども、その姿なんですよ。こういう苦勞をしながらしかできないんですよ。

これは大町の町長さんですよ。私は武雄市議員ばってんね、大町につながなければ江北に行かない。つまり、パナソニック、昔のサンヨーの裏のところは、六角川と線路と国道が一緒の中にあるとですね。一番難しいところなんですよ。それを陳情に行って、何とか今、前に進みつつある。あくまで住民の熱意をやりのごとく一本にしておかなければ大変なことになるのにね、残念な話でしたけど。

まあまあ取り直しまして、これは34号線バイパスですね。北方のほうから見たところでございます。こっちは高速ですけども、もう少し近くに寄ってみますと、こういうふうにな

んだんできつつあるんですね。しかし、草が生えているということは予算がなかなかついていないということです。こう近くから見たところですね。しかし、これも本当に市長があのとき、古賀先生に会わせてくれたのが出発なんですね。

さらには、これ、今はもうないですよ。繁昌から黒尾を見たところですね。これが解体されて、現在はこういうすばらしい道路がおかげでできたんですね。ここ少し高いんですよ、この場所。これ行ったところが、いや、これももう手直ししますと。そうしなけりゃ、せつかくいい道路をつくって、1カ所悪ければ「九仞の功を一簣に欠く」ですよ。もったいない。直すということで、これはいいですね。

さらには、これは中野の道路です。これも非常に路肩が弱いとに苦労していたんですけども、市長の力ではっきり言うて改良された。さらには、今しておられるのが、これ中野の公民館に行くところですね。これも石橋部長が頑張っているかしれませんが、用地買収はまだですかね。市長の姿勢ですもんね。みんなできなかつたんですよ。

これは、御存じのとおり、笹子トンネルのこの前ありました事故、犠牲者が9人。今、天井板をあちこち外し出したでしょう。今、急に悪くなったわけじゃないんですよ。ここが大事なところですけども、ここは、実はアンカーボルトが弱かったということですね。点検していなかった。5.3メートルあるそうですね。それで、2000年は検査しているんです、打音検査でも。高過ぎるため、その後していないんです。そんな話あるですか。これで大事故が起こった。大事故が起こったから天井を外しよるんですよ。

思い出するのが京都の亀岡市、ここで6月定例議会で話をしましたね。つまり、両側が65センチの溝があった。そこを埋めた。狭いので埋めたんですね。そしてなおかつ、7時から9時までには一方通行にした。これで万々歳と思うけど、違うんですね。ここに無免許の居眠り運転が飛び込んできたんですよ。そして、ここにもしガードレールがあったら、こういうことはなかったろうという話ですね。後ろから突っ込んだんですよ。通りにくかった道を広げた。道を広げたら、今度スピードを出したとが後ろから突っ込んだ。そして引率者を含む10人、新聞には最初2人と書いてあったのですが、結果的には3人の方が亡くなられたんですね。

これは北方支所、北方支所の横に、これは横断防止柵がついているんですね。ここずっと通学路ですね。これが北方小学校のほうにずっと続いていますね、横断防止柵。子どもは飛び出すと言っても飛び出しますね。飛び出さないようにつくってます。だから、この車の横を行けるんですね。

これは市長が頑張られたでしょうけれども、朝日小学校、朝日保育園の横のきれいになった道路ですね。つまり高橋武雄線なんです。大人の目線でここを見たとき、決して危険だと思いません。しかし、低学年は飛び出すこともあるんですよ。北方の例は、やはり小学校の近くは狭いからというものもありますけども、飛び出すことがあるんだということで、ここ

に横断防止柵、これは、ここの子だけかと思うか知りませんが、みんなそういう大人の目線になってほしい。それはね、安全面に対して、改良に対しては予算が少ない。さきの笹子トンネルと一緒にですよ。ここだけじゃないですよ。いっぱいあります。こういうところに市長さんね、この横断防止柵をつけてやるのが、大人の目から見て、ああ、こういうことだと思ってくれと。子どもがここに寝そべったりしますよね。だから、市長、ここのところに図書館とか、あるいは病院とか、いろんなものを見出してきて、そして子どもたちのためにしていく。そして大人が点検するときに、子どもたちの目線に変えていくという発想が必要だと思いますけれども、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この高橋武雄線ですね、これは吉川議員さんがもうずうっと6年半ぐらいかけておっしゃっていたことなので、これは私の話ではありません。おっしゃるとおり、ここは物すごく事故が多いところなんです。事故が多いところで、結構見通しがいいのでスピードが速い。しかも、それが南北、東西にありますので、これは予算をふやす必要があるだろうと。そのときに、やっぱり地元の皆さんたちに聞いて、私はこれをつけるとかつけないじゃなくて、必要だといったものについては予算の確保はきちんと新年度予算から行いたいと、このように思っております。

やっぱりこういう具体的な指摘が大事なんです。わけのわからん指摘じゃなくてね。蘭学館がどうしたこうしたじゃなくて、こういう指摘をぜひ議会でも承れば、市民の皆さんたちはきっと評価をしてくださると、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

あと何分かな、もうなかとかな。

これ安藤百福さんといって、日清食品の社長さんです。この方がスポーツを非常に推進されているということでここに上げておりましたけれども、もう時間なかとやろう。

それで市長ね、スポーツの効能についてはいろいろ御存じと思うんですね。だから、スポーツ精神の武雄市を、スポーツマンシップの武雄市ということをぜひつくり変えましょうよ。何かこう悪い言い方しますが、今のままだったら、何か温泉論議、温泉の中に入って、ああだこうだという感じですね。北方はそういうわけいかなかった。炭鉱町ですよ。ボタ、頭からボタをかぶれば死ぬんですよ。だから、非常に気が短く見えるかしれませんが、右、左はつきりします。

武雄の議員がそうとは言いませんよ。しかし、温泉の中に入ると、ああ、右でもいい

ね、左でもいいねじゃ、俺は余り向かん。

それはいいですけども、スポーツマンシップでつくり変えるということを、ぜひいろんなところを我慢したりなんして、一つの大きなね、例えば総合グラウンドというですか、それもつくるだけではだめですよ。やはりスポンサーが来るような施設をつくらにゃいかん。あとの維持管理で金がかかりますのでね。そういうことを踏まえて、やっぱり総合スポーツ施設をつくると。

これ三重県津市の吉田沙保里マリーナですよ。ここはスポーツマンシップでどんどん進めておりますので、ぜひとも武雄もそういう精神でいってほしい。

あと3分て書いちゃうばん。なかと、終わった。ということをお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、13時20分まで休憩をいたします。

休	憩	12時
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、21番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきました。午前中の質問で黒岩議員が、要らんことじゃなくていいことを言ったので、みんな机の上にパソコンが並んでいます。ただでさえ執行部に立ち向かうのに、これで鬼に金棒状態に立ち向かわなければならない。そういう中で一般質問を開始させていただきます。（全般モニター使用）

これは一番最初の出だしの画像ですけども、先月の11月14日ですか、（「14日」と呼ぶ者あり）14日、武雄市中に虹が発生しました。本当きれいで、もう武雄市は虹のまち、何かその次の次の日の物産まつりとかフェイスブック学会を歓迎するような虹でした。本当すばらしい虹だったと思います。

ただ、次の画像行きますけど、僕のはびかびかびかとなりませんので。これは終わりのほうですね、この2点について大まかに質問させていただきます。

こうやって、さっき言いましたフェイスブック学会、そして物産まつり、その前の日にこうやって虹が出た。本当にさい先がいいということで、このフェイスブック学会も物すごく盛況、さらに物産まつりですね、物産まつりも物すごく盛況、12番議員さんもおっしゃいました、6万人以上の方が武雄市に訪れたと。私も物産まつり会場にいましたけど、本当に今

までにならないような人出で、大成功だったと思います。（発言する者あり）はい、ありがとうございます。

6万人以上と言いましたけど、私自身は、その数自体も物すごく感激しましたけれども、もう1つあって、その6万人の中によその自治体の多くの職員が来ていた。そして、議員もいっぱい来ていたんですね。そっちのほうがもう物すごくびっくりしました。

私は、ブースにいて、バッジつけた人が結構来られるんですね。もうよその議員さんばかりです。そういうふうに、よその議員が注目して来ております。ここからが前の議員さんとかぶるんですね。同じ画像なんです。これ前日に用意していたので、もう差しかえられないで、これ私が自分で撮ったやつですから、これとか、これ1週間後とか何日かごとに張りかえないと、もうこの中じゃ張れないですから。（「そうです」と呼ぶ者あり）これは次の週、もうこんなばらいになっています。

先ほど、これも一緒だったんですね、もう偶然です。何で一緒なんだろうと。これは、黒岩議員さんはさっき11月でしたけど、僕のは10月からのやつを載せています。これはもう冗談抜きで、事務局のホワイトボード、もう1つ必要ですね。議会の行事を書くボード、隣に視察のところを書くボード、本当に必要だ。これは、この質問はボードの予算要求の質問じゃありませんから、本当にこういうふう書き切れないぐらいいっぱい来ている。図書館、図書館は今度なりますよね。また、いろんなことで、図書館がCCCに変わったら、これでまた視察が、これね、倍増します。

〔市長「いんにゃ、もっと来るよ」〕

はい。多分、議長の名刺ももう倍つくと足りないぐらい来られると思います。

先月、物産まつりの前後して神奈川県の小田原市の議員団が来たんですね。神奈川県小田原市は小田原競輪がありますので、以前からその前議長さん、議長さんとは競輪議長会で特別仲がよくて、武雄市に視察に来られて、市長さんにお会いして、その後また夜、ちょっと食事のときも一緒に来てくれということで行ってまいりました。そういうときに、ちょっと挨拶してくれと言われたんですね、その食事の前に。そしたら、「きょうの視察いかがでした」と言ったら、もうみんなが目をびかびかびかびかとさせるわけですよ。よかったと、もう感激したとか、何かコンサートの終わった後みたいな感じで、そういうふうにみんな刺激を受けて、その議長さんがおっしゃったんですけども、刺激のシャワーを受け過ぎたと、これは一般質問がいっぱい出るばいということで、実際出ているそうなんですけど、実際パソコンで武雄市、一般質問と検索すると、普通は我々この武雄市の議員の要綱がばーっと出るんですね。ところが、よその議員の質問のやつもいっぱい出るんですよ。それぐらい武雄はいろんなところで叫ばれている。

何でこがん話ば一般質問の前にするかというたら、武雄市はローカルガバメントのもうオピニオンリーダーです、これはもう間違いないと思います。そのオピニオンリーダーの武雄

市、その武雄市が今度、これから質問のほうなんですけれども、動いてほしいことがある。これは昨日出た新幹線、新幹線に関して質問、要望をしていきたいと思います。

新幹線、新幹線自体は市の事業じゃありません。国の事業です。国政選挙の真っ最中ですから言葉を選ばなきゃいけないんですけれども、前回の議会だったですかね、共産党の江原さんが、私の辞任について、もう共産党さんの新聞をびらびらびらっと、もううそばっかりのやつをされたりして、そういうふうにならないように私も気をつけて質問したいと思います。

それに、昨日の佐賀新聞のニュースとか本当、いや、新聞にしても、怖いですね、ペーパーは。ペーパーは怖いです。

そういう中でも、この武雄市、オピニオンリーダーとしての武雄市、全国から自治体として注目を受けている武雄市で動いていただきたいこと、それは新幹線の、先ほど言いました。

最初にここで質問ですけれども、まず今、今までつらつら、図書館とか、図書館もちょっと言いましたし、きのうのペーパーのことも言いました。これに対する所見が1つと、もう1つは、新幹線の財源スキームが現在どうなっているのかということと、細密スケジュールがどうなって、現時点での部分の、これは担当課にお伺いしたいと思います。

以上、よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

（モニター使用）ちょっと佐賀新聞がどうこうという前に、ちょっとモニターを変えてほしいんですが、さっき黒岩議員から御指摘がありましたので、これを踏まえてモニター用につくったのがこれなんです。旧がこういうふうになっています。今、もうこれは御存じの方も多いと思うんですけれども、今度新しくしたときに、旧蘭学館にある部分のものについては図書館にすると、今の旧蘭学館の部分が蘭学・企画展示室にするということで、メディアホール、余り使われていないメディアホールも含めて広くしていこうと思っているんですね。

これもさっきお見せしたんですけれども、もともとこれ武雄の蘭学館は、このようにいっぱいいっぱいしようと思っていたんですけど、あのスペースじゃやっぱり無理なんです。で、どうなっているかという、もうこれぐらいしかやっぱりできないんですね、できない。だから、これは最初の設計ミスです。しかも、ここのこの部分ですよ、これは変えられないんですよ。ですので、これも基本的にアウト、こういうふうには稼働できない、移動できないような構図になっているわけですね。しかも、入り口のところがもう黒い壁みたいになっていて、入るのを拒むかのようなものになっていて、こんな明るければいいんですけど、もう全然暗いということになっているんです。

今度変えようと思ったのは、これはきのうの吉川議員にもお示したんですけれども、企

画展示室をこのような形にしていきたいと。これは先ほど申し上げたとおり、蘭学・企画展示室、仮称ですけれども、このようにすれば入りやすいし、見やすいじゃないですか。しかもメディアホールも一体にしますので、今までの見せたくても見せられなかったものまで見せることができると、こういうふうにできるといふふうになります。

ですので、ちょっと佐賀新聞におかれては、書かれた中身はいいんですよ、内容は。これについて私がどうこう言うつもりは全くありません。しかし、あの見出しはもう絶対にいけない。蘭学館閉鎖と書かれているんですよ、閉鎖って。これ閉鎖ですか、皆さん、閉鎖ですか。（「違う。閉鎖じゃなか」と呼ぶ者あり）ですので――すみません、か弱い発言ありがとうございます。ですので、私は佐賀新聞がこれは事実を率直に認めて閉鎖ということを撤回しない限り、閉鎖ということを撤回して修正の文書を書いてくださらない限り、我々はどうも佐賀新聞はとりません。

しかも、きのう横尾さんから私は9時過ぎまで取材を受けましたよ、電話で、疲れ果てているときに。しかも閉鎖と書かれるんですよ、閉鎖って。宮本栄八議員みたいなわけのわからん人は何を言ってもいいですよ。閉鎖じゃないです。ですので、一切の佐賀新聞の取材にも応じません。それは私のみならず、職員も同じ話です。ですので、修正があつて、佐賀新聞に、目立たないところはだめですよ。目立つところにちゃんと、これは非を認め書かない限り、もう私はこの対応を続けたいと思います。もとより私も個人的にはもう佐賀新聞はとりません。

ですので、それね、やっぱり公器というのは、それだけの影響力があるんですよ、本当に。きょうも問い合わせは山のようにありますよ。本当に閉鎖するんですかって。しかも、僕は人を批判することはしませんけど、庭木さんも情けない。佐賀新聞に書かれていましたけれども、あの人が教育長だったときに、この浦郷さんは教育長で蘭学館をこうしよう、ああしよう結構おっしゃるんですよ。古賀部長もそうです。しようて。しかし、僕は少なくとも彼と1年間仕事を一緒にしましたけど、一言も蘭学館についてこういうふうにしようというのはありませんでしたよ。ないにもかかわらず、評論家のように、あのよう到我々がやろうとしていることについて残すものだと思っていたと、それは思いは自由なんだけれども、あそこまで言う必要は僕はないと思いますよ。

ですので、どっちにしてもね、ただ、方針を変更したというのは、そうだと思います。方針は、それは率直に認めます。それは佐賀新聞さんの言っているとおりです。だから、記事の中身についてはどうこう言うつもりは全くありません。ですが、この件に関して言うと、やっぱり報道のあり方についてはきちんとしてしかるべきだと思います。もし反論があられるんだったら、ぜひ紙面に書いてほしいと思います。こそこそしないで。もう僕は1回社説も批判しましたがね、ナシのつぶてですよ、ナシのつぶて。これね、僕が批判をすると必ず再批判も来ます、いろんところで再批判が来ます。それがいいんですよ。だけど、僕ら

が投げたのに対して全くないということは、今まで佐賀新聞だけです。ですので、これも重く受けとめてほしい、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

新幹線の現在の状況並びに今後のスケジュール、それから現在のスキームですね、これについての御質問だと思いますが、現状につきましては、事業の進捗につきましては、ことしの6月29日に事業認可が新たに長崎までの延長を含めてあったわけですけれども、20年3月26日に事業認可をされて以来、これまで武雄－諫早間については事業が進められてまいりました。この事業の進捗率については、現在28%程度ということで聞いております。

今後のスケジュールですが、武雄－諫早間につきましては、25年ぐらいまでに用地交渉を終えて、それから土木工事に入っていくということで、平成32年まで工事を行い、33年に試運転、あるいは開業の監査等を受けて34年の開業ということです。

それから、追加になりました諫早－長崎間につきましては、本年度から事業説明を始めまして、平成24年、25年で基準点、中心測量等を行いまして用地交渉に入っていくと。これについても、平成32年まで工事を行いまして、33年に検査、試験運転、それから、34年の合同の同時開通という計画でございます。

それから、事業のスキームでございます。

これにつきましては、現在、総事業費で、今、武雄－長崎間が5,000億円というふうなことで言われておりますが、このうち3分の2を国が負担をし、3分の1を県が負担をするというふうなことになっております。この県の3分の1の負担の中に、用途区域に係る部分が市の負担ということで10分の1来るといような基本スキームになっております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

まず最初に、市長からも、やっぱりペーパーは怖いですね。いろんなところに影響を及ぼします。いろんなこともありますけれども、これから先、壇上で言いました、武雄市は注目されているので、いろんな事業を展開して行って、さらによそよりも一歩先というのをこれからは頑張ってやっていっていただきたいと思います。

先ほどの新幹線のスキームですけれども、新幹線長崎ルート、すみません、画像が撮れなくてこれで。これ、きのう3番上田議員が言われました。こういうふうにならば新幹線が来たら、こうやって来て、こうやって行くのが一番ベストじゃないかという話まで出ました。なかなか私ちょっと画像をつくられないので、アップさせてなかなか見えないんですけども、そういう話も出ました。これは整備新幹線ですね。

ただですね、もう前から言っているんですけども、これ、グーグルでちょっと撮っておいた。私は何で一回高速道路ば出んぎいかんかなと思うて不思議だったんですよ。これ高速ですね。高速、ここがインターチェンジですね。新鳥栖駅でこけあったとですね。インターのすぐそばかなと思ったら、やっぱりこう来て、こう来んぎいかんとですね、高速道路ば行くには。ちょっと気づきませんでした。こうですね。だから、高速道路沿いにこう行くぎよかと私も思いよったとばってん、やっぱり1回ここまで来てからこがん行かんぎいかんとですね。ちょっと私も認識不足だったんですけども、そういうふうな話なんですけれども。

これは、鳥栖－武雄温泉間をフル規格で整備すれば佐賀県の負担はさらに750億円の上乗せ、これは佐賀県知事がおっしゃっています。フル規格でやったらですね。この750億円とはどのところをおっしゃっているのか、私はよくわからないんですけども、とりあえずこういう発言をされています。

県負担は、先ほど言われました。平成9年の分で、工事費の3分の1を県負担、その中の交付税措置が45%ありますので、18.3%が実質の県の負担となります。これは今までのとを変えたやつですので、これはよかです、すみません。

東海道新幹線、山陽新幹線、この2つはもう地元負担はなかですね。もう国鉄が全部つくりました。東北新幹線、上越新幹線、これはJR、そして国、国策でつくったわけですね。地元負担なしです。財政投融资でつくりました。ここはそういうふうにつくったと。国鉄の自己資金、国の財政投融资でつくったと。そんな中で、何でそういうふうな、大都市と大都市、例えば新潟も大都市かもしれません、そういうところは国費で全部つくって、我々のところは地元負担ば出せて、これは武雄市に当てはむぎぎどうということかと、武雄と朝日は市の金でつくります。そこから先、若木につなげたかぎ地元の金ば出しなさいて言われよごたあ感じなんです。やっぱり同じように国策としてやっていただきたい。

これはどういうことかということ、ちょっと話が飛びますけど、武雄が一番景気のよかったとき、前言うたですかね。武雄が一番景気のよかったとき、昼の仕事も忙しい、夜のまちもいっぱい、これは高速道路ができておったときなんです。高速道路ができていときは物すごく武雄は景気がよかった。もちろんその周辺よかった。今、新政権に期待するのは、外交もあります、いろんなありますけど、経済対策、地方の経済対策もあります。経済対策の中で、ぜひ地方のこういう整備新幹線の部分も国費でもうやりますと、経済対策のために。なおかつ、これは何でできるかということ、長野のときだけこれの今までのスキームを無視して財政投融资でつくっているんですけど、長野のときだけ例外で。同じように、例えば、前の自民党の麻生政権のとき、その前の政権のときも財政出動で7兆円とか11兆円出しているんですけど、財政出動で。そのときと同じようにこっちのほうもやっていただければ、地方負担なしに経済の、何というですか、流通のかなめになる新幹線が端々まで行くわけですよ。そういう声をぜひ、オピニオンリーダーである、ローカルガバメントのオピニオンリーダーの

武雄市が先に手を挙げていただきたいと。負担があるとどうしても、例えば知事も二の足を踏む。ぜひ次の政権にこのスキームを見直してくれというのを武雄から手を挙げていただきたい。

それで、議会も末藤議員さんが新幹線の特別委員長です。ふだんは消防団長で火ば消しよらすばってんが、今度はもうそれをたきつくごと、末藤さんも頑張っていただけだと思いますので、ぜひその辺の御所見を市長にお伺いし、ぜひローカルガバメントのリーダーとしてさらにこういうのをやっていただきたい。それで、最終的に景気を上げていただきたい、その辺の所見をお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあ、今の新幹線は、あれは鈍感線でもんね、今のまま行けば。あれは新幹線じゃありませんよ。もう在来線の延長です。

ですので、きのうもお答えしましたけどね、上田議員のときにお答えしましたけれど、もしこれがフル規格になった場合に、一番じゃ便益、利益を供するのというのは佐賀県外の人なんですよ。ですので、これを地元負担というのは、そもそももう自己矛盾も甚だしいんですね。幸いにして——選挙の話じゃないですよ。今村雅弘さんていらっしやるんですよ。されるかされないか知りませんが、この人が国会議員で何をおっしゃっているかという、要するにフル規格でもうやろうと、私聞きましたよ、そのときに。これ国費、うち、県も市も貧乏だから、それ出せませんよと言ったら、国費で頑張りますておっしゃいましたもん、今村雅弘さんという人が。ですので、今度政権がかわったときに、先ほど傘田前議長さんからあったように、これは真っ先に行きます。言ったことは実行してください、言ったことを実行しないのは民主党と言いますので、あなたは自由民主党だから頑張ってくださいと言いますよ。

ですので、ただ、そうは言っても、じゃ国民がそれで納得するかと、これはまた別問題です。ですので、我々はまちづくりを頑張ってより多くの人たちに、これは嬉野とか諫早とか大村とか、全部そうですけれども、やっぱりそこは頑張りを、税金を払ってくださる国民の皆様方にも見せなきゃいけないということになりますので、そこはソフトの分は一生懸命頑張ります。今まで以上に頑張りますので、ぜひそれもあわせて、我々とすれば国に直談判をする必要があるだろうと思っております。そういった意味で、ぜひ末藤委員長さんを初めとして、議会でも決議をしていただくというのは大事だと思います。

それで、最も大事なものは、これをやるから県とか市の負担がふえるというのは、僕はこれは反対です。すぐ国土交通省とかそうやろうとするんですよ。僕も役人をやっていたからよくわかります、わけのわからない文書を書いて。それは絶対そうさせないようにチェックを

する必要があるだろうと思っております。力強いお言葉だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

新幹線、前、私ここで言いました。新幹線はいろんな役目をしています。2回目聞く人もいらっしゃるかもしれないですけども、昔、山口県山口市、安倍総裁が出ていらっしゃるところですね。あそこは山口県の中で一番大きな市だったんですね。ところが、新幹線が通るときに我々は要らないと言ったんですね。そこを避けて行ったんですよ。以前、その商工会のほうにお邪魔したところ、何で30年前、40年前の大人はここに引かんやったと、要らん要らんと言って、お金の無駄無駄と言って引かんやったと。おかげさんでこんなに商売、空き店舗がふえてがらがらになった。やっぱり先を見据えてやらんげいかん。山口市は今、山口県で2番目ですかね、それぐらい当時の人は先を見なかったというのはおかしいですけども、新幹線を軽んじておられたんですね。その結果がこうです。博多の明太子も地方の一お土産屋しかなかったのが全国区になった。仙台の牛タンもそうです。薩摩揚げも今、新幹線がつながってどんどんふえている。焼酎なんて以前は芋焼酎——私、酒屋ですからよく知っているんですけども、全国的に昔、芋焼酎というのは焼酎のシェアの何%しかなかったんですね。ほとんど麦焼酎で。今は麦焼酎を追い越したんですね、もう芋焼酎が。それぐらい新幹線というのは、もう5分とか20分しか短縮にならんとにせいしこお金をかけてという論理がありますけれども、それだけじゃない、いろんな側面を持っている。だから、ぜひこういうのをフル規格でやっていただいて、武雄が手を挙げて、全国に先駆けて手を挙げてこういうふうなスキームの組みかえをお願いしていただきたいと思ひますし、昨日市長が、これも上田議員さんの質問のときに言われましたかね、過去が大切、歴史を学ばないとということをおっしゃいました。これは佐世保の議長さん、あそこも佐世保競輪があるので議長さんと仲よくさせていただいているんですけども、佐世保には原子力船「むつ」を受け入れたときに、当時の与党から確約として新幹線を、西九州ルートを通すよと確約までいただいている。長崎県佐世保市が原子力船を迎え入れたというのは本当に重いことだと思います。それを、そういうふうな歴史があつて今に続いて、急にお金がこうやって負担だということを、ぜひ国に再度見直していただいてやっていただきたいと思ひます。

さっき言いました九州新幹線フル規格は佐世保市にもこれはプラスになる。そういうことで、ぜひ武雄市が先に動いて、もうどこよりも先に、武雄市が先に動いてやっていただきたいと思ひます。ぜひお願いしたいと思ひます。

では、次の質問に移ります。

ごめんなさい、これも写真撮ったんですけど、拡大したらこんなに、何かモザイクみたいになりました。これは498号で川古の大楠公園のやつです。今、498号のバイパスが通ってい

るので、この看板がなかなか見られなくなるんですね。この移設をぜひお願いしたい。これは地元じゃなかなかできないですし、行政のほうで設置していただきました。この看板、今度の新498号、そういうふうなことで、移設とかというのはどういうふうに可能なのかというのを伺いたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

案内看板は、マイカー利用者を含めて来訪者の有効な手段の、道案内の有効な手段と考えております。

この看板につきましては、若木町振興協議会で計画されているいろんな整備とあわせて、また、基幹道路の498号の整備、進捗状況を見据えて設置場所を含めて対応していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

対応していただくということで感謝を申し上げます。

では、次。雪ですね、もう寒くなって、きょう朝、雪が屋根に積もっていました。うちは御存じのように若木です。若木の、これうちの前なんですけど、ちょっと降っただけでこんなになっちゃうんですね。うちの前です。（「けさじゃなかろう」と呼ぶ者あり）けさじゃないですよ。去年のやつです。けさじゃないです。うちの、去年降ったやつですね。もうこんな状態で出られないんですね。ところが、この上に498号、今の498号が通っているところ、通っているんですよ、もう解けて。これもうちですね、もうこんな感じで、私は四駆ですから、ちょっと行けたんですけども。これはちょうどうちの前の道路です。

ぜひ、ここで伺いたいのは、もうすぐ雪、毎年のようにこうやって積もります。地域によくですね、例えば若木町だと中山地区とか御所地区とか川内地区、塩化カルシウムをもう前もってやっていらっしゃるんですね、塩化カルシウムを。降りそうなとき、降ったときにそれをまいてこういうふうなことにならないんですけれども、例えば、やっていただきたいのは、山間地はもちろん必要ですけれども、普通の平地のところ、武雄町でも同じだと思いますよ。山内町でも北方町でも平地のところでも、メイン道路は解けているけど、自分のうちの前からのところの細い道は解けていないというのが結構あるので、ぜひ要望があった地区からは塩化カルシウムを補給して、例えば前もって降るときはそこから、区長さんの許可をもらってまくことができるとか、例えば議長さんのところも、私、雪の日に何回かお邪魔したんですけども、本当大変だと思います。メインのところまで行けるんですけど、議長さんのところまで行けないんですね。そういうふうに、もし例えば市が許可するなら、

公民館にそうやって塩化カルシウムを置いて前もって、降るならその地域の住民、自分の家の前が欲しいというなら先にまくことができるとか、そういうシステムをとってもらえないか。これは田舎に住んでいると、年に何回かです、年に何回かですけれども、本当にメインの道路は通っているけど出られないというのが物すごく多いです。（発言する者あり）はい。ぜひそういうふうなシステムにできないものか。これは実際、去年ですね、私の知合いが通れるって思っていたけど、そこが通れなくてひっくり返ったというのもあります。この部分をお願いできないかというのが1点目。

それともう1つが、県道とか国道とかあります。そういうときに、市の道路だけじゃなくて、県道、国道のほうも大丈夫なのかというふうな、きちんとどこどこ地区はいつも雪が降るからというのを市から連絡を、きちっと連携をとり合ってやっていただきたい、この2点をちょっと要望したい、要望お願い、お伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

寒くなってきました、また雪の心配をする時期になりましたけれども、凍結時の道路の対応につきましては、現在、要望してもらっている箇所についてはあらかじめ塩化カルシウムを置いておって、地域の方で対応をいただいているところがございます。したがって、もし市道に限らず生活道路等もいいと思いますので、要望していただければ事前に塩化カルシウムを配付いたしますので、よろしくお伺いしたいと思います。

また、国県道につきましては、大体が雪が降ったときには業者対応をされていると聞き及んでおりますので、それも現場に、橋のところとか、あるいは峠のところに置いてあると思います。それを業者さんがまいていらっしゃるということで、一応国県道については対応がなされているんじゃないかなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。要望があれば、そうやって出していただけると、本当にもらえると思っている区長さんは少ないと思うんですよ、山間部しかもらえないというふうな。今、答弁でいろんなところから要望が出て、本当に周辺部でもちょっと雪が降るところは暮らしやすくなると思います。

それと、国県道を業者さんをお願いしているということだったんですけども、確かに業者さんをお願いされているんですけども、さらに、さっき言ったようにもう前もって、今度危ないからあそこのところ注意しといてよというふうな声かけのほうをお願いしたいと思います。

では、今のもよかったです。次に行きたいと思います。

これは湯煙、そうです、別府でよく鉄輪温泉、やっぱり通りに湯煙がこう出ているとすごい雰囲気があるんですね。湯煙。武雄温泉はちょっと湯煙が寂しいなということで、きのう吉川議員さんの質問のときに給湯事業があつて、楼門のほうまで、向こうまで引っ張っていききたいというふうな話があつたと思います。そういうときに、ぜひ、もしよければ何らかの仕掛けをして、湯煙が出るような仕掛けが給湯のほうでできればやっていただきたいし、その中に例えばプラスして、温泉旅館の人は温泉旅館の予算で硫黄をまぜるとか、市はちゃんと給湯を引っ張ってここで自然に湯気が出ている。やっぱり何か、よくこれはですね、いろんな方に言われるんですね。何か湯煙がやっぱり温泉は欲しかねて、欲しかねて、武雄はなかもんねと、何かそういうふうな仕掛けが、通りということでできないか、ぜひ給湯事業で引っ張るときに支管を1本上に持って行ってするとか、何かそういうふうな手だてができないか、そういう仕掛けができないか。

これはやっぱり前から言われていたんですね。何か仕掛けができんかと。これは武雄の市役所とか執行部だけじゃなくて、旅館組合もそうだと思います。旅館組合も同じように協働して、産官学で協働してそういう事業をやれないか、武雄市がやるんじゃなくて協力して、向こうも我々もこれだけすっけんがとか、そういうふうなことでこういうふうな湯煙事業みたいなのができないものか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

賛成。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ですね。やっぱりそうやっていただけるとあれなんですけど、やっぱり何か仕掛けが欲しいなというのはいろんな方からも言われているので、ぜひ、賛成は賛成でもいろんなやり方があると思います。例えば、主体は旅館組合でやってくださいと、市はそれにちょっとアドバイス、補助する程度、もしくは逆かもしれないです。そういうふうな、ぜひこれは——本当は、自分は旅館組合から頼まれたわけでも何でもなかばってん、そういう要望が本当は出んぎいかんですね、早う。

〔市長「そうです」〕

こがんことも何十年て言われとおとやつけんが。そいけん、ぜひそういうところを鑑みて、再度、「賛成です」の次の言葉をお待ちしています。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そうなんですよね。これ行政が主導してやるような話じゃないので、おっしゃるとおり、旅館組合さんがこれをやりたいということであれば、硫黄をまぜていいのかどうかよくわからないですけど、これ、この白い、今出ているのというのは、硫黄分が結構入っているんですよ、温度というより。ですので、白くする工夫が必要で、武雄温泉の場合はあれなんですよ、僕はこれよかったと思うんですけど、硫黄分が少ない、で、においも少ないじゃないですか。ですので、もし硫黄を入れると、これにおいが、鉄輪も結構においしますもんね。発生するということにもなるので、それが温泉風情を醸し出すのか、臭いとなるのかはちょっと別にして、その仕掛けは必要だと思っています。

何かスカイツリーみたいにどーんてまず1個、やっぱり細々とやると、結局、ああやっぱり地方はこんなものだとなると思うんですけど、例えばこの管が引いてあるところに、さっきおっしゃたように、支管を入れてどーんて、もう四、五十メートル出たら、それは結構写真のスポットになるんですよ。その奥に例えば楼門が見れるとかっていうふうになると、そういうやっぱり仕掛けが、仕掛けといっても、もう大がかりな、何じゃこりゃっていうぐらいの、そして、もしだめだったらやめるというのが、やっぱり今まで地方が大体失敗していたのは、予定調和的に、例えば四、五カ所とかというふうにして、結局、大したことないというのが大体地方の失敗なんですよね。だけど、やっぱりここはみんながどぎもを抜くぐらいの、ごおっていうのができればいいなと。これ、旅館組合がぜひその要望書を出してほしいなというのは思います。技術的に多分できると思いますけどね。そういうふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

何か駆け足で質問をしているんですけど、本当に中途半端というのはだめですね。

〔市長「うん、だめ」〕

やっぱり話題になるような。きのう吉川議員の質問の答弁で、たまたまこうやって重なったんですけども、ぜひ旅館組合の方がもし見てらっしゃったら、そういうふうなチャンスです、チャンスとかそういう機会を利用してやっていただきたいとしますし、これからもともに、やっぱり温泉地武雄ということで頑張っていたきたいと思うし、我々も勉強していきたいとします。

では次、平成24年度武雄市空き店舗活用事業募集要項、これは空き店舗事業というのを武雄市はやっています。その中で、店舗を開店する際の店舗改装費の3分の2を補助します、補助金の上限は100万円、これはいい事業ですよ。店舗を借りて100万円出るわけですから、

上限ですけれども、出るわけです。物すごくいい事業だと思います。ところが、場所が武雄町の温泉通りと宮野町、これだけにもう限定されるんですね。限定されるんですね。やっぱり限定されるよりも、これちゃんぽんサミットです。これちょっと話の違うごたあ感じばってん、ちゃんぽんサミットがありました。武雄見えています。例えば、同じように、このちゃんぽんサミットが武雄であったと、北方のちゃんぽん街道、おいも開店したかて、北方の通りに。ばってんが、この空き店舗事業は宮野町と温泉通りにしか使われんわけですね。そこだけすばってん、このちゃんぽんサミットのあって、やっぱり北方のあそこに出したかというてもこれは使えん。例えば山内町のそういう通りに空き店舗があって、借りてしたかというても使われん、もう武雄の宮野町、温泉通り限定されている。

やっぱりそういうふういろんなことがあっている中で、やっぱり機会均等にそういうふうに出したいというところもあると思うんですね。温泉通りにちょうど出したかった人はこれでもうびしゃい合うけんがよかですけれども、じゃなか人は、武内町の梅ノ原のところに通したいと、多々良につくりたいと言うてもだめ。いろんな、朝日の高橋通したかという人もこれは使われん。やっぱりですね、いろんな人たちが、さっき言ったように、武雄は注目されているから、いろんなど来たいという中で限定されているこの空き店舗事業、さっき言ったちゃんぽんサミットは一つの例です。せっかく北方につくりたかけど使われん。ぜひこういう空き店舗事業というのは注目される武雄市の中で使える事業、そして、先ほど23番議員の質問の中のいろんなシェアハウスにしても何にしても、いろんなことができると思います。ぜひこの点に関していろんなどころでも使えるような空き店舗対策事業ができるかどうか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、もうそのとおりだと思います。ただね、ちょっと制度を言えば、さっき副市長から教えてもらったんですが、空き店舗の場合に、お金を出すと言ったときは、中心市街地活性化法に基づく、なったときは、県も出しているんですよ。県も出して市も出している、3分の1ずつ出しているんですね。したがって、このエリア以外、武雄市でいうと宮野町と温泉通りですよ。それ以外になると、県の補助は来ないんですよ。ですが、考えてみたときに、じゃ、その分、市が出せばいいということは思いますので、ちょっと具体的な制度設計に入りますよ。入って、ただし、どこでもいいということには多分ならないと思うんですよ。ですので、例えば先ほど話が出た北方町であれば、あそこのちゃんぽん街道であるとか、その奥のあそこの旧街道の部分であるとか、例えば山内町でいうと、あそこ、浦さんの家の近く、あそこ、あそこも宮野ですよ、宮野の街道の部分であるとか、という具体的なエリアがこれは絶対必要だと思います。そうじゃないと、納税者の人たちは絶対それは納得しません

ので、そのエリアで空き店舗をきちんとやったださるという部分については、これは一考の余地があると思います。検討をすと言ったらしないということになりますので、ちゃんとやりたいと思っています。

ですので、これ多くの方がきょうもまたごらんになられていますけれども、ぜひこういったエリアがいいよというのをどんどんやっばり教えてほしいと思うんですよ。行政が、あるいは政治が勝手に決め打ちしていても、なかなかこれほうまくいかないんですよ。そうじゃなくて、やっばり自分はこれをここでやりたいとかいうのがあれば、それはぜひ教えてほしいなというふうに思います。対象は広げたいというふうに思います。その額とかスタート時期についてはちょっとしばらく時間をかしていただきたいと思いますが、いずれにしても、これは議会の予算事案になりますので、今度の議会で、3月議会ですね、3月議会で皆様方と御相談をしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

単独でもそうやって頑張っていたら、本当に武雄市は注目されて来たいという方がやっばりいっぱいいらっしゃるんですね。だから、そういう方々のプラスになるように、武雄市はこうやってくれるばいと、一つ成功したら、それがうわさ呼び、さっきのシェアハウスと一緒にしれん、同じように相乗効果を呼びますし、先ほど県が3分の1、市が3分の1ということで、県の観光課なんですけれども、たまたま県の観光課長は同級生なんです。言ったんです、これ。「何とかならんや、県」て、「うん、難しかとばってん、武雄市さん動いておいたちば説得してくいろ」ということやったけんです。私もぜひ再度行って、県のほうも何とかできるように頑張っていきたいと、思います。力強いお言葉ありがとうございます。

では次、これは決算委員会のときにも言ったんですけれども、税の滞納の部分で、交通行政の中で言っていたのが、軽自動車の滞納件数というのが、平成12年から平成21年までの分なんですけれども、平成21年時点の軽自動車の滞納というのが254台、これ何で23年度ば出さんとか、24年度出ています、数字。でも、ここは完全に車検が切れている車なんです。23年度はまだ車検が来ていないからまだまだ、車検のとき払えばいいさというのがあるかもしれないですけれども、これはもう完全に車検が切れた台数、これは軽自動車だけです。普通自動車のほうもあると思います。これはどういうことかという、この分、税の滞納というのはわかりますけれども、万一この車の中から、武雄市に例えば254台走っているとしますよね、200台ぐらいが走っているとしますよね。走っていて、その車に接触された、ぶつけられた、ひかれたといったら、これは保険おりないんです。その人が資産を2億円とか3億円持っていたらいいですよ、1億円とか。でも、だめなんです。ひかれたらひかれ損

になっちゃう可能性が大きい。そういうのが254台走っているかどうかというのも私確認していませんけれども、やっぱりそれだけいっていると。何台かは中古車屋さんとかなんとかで動いているかもしれないし、中古車屋さんも大体2年たてば車検はとられていますよね。これは軽自動車だけです。普通自動車も一応調べてくださいと言ったんですけども、連絡がなかったのが調べられなかったのかもしれないですけども、これ逆もあるんですね。完全に自分が悪くなくて、向こうからぶつけられても、こっちが車検を通過してなかったら、100・ゼロでもゼロ・100になっちゃう。ぜひこういうふうな、ただの納税じゃなくて、これは走る分ですから、ぜひこういう分で、この納税の分で強化できないものか、これはもうナンバープレートで住所とかなんとかもすぐできますので、それが走っているのかいないのかという、そういう調査をやって、きちんと納税というかして、車検をきちんと受けてなかったら受けていただくということでやっていただきたいと思います。これはもう21年度時点です。これですね、23年度まで行ったら1,300台、全部でなっているんですね。これはもう完全に21年度までのをしているんですけども、23年度まででいうと1,334台がなっている。その辺のところの、こういう納税、危ないから言っているわけで、市民の生命、財産にかかわる部分ですから言っているの、ぜひこの辺のところの今後のあり方をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

御指摘のように、軽自動車税の滞納台数というのが実台数の合計で1,334台、そのうち車検が必要な自動車で滞納しているというのが1,111台ということでございます。

じゃ、そしたら車検が必要な車が無車検で走っているという実態についてはどのような方法で調査できるか研究したいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ実態調査をして、走っていたら本当に危ないですから、これはただの滞納とは違うと、動いていますから。ぜひそのところで、市民の生命、財産を守るという見地でこちらの部分はそういう調査をやっていただきたいと思います。

では、次の質問に移ります。

これ、カンボジアの一ノ瀬泰造さんのお墓です。カンボジアの知り合いから、何で道路交行政でこれかというんですけども、これ道路なんですね。これは向こうの知り合いから送ってもらった画像です。道路。ここが「泰造」と書いてあるんですけども、ここから向こうに行くと、アンコールワットから30分以内のところ。これは「泰造の墓へ」と書い

てあるんですけれども、向こうの行った知り合いが、ここの道が異常に崩れていると、向こうは三輪車ですかね、三輪車が離合できないような感じで道端も崩れている、カンボジアですよ、これは。向こうに行っている人はそこに永住というか、住んでいるので、そしたら、向こうはちょっと物価が安いので、メイン道路から泰造さんのお墓まで行くのに多分二、三十万円でもう十分整備ができるだろうと、この道路の部分ができるだろうということです。いろんな方々が、これはネットであれするといろんな方々がここを訪れています。ただ、なかなか武雄というのはPRできないし、もちろんずっと泰造さんのことを知っていらっしやれば武雄というのは出てきますけれども、ぜひこのところを、200万円、300万円というなら話は別ですけれども、20万円とか30万円とか、そういう形で本当にできれば、このメイン道路から泰造への道、お墓までの道というのを整備できないものか。私の知り合いが行っているというのは土木関係者ですから、多分その金額で間違いのないと思いますけれども、近年やっぱりアンコールワットというのは物すごくふえてきているらしいんですね、世界遺産に登録されてから。そこの通りの部分ですから、物すごく、こういう感じで、ここですね、物すごく通る方が多いらしいです。ですから、そういうお金でできれば武雄のPRにもなりますし、今度いつか市長がシンガポールに行つてという、そのときに一緒に何かそういうふうな形でこういうのができないものか。これは武雄市出身というようなこともありますし、カンボジアが、その友人いわく最近国内旅行がふえてきたと。カンボジアの中、何かやっぱり中国からいろんな企業、中国から移転した企業がいっぱい来ているらしいんですね。地雷の心配ももうこの辺はもちろんだということだったので、ぜひ、少ない金額できちんと調査してできるのなら、そういうふうな武雄の出身の一ノ瀬泰造というビッグネーム、そして武雄というもののPR、カンボジアの近年のそういう国内旅行、アンコールワットの世界遺産への観光客に見せることができると、以上の観点から、そういうふうなことができないかというのを伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、公費では多分無理だと思うんですよ。というのは、納税者が自分たちの生活も困って、道路も自分たちの前のところどうなっているのに、ちょっとカンボジアでどうなのって、多分僕が一般の——僕も一般の納税者ですけれども、納税者からすると、それよりも武雄市の例えば東川登とか北方町のをやってほしい、若木もそうだと思うんですけど、多分同じ額だったら、額の大きさとか小ささじゃなくて、そういうふうに多分僕はなると思うんですよ。

行政ができるのは、そこに例えば一ノ瀬泰造さんと武雄のかかわりであるとか、カンボジアのかかわりを、そういう例えばカンボジア語とか英語とか中国語等でそこに掲示をする、

展示をするということは、これは多分納税者は納得すると思うんですよ。ですが、そこに道路を引くというのは僕はちょっとどうかなというのは、ちょっと率直に市民目線を考えた場合には、それは思います。したがって、これね、これこそやっぱり実力ある議員さんの出番ですよ。牟田議員さん、あなたです。

ですので、これ募金とかやって、それで何か、我々がその調査を、そういったのは行政のほうはいいのかもしれませんが。そこはさすがに。その部分是可以すると思います。それで多分御支援というのはできるかもしれませんが、この道路の何とかというのは広くボランティアとかね、あるいは募金とかというのを生かしたほうがより市民が応援しようっていうふうになるし、受けたカンボジアの国民、僕も行ったことがありますけれども、ああ、武雄市民がやってくださったんだっていうふうになるのかな。ちなみに、カンボジアにはタケオという町もありますので。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうなんですよね。東京都が尖閣諸島を買うといったときに、やっぱりいろんな話が出ました。その中で最終的には募金が、あれだけの募金が集まったと。（発言する者あり）はい。ぜひそういうような募金活動、関係、そして、どこからかそういう声を上げてできれば物すごくいいことだと思いますので、御協力をよろしくお願いします。

では、続きまして、教育行政のほうに移りたいと思います。

教育行政、これは、この画像は中学生の社会の教科書です。社会の教科書。ことし、もう選定が終わりました。来年から新しい教科書に移ります。選定の前にいろいろ言うと、またそういう、何というですか、圧力とかなくなっちはいけない。選定後、また何年か後に変わるんですけども、その点についてお伺いなんですけれども、これ、うちの子どものやつなんですけれども、ちょうど今近代史とかいろいろ習って、たまに見たりするんですよ。見たらびっくり——私はですよ、ほかの人は何ともないかもしれない、私はびっくりするんですね。例えば元寇、元寇は全部遠征軍という、元が遠征軍を日本に派遣したとになっていますね。

日本が外に出ていくと全部侵略と書いてあるんですよ。日本が外に出ていくときには侵略と書く、向こうが攻めてくるときには遠征軍と書いてある、何でって思うんですね。最初にぱっと見ただけでですよ。

それと、さらに何ページかばらばらって見ていくと、毛沢東さんとかいろんな写真が載っているんですね。孫文も載っているんですよ。その下に何と「孫文の生い立ちから調べてみましょう」と書いてあるわけですよ。日本のほかの偉人とかのことを「生い立ちから調べましょう」と一行も書いてないのに、孫文のだけは「生い立ちから皆さん調べてみましょう」と書いてあるわけですよ。何で日本の教科書でって。例えば日本の聖徳太子を生い立ちから

調べてみましようとか、何とかとかわかりますよ。「孫文を生い立ちから調べてみましよう」とか書いてある、何でてやっぱり思うんですね。

それともう1つ、最近のやつをこうぺらぺらってめくってみると、ポツダム宣言のところですよ。日本軍、日本は当時ポツダム宣言を、これを全く無視して何とかて書いてあるわけですね。そいぎ、例えば何でわざわざ「全く無視した」とか形容詞をつけなきゃいけないのか。普通だったら、提出されたポツダム宣言を無視し、そういうような戦争が延びたと書くのはいいけど、形容詞にわざわざ、「日本はポツダム宣言を全く無視し」て、「全く」って何で入れなきゃいけないのとか、そういうふうな、もうざらざらっと見ただけです。まだいっぱいあるんですね。

昨今いろんな、今ほど領土問題とかいろんな歴史のことに興味を持たれているときはあんまりないと思います、尖閣も含めて。これも聞いた話なんですけれども、例えば、メドヴェージェフ大統領が樺太に来たと、そのときに日本でデモが起きて、ロシアの国旗を燃やしたと。それを見たロシアは、日本大使を呼び出して、あの燃やしたやつ、画面に映ったやつを逮捕させろと、ロシアで駐ロシア大使を呼び出して逮捕させろと言ったと、それぐらい言われている。ところが日本は、ごっとい中国に燃やされよおですね。ところが、中国大使を一回でもそういうふうに呼んで、画像に移っているから逮捕せろと言ったことがないわけです。もうそういうところが何か今の日本とか、いろんな事件が起きている日本の根底にあるような気がするんですね。

教育とは何か。教育とは、大辞林で調べてみたんですね、「他人に対して意図的な働きかけを行うことによってその人を望ましい方向へ変化させる」と、広義には「人間形成に作用する全ての精神的な影響を言う」というのが教育、これは大辞林で引いたやつです。

中学校学習指導要領は、歴史分野、第1項目に「歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。」というのが中学校学習指導要領なんですね。ところが、さっき言った教科書のやつは、あんまりいろいろ言うぎ、あんまりあり過ぎてちよっといろいろあつぎいかんけん、こいしこぐらいいすけれども、本当に我が国の歴史に対して愛情を深め、国民としての自覚を持てるのか。持てんこともなかとですけれども、教科書を選定する際にどういうふうに、これは権限は、選定は国ですけれども、選ぶのは市町村の教育委員会、選ぶことはできます。ぜひその辺の選び方はどうなっているのかというのをお伺いしたいと思います、まず最初に。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

(モニター使用) ちょっと話が長くなるかわかりませんが、今お話しいただいたのが採択——どこから言ったらいいですかね。

教科書を選ぶ際に、まず各学校、社会科担当の先生、ほかの教科はもちろんほかの教科ですが、何人か代表の方に研究委員会で研究を、右側の一番下ですね、していただきます。そして、もちろんここにも管理職の先生も入ってもらっています。その研究された意見を選定委員会というところで協議をしてもらいます。ここにも、もちろん管理職も入っております。その後、採択地区協議会で結果を聞きまして採択をするということになります。この選定委員会と採択地区協議会には保護者の代表の方も入ってもらっています。これは前回ぐらいから入ってもらっています。

それから、採択地区協議会で採択された報告を受けまして、今お話にありました、採択は市町教育委員会で採択するとなっております。ですから、その地区協議会で採択された教科書を採択するとなるわけですが、ここが一番問題が生じ——この前、問題が生じたところで、この採択地区内の武雄市で教科書を決めるというのは、この採択地区協議会で決められたのを追認するような形に結果としてなるわけですね。これは杵西地区でありますので、武雄市、伊万里市、有田町、大町町、江北町、白石町と、そういう形の採択地区協議会であるわけです。そして、県の教育委員会をここに書いてありますのは、もちろん採択したのを報告するということがありますけれども、県は県のほうで左上の教科用図書選定審議会というところで別に調査員を依頼して、そこの審議会で、例えば社会の歴史についてはどういうことが特徴として教科書はあるかというようなことを審議して、その資料が各こちらのほうの研究委員会にも資料として県のほうの資料も来るということでございます。

それから、特定の研究委員の人の意見に左右されないようにということで、この一番下に書いてある研究委員が研究されている段階で各学校からもそれぞれの教科書についての意見を聴取するようになっておりますので、研究委員会の途中あたりになるかと思いますが、そういう意見も参考にして研究をされているということでございます。もちろんこれは、無償措置法の法の縛りの中でそういうような経緯があっっているわけでございます。

ちょっとわかりにくいところはありますけれども、そういう経緯で採択しているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

わかりました。わかりましたけれども、前も1回質問したことがあるんですね。じゃ、その研究委員さんの報告の内容はどうなんですか、どういう内容が話し合われてこれに決まったんですかというのは公開されているのか、実際そのところで、例えばこんな大切なところを5分じゃい10分、1時間じゃ済まない、何回ぐらいその会議が行われて、その後、子ど

もたちの教育をされているのか、その辺は公開されているのか。されている、されていないで結構ですので、お伺いしたいと思います。

〔市長「それはせんばいかん」〕

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）研究委員会の教科書選定について一番注意されるところが、注意しないといけないところが、誰がそれを研究し、選定し、採択しているのかというところがわかった場合に、非常にいろんな教科書関係者等のあっせん等があるというようなことで、その個人名は出さないというような形で進められております。そして、調査書については、この研究委員会については原則非公開というふうにしてしております。その後の選定する段階におきましては、申請があれば報告書を公表するという形になっております。ずっと個人名については非公開と、委員の職名は申請があれば公表するというような形で……（「ここをされているわけですよ」と呼ぶ者あり）ええ。研究委員会は、個人名は非公開……（「内容も非公開」と呼ぶ者あり）調査書も非公開ということですね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、ごめんなさい、不勉強ですみません、これは初めて知りました。それはおかしいですよ。やっぱりね、これ我々の公費で大切な教科書を選んでいるわけじゃないですか。そこに非公開なんかあり得ないですよ。しかも議事録も出ない、こんなの密室談合じゃないですか。だから、僕はこういうのはだめだと言っているんですよ。

です、メンバーもともかくとして、やっぱりそうじゃないと、何でこのメンバーが入っているんだ、あるいは入っていないんだというのは誰も言えないじゃないですか。議会も言えないじゃないですか。私も知らないですよ。だから、それは改めてくださいよ、教育委員会は。本当に。

その一方で、私はそうは言っても、教科書を熾烈なね、これもある意味、利権ですから、いろんなところに売り込みが来るといのは、それは理解できます。ですが、それによって、じゃ、どうなるのって。いいじゃないですか、売り込みが来て。だから、そういう人をちゃんと信用できない人じゃなくて、信用できる人をやっぱり入れると。僕ね、この中に議員も入ったほうがいいと思いますよ。政治家の政治的意思じゃなくて、皆さんたちは市民の代表なんですよ。僕だって入りたいですよ、この中に。そうじゃないと、こんな、さっきみたいなばかな教科書なんか選びませんよ、本当。

〔21番「そうそう」〕

ポツダム宣言を完全に無視したなんてあり得ません。

〔21番「そう」〕

これは僕も大学で歴史、そこを勉強しました。絶対ないですよ。あのときの、僕は戦争を指導した人たちがいいとは言っていないよ。むしろ今の歴史的な価値から見ても、当時から見ても、それはおかしいことをいっぱいやっていますけれども、そこを完全に無視しなっているのではないです。事ほどさように教科書というのは、僕もばらばらこの前、質問通告があるので見たけれども、本当にもう恥ずかしくなる内容ばかりですよ。日本人が日本人であることを何でこんな教科書で卑下されなきゃいけないのかって、それは思います。

ですので、どんなに学校の先生、うちの学校の先生たち頑張っているけど、教科書がこうだったら頑張りようがないです、もう。ですので、ここはやっぱり一回精査しますよ。精査します。そうじゃないと、子どもたちがかわいそう。僕らがそうじゃないですか。おかしい教科書で学んで日本という国がどんなにひどかったかと、僕らはそういう教育だったんですよ、僕は。上野先生とかは違いますよ。だから、先生によって例外あるかも——例外というか、僕のほうが例外だったかもしれないですけど、ある先生なんか、日本というのはだめな国なんだと言うから、僕は素直だったんですよ、今も素直ですけど。そしたら、やっぱりそうかなと思いますもん。それだけ教科書とか学校の先生というのは物すごい影響は大きいんですよ。だから、それはやっぱりこの制度そのもののがこんなになっているからおかしな教科書だったり、おかしな教え方になったりするわけですよ。ここは正すべきだと思いますので、一回検証します。市長部局でもちゃんと検証します。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうなんです。やっぱり子どもを持っている親、そして、子ども自身もどういう過程でこの教科書が選ばれたというのは知る権利があると思うんですね。やっぱりそういうのを、これさっきおっしゃいました調査員、県の教育委員会への調査員による報告。研究のところは全く——ただ、これは形式なんです。研究会から来たのもう蹴られたことはないんです。変わったことはないんですよ、ここでひっくり返されたことというのは。ですから、そういう細かい内容がどれぐらいの時間をかけてどれぐらいになったのかというのはやっぱり知りたいと思うので、今後の検討課題の一つとしてぜひ捉えていただきたいと思いますし、やっぱり今こういう御時世ですから、きちんと子どもたちも育てたいし、きちんと国を愛する心、そして、郷土を愛する心というのをきちんと出していただきたい。そういうことを願ひまして、一般質問の最後の——これは終了でしたね、ごめんなさい。

少子化を伴う交通問題、これはちょっともとをただして言えば、みんなのバス、みんなのバスを4年前ちょうどこうやってさせていただいたときに、市長が、当時ですね、ワンマン

という言葉がはやっていました。ワンマンバスからみんなのバス、みんなのバスからスクールバスというふうな言葉でされてきました。そのときに、私は父兄直接2名、そして、そのときにメールを2通いただきました。本当に父兄のほうは助かると、うちの地区には子どもが2人しかいない。2人しかいないうちの1人がもう卒業すると、そういうときに子どもをどうやって送ろうかと悩んでいた。ほかの地区もそうです。メールも切々なことを訴えていただきました。みんなのバスの対応とかじゃなくて、そういう少ない地域、もう地区に1人しかいない山間部、離れているところ。議長のところは離れているけど大丈夫だと思うんですけども、やっぱりそういう地区というのが物すごくここ何年かで急激にふえてきました。そういうふうな救済措置、これはひよっとすると、きのう上田議員さんが言っていた部分にも重なるかもしれません。武雄までいつも送らなきゃいけないというのが自分の、地元小・中学校、保育園に送らなきゃいけないというのも同じ考えかもしれませんが、ぜひそういうふうな地域で本当に少なくなったところを、いつも親が、おじいちゃんがというふうについていけるのか、最後の質問としてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今でもみんなのバスについては、その地区の話し合いでお子さんを乗せたりというのはあります。ですので、今度、来年の4月から有償化になっていくんですね、そんなにたくさんはお取りするつもりは全くないんですけども、そこも地元でよく話してほしいなというふうに思います。地元の中で話してほしいなと。やっぱり足、特に川内ですよ、若木町でいえば、川内で僕も戸別訪問をしていたときに、それ切実にやっぱり訴えられましたもんね。

さっき牟田議員さんがおっしゃったとおり、おじいさんだったんですよ、そのおじいさんがいつも送り迎えしているけれど、やっぱり毎日しんどいと、いつ自分が車に乗れるかどうかかわからないと、非常に無理してやっているというお言葉を承ったときに、これはやっぱり行政は何とかせんといかんなということは思いました。ただし、これがわあって、本当にやりたいんですけど、わあって市内に広がると、それはそれでこれも税金で、納税者の税金で行われていますので、やっぱり極めて例外的なこととして僕は必要だと思っています。そういう意味でいうと、若木でいうと、やっぱり菅牟田の先のところとか川内というのは、その対象に当たりますし、例えば杉原議長さんの船ノ原とか、あとは、あそこの、誰でしたっけ、山口昌宏さんです、ちょっと忘れていました。昌宏さんのところの楠峯とか、あるいは黒岩幸生さんの先の例えば杉岳とかというところはその部分に値すると思います。ですので、武雄市でいったら200平方キロメートルありますけれども、その外円部ですよ、一番外円部の部分は、それはやっぱりちゃんとケアしなきゃいけないと思っていますので、まず私が

若木町に期待をしているのは、そのモデル、その地区の話し合いでどういうふうにするというそのモデルをやっぱりつくってほしいなというのを思っていますので、そういう意味での牟田議員さん、松尾陽輔議員さんには期待をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございました。

いよいよこれ最後のページ、これは大楠公園ですね。大楠公園、これは横から見ると羊のように見えます。幸せを運ぶ3,000年の羊で、これからも3,000年以上この武雄市がいいように続きますように願ひまして、一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で21番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10分程度休憩をさせていただきます。

休	憩	14時33分
再	開	14時46分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、4番山口裕子議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

こんにちは。議長の登壇の許可を得ましたので、ただいまより4番山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

12番目になりますと、いろいろと通告しておりました内容が重なってまいります。私は武雄市民の代弁者として、一生懸命お伝えしてまいりたいと思いますので、執行部の皆様方、よろしく願いいたします。

（全般モニター使用）それでは、まず最初に、今回、最初に図書館について質問したいと思います。

いろいろと事情が変わってきて、市民の皆さんもいろんなことに関心をまず持っていらっしゃるということが、私にとってはとてもいいことではないかなというふうに思います。いいにつけ悪いにつけ、いろんな声が届いていると思うんですね。今ここに上げている図書館は、以前にも言いました、山内町に図書館が欲しくて、一生懸命私たちがつくる準備をしているときに、大変参考にさせていただいた、ここは伊万里の市民図書館です。市民図書館と

いうふうに名前がついたのも、市民一人一人が本当に利用しやすく、市民の声を生かすというところででき上がった図書館で、大変魅力的な図書館であります。そういう意味では、今度、民間委託ということに対しまして、私はエポカルの図書館がつけられるときに何もかわってはいませんでした、今回、図書館が変わるということでたくさんの声が寄せられているということは、本当の意味で市民の声を生かされるんじゃないかなというふうに私は思っておりますが、そういう点に対して市長はどういうふうにお思いか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり市民の声が第一なんです。これはおかげさまで、いろんな首長さんたちと話す機会があるんですけども、大体おっしゃるのはね、何をやっても意見が来なくてとかってみんな言うんですよ、人口5万ぐらいの都市で、こういう地方都市はね。樋渡さんのところはどうかといたら、うちはすごいですって、もう山のように来ますって。マスコミもね、もう佐賀新聞なんか蘭学館を閉鎖とか書くし。だから、そういうふうに、もう一地方なのにね、それは佐賀のがばいばあちゃんの誘致のときからずっとそうなんですけれども、切れ目なく話題と笑いを提供しているわけですね。そうすると、それがマスコミに載せてくださることによって、市民の皆さんたちもすごくやっぱり関心を持ってくださって、それがこの投票率80%って、やっぱりいいと思うんですよ。やっぱり非常に市民と我々の距離が近い。近いということで、いろんな意見を公式、非公式に言ってくださる。きょう傍聴席に中島さんというきれいな女性の方がお見えになっていますけど、この方も本当にいろんなところでいいアドバイスを賜るんですよ。ですので、そういった意味からすると、本当に行政と市民が近いなということは感じますし、それが今の武雄のよさだと思っています。

ただ、私に対しては批判もすごいです。でもね、これがあるがたいんですよ。これがありがたい。批判もできないようなところは、もうだめだと思いますよ、私は。ですので、批判も賛成も、あと改善点もどんどん寄せていただいて、いいものは率直に取り入れて、もし我々がやっていることが間違っていたら、それは方針変更もします、修正もしますし、撤回もするし、謝罪もしますので、やっぱりどンドンどンいいものをつくっていくというのを市民の皆さんと一緒にやっていきたいというのが、就任直後からの私の思いであります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そういう意味で、私も議員という形で、たくさんの声を市民の方が寄せていただきます。きのうの上野議員の質問でもありましたように、本当にエポカル武雄フレンズの皆さん方のボランティアの様子とか、そして、それが少しでも市長のほうに届いて、さらによくなって

いくということをお聞きしたときに、本当にグループの人も喜んであったと思うんですが、市民の皆さんも、こういう活動されている方がいらっしゃるんだなということで、本当によかったなというふうに思っています。

また、こういう図書館とかは、たくさんのボランティアグループが盛り上げているというか、いろんな形でいいものにしていっていると思うんですね。それが本当に自分たちの図書館という意味で大切だと私は思います。このエポカルもそうです。本当に、私は子育て支援という形で、前もこういう居場所がありますかとか、ちょっと軽く質問させていただいておりましたが、活動されている市民の方から、もう一度お願いだから教えてということで、尋ねられましたので、きょう質問したいと思います。

ここが伊万里図書館の、下のほうにちょっと見えていると思いますが、ボランティアグループの会員募集中、おはなしキャラバンというふうに書いてあります。私は、ここ伊万里図書館に行って、撮影をお願いさせていただいて、撮影してきたんですが、ここが全部ガラス張りになって、ここはドアになっているんですね、ここは外の風景が見えているんですが、これは創作室と言うんです。おはなし会の方とか、いろんなボランティアグループの人が自由に借りられるお部屋ですね。そこで紙芝居の制作とか、ブラックシアターとかエプロンシアターとか、いろんなおはなし会に使うための活動の場所とか準備とか練習とか、そういうことをやっているお部屋で、やはり伊万里図書館をちょっといろいろ参考にさせてもらって、勉強したときに、本当にこれはいいお部屋があって、直結しているなというのを感じたところです。ガラス張りというのが、中でどういう活動をされているかというのが見えるというところがとてもいいと思います。エポカルのときは、じゃ、どうしていたのというふうに聞くと、会議室みたいなのが利用できて、中で何をやっているとか、そういうのが見えないから、突然失礼してあけてしまったりとか、そういうのもあったしということで、できればオープンなこういうお部屋を、ぜひとも用意してほしいよねという形を伝えられました。

そういう点から、エポカルでは4つのグループが毎週土曜日に2時半から3時までボランティアでおはなし会をしていたわけですね。すると、エポカル自体がちょっと響きが、結構音が響いていたらしいんですね。ですから、読み聞かせとか、そういうことをしていると、来館しているほかのお客さんにちょっと迷惑がかかったりという場合もあったということで、そういうところも勘案してほしいというふうに言われています。これが伊万里図書館で言う、乳幼児とか、ここをごそごそして、本に親しむことができるというような場所です。

ここまでですね、こんなふうにお話の、これは登り窯に見立てて、この中で階段式になっていて、その中でお話を聞くような、もうとても素敵な空間になっているんですが、これもいろんな形で、危ないとか、いろんな使い方とかもちょっと問題もあったとかは聞いていますが、とてもすばらしい読み聞かせのお部屋ができていますね。これが乳幼児の本とか、子どもたちが居場所とするところですね。こんなふうに、クリスマスも近いこともあつ

て、こういう飾りつけもしてありました。こういうふうに活動していく上で、さらにエポカルがこれからよくなるということだから、使う点で、一番そういう活動をされている方たちの要望が行き届けばいいかなというふうには思っているんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと2つに分けてお話をしたいと思うんですけども、（パネルを示す）きのうお答えをいたしました、2階の今の会議室なんですけれども、今これは学習室のちょっと手前のところですね、これはちょっとパース絵つくってなくて恐縮なんですけれども、ここをボランティアの皆さんたちの会議室にするということと、きのう部長から答弁がありましたけれども、1階にもその場所をちゃんと確保しようということを思っています。

特に子ども関係、お子さん関係については、私のほうにも直接御要望がありますので、ちょっと見せて、（モニター使用）今ですね、実際ありますのは、ちょうど入ってきたときのこの辺なんです。ここにあるんですけども、ここに読み聞かせの場所とかがあるんですけども、これ、さっき言ったように、ハウリング、音が響いたり、やっぱり遠慮されるんですよ、ここ結構いろんな人たちがいらっしゃるので。ですので、今度スターバックスがここにだっと来ます。雑誌販売があります。奥の部分に、先ほどの意見を踏まえて、子ども読書コーナーというのをここに作ります。この面積の1.4倍の面積を確保します。その一方で、じゃ、どういうふうにするかという、ここはちょうど角っこの部屋なので、光を十分に取り入れていって、なおかつ、ここに読み聞かせができたとかというのもしようと思っているんですけども、遊具も入れて、やっぱり子どもたちが本に親しむということと、図書館ということに空間として親しむというような環境をつくっていきたいと思っています。そういうことで、なおかつ、児童図書と開架図書の冊数は、今まで1万8,000冊だったんですね、これはそんなに少ない数じゃないんですよ。今度4万冊にします。4万冊にして、より子どもたちが、やっぱり本っていいなって、図書館というのは本当に来て楽しかったよねということで、子どもたちに本当に図書館のすばらしさ、本を読むすばらしさを何か知らせたいなど。そのときに、よく山口裕子議員さんがおっしゃっている親子との関係も、読み聞かせによって、また深くなるということも期待できますので、ぜひこれは力を入れていきたいというように思っております。これも本当にお母さんとか地域の皆さんたちのお声が、物すごく来るんですよ。やっぱり言われたのは、ここ今は茶室があるんですよ。そんなものありません。もうこの茶室、誰も使っていないもん、何か寝っころがったりとかね。そうじゃなくて、やっぱり納税者の人たちがつくってくださった場所なので、より本当に市民価値の高いことをやるというのがやっぱり必要だということで、そういった意見もし出なかったら、もう使いもしない茶室のままです。茶室から子どもたちの部屋、で、茶室というのはま

た違うところにちゃんとあれば、僕はいいと思いますので、また御意見を寄せていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

今のシミュレーションのような形で見せていただくと、本当にお母さんたちも安心されると思うんですね。何かしら先にCCCだとかスターボックスが入るとか、何ていうか、商業ベースに乗ったような形にばかり聞こえていらっしゃるみたいで、本当に子どもの場所であるのか、やっぱり行きづらいんじゃないのか、やっぱりそういう声がありますので、私も転勤族を10年ぐらいして、Uターンしてこちらに帰ってきたときも、やっぱり子どもを手を引いて行くところがなかったわけですね。だから、そのときにやっぱり行けるといったら、こういう図書館でお友達を見つけたりとか、行く楽しみとか、あと本で親しむ。ここに行きたいという気持ちにさせるというのが一番だと思うんですね。だから、ここで、皆さん聞いていた方とか、本当に安心されると思うんですね。ああ、そういう居場所も用意していただいているんだなということとかですね。あと活動をされている人たちが、さらに今から子どもたちのためにやりたいなと、やっていきたいなという気持ちになる場所になっていくことを私は願っています。

やっぱりいじめ問題とかでみんな心配して、この議会でも上がっていますが、市長もおっしゃいますように、やっぱり家庭とか地域、人とかかわりだと思うんですね。だから、ここで活動している人たち、また、読み聞かせのグループが武雄市内にも15団体ほどあります。私も西小学校で読み聞かせにかかわっているんですが、本当に子どもたちの様子が一番わかりやすいですね。もう反応といいますか、元気があるとか、どうしたんだろうとか、クラスによっては、全然違ったりするわけですね。だから、図書館が本当に真の意味で子育てを応援する場所とか、みんなで友達がつくれる場所とか、そういうところに、ますます少子化が進んだときに行きづらくなならないようにしていただきたいなというふうに思っています。伊万里図書館とかに行って、私は利用していたけど、新武雄市になったら利用できなくなってしまったんですね。行って読むだけはいいんですが、もう借りたりすることもできなくなったんですが、今度は武雄市は、たくさんの方が期待しているんですね。皆さん行けるらしいねということで。行きたい人が行けるってねという形なんですね。だから、そういうところも含めて、またいい形にですね、市長、蘭学館とかいろんな問題が出てきていますが、本当にさらに市民の声を生かしていただきたいなというふうに思っております。

それから、もう自治体とか市町村とかで共有できないとかじゃなくって、やっぱりいいものはお互い利用ができたというのを私は望んでいますので、そういう方向性というところでも、市長のお考えを聞かせていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕ね、もう一部の図書館が貸さないというのは、僕はあり得ないと思うんですよ。これはもし武雄市だったら、もう絶対僕貸していますよ。だからね、何でこうなるのか、もう不思議でならないですね。ですので、それを悔いても仕方ないんで、我々はまず隗より始めよ。門戸をたたいてくださった方は、温かく迎える。去る方に対しては温かくお気持ちを添えて、帰っていただくということが武雄市政の根幹だと思っていますので、利用の地区によって制限をかけたりというのは考えておりません。むしろ、いっぱいやって来てもらって、もう本が全部なくなるというぐらい、私は来てほしいと思いますよ。それが本の魅力だと思うんですよ。しかも、なくなると、またこれニュースになりますから、はい。また、どこかの新聞は悪く書くかもしれませんが、そういうふうに、私とすれば、やっぱり図書館が生活の中心の場になるようになればいいなと思っているし、こういう我々は、さっき黒岩議員さんからありがたいお言葉をいただきましたけれども、やっぱり我々はそのロールモデルをつくっていくんだということ、これが、別にCCCと組む必要はないんですよ、ない。直営でもいいと思いますし、例えば、あるところは丸善さんと組んでもいいと思います。そういったところが各地域の特色を出して、足らざる部分は連携していきますということが大事だと思っていますので、我々は、伊万里市民図書館ですよ、すぐれた図書館だと思います。ですので、そういったすぐれたノウハウは柔軟に、積極的にまた取り入れてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にたくさんのいろんな心配があった図書館なんですけど、今ですね、あっていると思うんですが、やっぱり市長からこういう答えをいただくことによって、大分皆さんもほっとされているんじゃないかなというふうに思います。

今回、この一般質問をするに当たって、子育て中の方に聞くときに、私たちは子育て中だから、本当にスターバックスといたらコーヒーも高いし、飲み物も高いから利用できんしとかって、そんな言葉もあって、私はびっくりしたんですよ。それで、いや、スターバックスのコーヒー飲まんでもいいとよって、図書館に子ども連れて行けるとよって、何もスターバックス、スターバックスって言うてるから、ここで飲まんと図書が借りられんということは何もないのと言ったら、ああ、そうよねというふうに言われたんですね。あとTカードでどうだこうだと言っている方も、別にTカード使わんでもいいとよっていうような。本当に市民の方は思い違いというか、マスコミとかいろんな形で先にニュースに出る部分で、

ちょっと取り違えて受け取ってある分も多いわけですね。だから、そういうところで、市長もまた、そういう誤解を生まないような感じでやってほしいなというふうに思っているんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあ、確かに私も誤解を生みやすい体質でもありますので、そこは十分に反省しなきゃいけないんですけども、だからもう、きょうの蘭学館の閉鎖というのはね、私もくどいので、もう何度でも言いますけれども、これが残念でやっぱりならないんですよ。残念でならない。佐賀新聞さん、いいですか。一旦書かれると、やっぱりそれが流布しちゃうんですよ。定着しちゃうんですよ。ですので、これ閉鎖じゃないじゃないですか、横尾さん。ですので、これはぜひお願いをしたいと思いますよ。

その一方で、さっきのスターバックスの話は、多くの武雄市民がオートバックスと勘違いしていたというのはあるんですが、いや、そうじゃありません、スターバックスなんですけどね、あれなんです。飲食については、これもさまざまな御批判を承りましたけれども、基本的には図書館内で本を汚さない、当たり前ですよ。人様に迷惑をかけない、当たり前ですよ。ですので、そのルールが守れるということを前提に飲食も自由ですので、コーヒーも自分のおうちでつくったコーヒーとか、いろんなものは持ち込んでいただいて結構なんです。ですので、図書館を自宅の延長のように使っていただければありがたいというふうに思っております。図書館は貸し本屋じゃありません。図書館は本当にいい空間の中で本に親しんでいただくということを考えていますので、きょうも、結構それ誤解されている方がいらしたようなので、それは議会を見てほしいということを申し上げたんで、やっぱりそういう疑問点とかもどんどんやっぱり議員さんとか我々に、またどんどんおっしゃっていただくと、言えば解決しますもんね。その流れというのを大切にしたいなというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私のところに寄せられる声も、大半の方が本当に期待をされていて、いつオープンだろうとか、ええ、4月じゃ遅いとか、そういう声のほうが意外と多いわけですね。だから、みんながもう行く楽しみとして、いろんな問題をきちんと解決して、本当に待ち望んで新しい図書館を待ちたいと思っています。また、ある方が、図書館は人生を変えるとまで言った方がいらっしゃるんですが、本当に私は小さいとき、大人になってもそうだけど、本に出会うということは大きな財産だと思うし、そう自由に行ける場所があるということは、それと、そういう環境で子どもたちが育って、大きくなっていくというのは、もう本当に大きな財産

だと思うので、市民の声を大事にしていきたいなというふうに思っております。

次に行きます。2番目の観光についてです。

今までの議員さんもおっしゃっていましたように、今回は本当に5万人から6万人のお客さんということで、物産まつりが大盛況でありました。私もボランティアグループのテントに2日間いたんですが、わあ、すごいなというふうに皆さん喜んで、楽しんでいる姿を見ていたわけですが、今回の成果を今後どういうふうに考えてあるか、今回のお祭りの成果ぶりをどういうふうに判断されているかをお聞きいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

物産まつりの売り上げ等については、まだ私が聞いていないので、本当の意味でのそういう成功かどうかというのは、まだ言える段階ではないんですけども、少なくとも御来訪された市民の皆さん、観光客の皆さんからすれば、非常によかったということをおっしゃっていただいております。ですので、ことしのよかったところはさらに伸ばして、幾つか課題もやっぱりあるんですね、場所の問題とかありますので、そこはちょっと少し修正をして、またやっていきたいと。やっぱり確信をしたのは、そんなに広いスペースじゃありませんので、やっぱり幾つかのイベントミックスをするということは、これは来年もやらなきゃいけないなど。ですが、フェイスブック学会総会はもう来年はしません。やっぱりこれはやると、もうマンネリになりますので、あわせて図書館シンポジウムをやります。もうフェイスブックより、来年の武雄市は図書館ですので、だから、図書館シンポジウムをして、世界中から図書館の識者にお越しいただいて、そこでいろんなディスカッションをしたり交流をしたりというような仕方をしたいと思っております。

何でそんなことを言うかということ、長くなって恐縮なんですけど、私、パシフィコ横浜というところで図書館総合展というのがあって、物すごかったんですよ、来訪者が。私たち——私とCCCの高橋さんと、あと大学の先生でパネルディスカッションをして、講演も私しましたけれども、今までで史上最大に来たということなので、このCCC図書館に対しては、単に図書館のあり方ではなくて、この図書館そのものが本当の意味での観光資源にやっぱりなるんですよ。それをやっぱり初年度に生かすということを、ぜひしていきたいと思っておりますので、来年は武雄市は図書館の年になります。もうフェイスブックは卒業です。（笑声）冗談です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

モニター、ちょっと消してもらっていいですか。すみません。

次に、フェイスブック学会総会がもう大盛況だったということで、そこを尋ねようかなと思っていたんですが、もう来年はやりませんということですね。ちょっと、そしたら来年はもう終わりということで、私はフェイスブックも何もやっていなくて、ちょっと疎いほうなんですけど、やっぱりこれだけの人が前日から武雄に、ああ、ここが武雄市役所だみたいな形で、よそから来たようなお客さんが続々と来ておられたので、16日に私は入場券を買って参加させていただきました。場所としては、この辺に座っていたんですが、私は後から知ってびっくりしたんですが、伊勢谷友介さんですか、あの方の講演内容もすごかったんですが、来ていらっしゃってと言うと、もう本当にそれを聞いた友達が、何で教えてくれなかったと、何でそれは武雄に来られたのって、どういうつながりで来られたわけとか、自分から思って武雄市に来られたわけか、それとも、市長がそうやって呼んだのかとか、いろんなことを尋ねられたんですね。だから、いや、今からフェイスブック学会ってあるんだったら、もう今後ともそうやってつながっていくんじゃないかしらなんて答えていたんですが、そこら辺のところもちょっと聞かせていただきたいと思います。つながりとかをですね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、ディスカバージャパンという（現物を示す）本で、新しい日本観光ということで、以前行った南砺市もちょっと入っていますけれども、この中に「あの著名人は今」ということで、すみません、これちょっとさすがに電子媒体にできなくてすみません。これ伊勢谷友介さんがこうやって載っているんですよ。俳優伊勢谷友介とリバープロジェクトが——リバープロジェクトというのは、伊勢谷友介さんのまちづくりをやる団体ですけど、今、地方に注目する理由ということで、こう、つらつら載って、著名人の筆頭に載っているわけですね。ここのディスカバージャパンの皆さんたちが次に注目するところはどこですかというような会話が合ったんですよ。で、皆さんが武雄とおっしゃったそうなんですよ、武雄って。武雄が今一番おもしろいっていうことをおっしゃっていただいて、それで、伊勢谷さんがお越しいただくことになったんですね。ですので、もとより伊勢谷さんと僕はつながりがなかったんですけども、福岡空港にお迎えに行きました、伊勢谷友介さんを。基本的には、お迎えに行くというのは、もう絶対礼儀ですので、私みずから行って、そのときに車中でいろいろ話をしたときに、本当すばらしい方でした。もう意気投合をして、今度一緒に仕事をしましょうということにもなりましたので、そういった方々——発信力のある方ですよ——方々ともやっぱりきちんと連携をする必要があるだろうと思っています。

そのためには、やっぱり武雄市がもう少しブランドにならないとだめだというのはあるので、そういった方々から教えていただくということが大事だと思っていますので、やっぱりこのディスカバージャパンに載りたいですね、次は。これね、一般的にはそんなに実は知ら

れていない、るるぶとかのほうがよく知られてはいますが、このディスカバージャパンに載ると、これは観光業の人たちがみんな見ているんですよ、これ。もちろん我々行政も見てはいますが、ここにやっぱり載るとというのが、次の我々の目標ですね。やっぱりブランドはブランドを呼ぶんですね。婦人画報とか、家庭画報とか、あそこの旅館の、楽天でナンバーワンになった竹林亭。竹林亭も家庭画報、これ婦人画報かな、これ表紙のところは武雄温泉と書いてあるわけですよ。もうびっくりしましたもんね。それで、こうやって開くと、竹林亭さんがどんと載っているわけですよ。ですので、私も竹林亭にお邪魔したときに、ある品のいいお客さんが私と一緒にいらっしやっただので、聞いたんですよ。これ、何で竹林亭を知りましたかと言ったら、さっき申し上げた家庭画報か婦人画報、どっちかを見て、参りましたということをおっしゃったので、そういうことかなと思いました。単に、これからは発信するだけじゃなくて、こういうところにひっかかるような発信の仕方が、もう絶対大事だなということを思いました。伊勢谷友介さんのことは好きです。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私も後から知って、二、三年前の龍馬伝の高杉晋作の役をされていて、ああ、この人だったんだとか後から思って、その方が語ってあったんだなと思って、でも、フェイスブック学会も私も初めてだったし、どういう人が集まって、どんなことを発信するんだろうという興味もあって聞いていたんですが、私、この人はどういう人かとも知らずに話を聞いていて、この方が語られたときに、私はスマホも扱えないで、まだ携帯なんですけど、これを持って、この一つが、自分のことのために使うんじゃなくて、この一つのグッズ、ツールが世界の環境のこととか世界の平和のことという、そういうことを、使い方次第でとてもいい世界平和、環境のこととか、そういうことにつながっていくんだという一言を言われたときに、ああ本当にすばらしいなと。自分のために使うんじゃなくて、世界平和のためにという形ですね、言われたときに、ああ、こういう内容で皆さんが取り組んであるんだなということを感じました。また伊勢谷さんが武雄に来られる機会がありましたら、もっとたくさんの方が入る、文化会館の小ホールなり大ホールなりですね、そういう形で皆さんお話を聞きたいなというふうに思っておられますので、よろしく願いいたします。

観光の次なんですけど、これも昨日と重なってました。オルレコースが武雄市にできました。私も、市長はジョギングというか、マラソンで走っておられますが、最近、健康づくりという形で、市内、町内、本当によく歩かれていますね。そして、万歩計を持って、きょうは1万歩いったとか、2万歩いったとか言って、とてもウォーキングの人口がふえていると思うんです。それで、ことしからオルレコースに武雄市が選定していただいたということは、とても大きな魅力があると思うんですね。もう既に3月からたくさんのお客さんに来ていた

だいていると思うんですが、これまでどれくらいのお客さんが来ていらっしゃるのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）武雄コースの状況ということですが、3月のコース設置以降、韓国から多くの観光客が歩かれておりまして、20名程度の団体客については、韓国の旅行会社によるツアーで来客されております。主に市内の宿泊施設を利用されておりまして、観光課にてコースアテンドも実施しております。ほかに四、五名の個人旅行での歩かれる方も多くなってきております。

モニターのほうでグラフを示しておりますけれども、これが九州オルレコース4コースの韓国からの総客数、韓国の旅行会社のほうから九州のオルレに送り込んだ客数というふうなことでございます。

まず、青いほうが3月から5月までの総客数、赤が6月から8月ということになっております。武雄では3月から5月に423人、それから6月から8月に514人、計の937名となっております。大分県の奥豊後では、両方合わせまして1,564名、熊本の天草維和島では157名、鹿児島島の指宿開聞岳では732名というふうなことでございます。さらに、JR九州とのコラボによって、JRウォーキングに武雄コースを採用いただきまして、多くの方に武雄を歩いていただきました。さきの11月17日は120名程度の方が歩かれているというふうなことでございます。また、武雄町のまちづくり推進協議会によるオルレ体験会が開催されておりまして、これには100名程度の市民の方が歩かれておりまして、市民の皆様による啓発も行っていただいて、ありがたく思っているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

少し補足をすると、これは本当にうちの秋月と大野が中心となって、本当によく頑張っているんですね。もう寝食なく、これは本当に頑張っているんですよ。その結果なんですけれども、来年の3月末までかな、ちょっと領土問題の関係等があるので、定かじゃないんですけれども、900人から1,000人、韓国からお見えになります。これも、私も何度も行きましたけれども、やはりうちの職員が、みんな言うんですよ、武雄市の職員が熱心なので、ここに決めさせてもらいましたということなんです。特に大野君に至っては、私の知らない間に何か韓国語の勉強もしているんですよ。これは、民間から言えば当たり前というふうには言われるかもしれませんが、身内で言うのもあれですけど、本当にこれはうれしく思います。

どれだけ上達しているか、それはわかりませんが。その一方で、韓国語ってやっぱり難しいですね。難しいので、今度採用で、韓国語が自由自在にしゃべれる子を採用しましたので、できれば、これは人事の中で話をしたいと思いますけれども、その子を九州オルレの担当にできればいいなというふうに思って、人事権は僕じゃなくて副市長にありますので、余り受けませんでしたけど、そういうふうにしていきたいというふうに思っております。これは必ず伸びていくと思います。

そこで大事なのは、やっぱり地元の皆さんと韓国からお越しの皆さん、これ、次に台湾に多分飛び火するんですよ。詳しくは言いませんけれども、台湾に飛び火しますので、そのときに、そこで歩きながらまた交流ができればいいなと、ウォーキングされている方同士ね。それと、なおかつ我々市民とそういった方々が交流できる場というのを積極的につくっていききたいなと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にですね、私もちょっと遅かったんですが、ことしになって初めて韓国入りというか、韓国に行ったんですね。それは5月の麗水の世界博が初めてで、そこは本当に随分田舎で、また雰囲気違ったんですが、2回目は11月に釜山と慶州のほうに行かせていただいたんですが、本当に武雄のことをよく知っていらっしゃったり、日韓友好というか、ちょっときのうは市長も随分お怒りで、宮本議員さんにちょっとあれだったんですが、本当に私はこの日韓友好というか、この武雄市から、わあ、こんなふうにかくさんのお客さんがいらしているし、私たち武雄もおもてなしとして、一緒にウォーキングとかトレッキングができればいいなというふうに思うんですね。

今も、桜マラソンとかいって佐賀が打ち出して、もう定員がいっぱいになったと言っておりますが、武雄市はこのオルレコースをウォーキングの大会みたいな形で、名物というか、日韓友好も含めてですが、何かそういうふうに投げかけてもらったら、自由に参加しやすいよねという人がいるわけですね。何か自分一人でこのコースを歩くというのは寂しいし、何かそういうふうに韓国からお客さんがいらしたときに、一緒に友好を深めるというか、そういうトレッキングコースを歩けたらいいなという、一つのお祭りみたいなのを望んでいる声が聞かれるんですが、それに対しては、市長どうお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁に入ります前に、ちょっとおさらいをしたいと思います。

モニターをお願いします。

(モニター使用)きのう、ちょっとこれは申し上げましたけれども、14.5キロのコースなんです。具体的にどうなっているかというと、白岩運動公園の裏の、トリムコースと書いていますけれども、これ非常に見事な——行かれたことありますか。

〔4番「ないです」〕

すごくきれいなところだったんです。これ貴明寺ですよ、非常にきれい、その手前のお地蔵さん、きのう言いましたけれども、これ、お地蔵さんが観光資源になっているところなんです。これは山岳遊歩道で、ここもきちんと予算を入れて整備をしました。ですので、今は非常に歩きやすくなっています。これが遊歩道の頂上からなんですけど、御船山がこんなにきれいに見えるんですね。大楠ですね。みんな、ここにいらっしゃると、韓国の方でも非常に驚嘆の声を上げられます。行ってすぐには見えないんですよ。抜けたところで、ぱっと見えるんで、なおさら驚きをされると思います。これは武雄温泉の新館で、ここがラストの場所になるんですけども、こうやって、このコースだと、きのう上野議員さんのときに少し申し上げましたけれども、もともとの起源のチェジュ島、済州島のオルレに匹敵するのは武雄だけだということをおっしゃっていただいて、僕は人の言っていることはすぐ真に受けますので、この件については九州観光推進機構ですよ、あるいは九州運輸局は話をし、ぜひそういう大会を武雄に誘致したいと思っています。国際大会を誘致したい。国内的に言うと、例えばフェイスブック学会をやっていたときに、上天草で国内のそういう歩くシンポジウム、あったんですけど、二、三百人集まっていたそうです。武雄の場合は、これをやった場合には多分1,000人から2,000人は来ていただけだと思いますし、私が、外遊じゃありませんよ、チェジュ島に行ったときに一緒に20キロ歩いたときに、何と6,500人ですよ、6,500人の人が世界中から来ているんですよ。そのコースをですよ、20キロといっても、最初のところは交通渋滞。途中で婦人会の皆さんたちのおもてなしがあったりとかしてましたので、そういうことで、ぜひ大会をお願いして、ぜひ日本でやる場合は武雄でやってくださるように、これから動いていこうと思っています。

そこで、残念なのが宮本栄八通信なんです。もう、ああいう水を差すようなことはやめてほしいんですよ。宋さんという名前を出したりとかね。宮本栄八議員さん、ちょっと私、答弁中なので、静かに辞書でも読んでいてください。いや、あなたが行くと、もうわやになります。だから、もう来ないでください。ですので、それはもう我々で、あなたがやった不始末は我々でちゃんとしますので、もうああいうことを書かないでください、本当、オルレと領土問題とかね。ですので、ああいう水を差す行為はあったんですけども、それはそれとして、もう着実に進めていこうと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、本当にたくさんのお客さんも来ていらっしゃるし、武雄市内にお泊まりいただいていたりにして、本当に韓国から、今こういう問題の中でもやっぱり武雄市が仲よく人と人につながっていけば、とてもいい交流ができるんじゃないかなというふうに思います。

また、11月に釜山のほうにちょっと視察に行ったときに、個人的な友好で釜山女子大学の生徒さんが武雄市に宿泊を決められたというふうに聞いておりますが、これもすごいことだなというふうに思いますが、そこら辺の見解を、市長お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これはね、本当にすごいことだと思うんですよ。16日でしたっけ、15日から韓国の釜山女子大学の生徒さんを中心として50名お見えになって、温泉ハイツにお越しいただくそうなんですけれども、実は今までは、ああそうかで終わったんですけど、ここから先が今なんですよ。みんなフェイスブックを持っているんですよ、もう。しかもスマートフォンでやっていますので、この子たちが韓国語でもどんどん流すんですよ。これが一つの、おひとりるるぶみたいなものですよ。ですので、この人たちが、ああ、あの子が行っていると、宋さんが行っているとか、あるいは朴さんが行っているってなると、じゃあ行ってみようというふうになるので、今度その50人の、もちろん我々は関係しますが、そのときにぜひ言おうと思っているのは、どんどん発信してほしいと。ブログとかツイッターとかフェイスブックで、特にフェイスブックで発信をしてほしいということは申し上げようと思っています。本当に武雄に50人ですので、ここからがポイントで、これね、恐ろしいところで、もろ刃の何とかで、ここでだめだとなると、それまで発信されますからね。だから、受け入れるときというのは相当緊張感を持って、僕も言葉を選ばないと、これは結構大変なことになりますので、ぜひ武雄市民の皆さんたちもこれをごらんになられていると思いますけど、ぜひ、来られたら、いつものように接して、御挨拶をしていただければありがたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

釜山女子大学の方たちは日本語学科に所属して、日本のことをたくさん勉強されていて、日本語もお話しされますので、そういうとき、やっぱり武雄市民は、向こうは日本語もしゃべってくださるので、とても交流を深めることができるんじゃないかというふうに思いますので、それからまた次に始まるようなチャンスにしていけたらいいんじゃないかなというふうに思います。

実際に、韓国の方たちがお世話している方たちの話を聞けば、やっぱり福岡空港をおりて、

一番武雄市が1時間ちょっとで届くわけですね。そういうふうに温泉とか、風光明媚で、本当にいろんなものがそろっているということで、ここを選びたいというふうにおっしゃっているの、やっぱり今一番そのところを、つながっていくところを大事にしていけないといけないんじゃないかなというふうに思います。それについて御意見をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、本当、武雄市があれですよ、福岡空港から、しかも高速があつて、これは松本町長さんのおかげでもあるんですけど、1時間で、しかもインターから近いというのは、本当にこれはありがたいですよ。私も韓国に、外遊じゃないですよ、韓国に行ったときに、あれなんですよ、いろんな地区のことを言われたときに、同じことなんですよ。空港からどれぐらいかなとか、あるいはホテルからどういう交通機関があるんだろうかとかというのを考えたときに、武雄というのは、1時間というのは非常に、これね、1時間半となると、また感じ方、ね、山口裕子議員さん、違いますもんね。ですので、この1時間というのは本当にありがたいし、新幹線、フル規格になると思いますけれども、そうすると、さらに武雄市というのが韓国、中国、台湾、シンガポール、ASEANの皆さんたちから本当に愛される奥座敷になると思いますので、その間に我々は自分たちも含めて観光資源だと思って、それを磨いていく必要があるだろうと思っております。

ちょっと話はずれますけれども、私は、今の私を含めて行政そのものも観光資源だと思っています。観光資源だと思っていますので、議会の皆さんとか職員の皆さん、あるいはNPOの皆さんがどうぞございますけれども、もてなしの気持ちで、一回帰ってまた来たいなというように思ってくださいるように、我々は真摯に対応をしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

これは本当に新しい観光として、オルレコースというのが生かされて、いい観光資源になっていけばいいなというふうに思っています。

それでは、次に、これは山内町時代からボランティアとともに温めてきた、黒髪山の夫婦岩。サミットはもう既に終わりましたが、ライトアップというのが続けられております。これはいつも年末にあっていたんですが、一番忙しい時期と、天候が悪かったりして、いい夫婦の日という形で、11月22日に行われているんですが、ここも本当にお客さんが大変ふえているそうです。いい夫婦の日だけではなく、山を愛する方、今、山ガールとかそういう形で、山に登りに来る方、あともみじ狩りに来る方、桜を見に来る方とか、山内は本当に自然公園

のまちづくりという形で進めてきましたし、この黒髪山周辺にたくさんの観光客が集まってきている、ふえているということをボランティアで活動している方々がお世話をされていて、そういう話が聞かれますが、市長は、この黒髪山周辺をどのように捉えていらっしゃいますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

大切な自然遺産だと思っているんです。これは私たちが思っている以上に、さっき山ガールというお話が出ましたけれども、僕、ジョギングするんですよ、山内のほうもジョギングするんですけど、結構年配の方でも着飾った方が歩いておられるので、どこに行くんですかと聞くと、いや、今から黒髪に登りますって。どこからですかと聞くと、関西からですということ言われて、お泊まりはどこですかと聞くと、嬉野温泉とか答えられたりするんですけど、それはそれとしても、山内に本当に多くの皆さんたちがお越しいただいているということで、本当にうれしく思っています。皆さん褒められます。非常にけばけばしくないとか、高い建物がなくてとかということ褒めていただいていますので、これは今までの山内町民の皆さんたちのおかげだと思っているんですね。

それで、私が今後これをどういうふうにしたいかということ、もう少しうまい形でやっぱり宣伝をちゃんとしたいなと思っているんですね。ですので、さっき申し上げたように、泊まりが嬉野温泉でもいいんですよ。いいんですけど、できれば武雄温泉にやっぱり泊まってほしいじゃないですか。ですので、それが例えばパッケージになるとかということはやっぱり考える必要があるだろうと思っています。ちょっと私も実は、こんな偉そうなことを言っていて、黒髪山に登ったことがまだありませんので、ぜひ裕子議員さんと一緒に登りたいなと、このように思っております。妻も登りたいと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にですね、黒髪山は、黒髪山を愛している方がたくさんいらっしゃって、これに快くボランティアに参加してくださっている方が、本当に草払いからごみ拾いとか、いろんな形で応援してくださっているんですね。私も乳待坊会という会に入っていますが、山はこのごろマナーとか悪くて、結構ごみが多かったり、いろいろ大変なんですけど、この黒髪山は多分ボランティアの方たちが本当に熱心にしていただいているので、ごみが落ちていなかったら、やっぱり観光に来た人も持って帰るわけなんですよ。1つ2つ落ちていたら、やっぱりそこはなんとなく気が緩んで落ちていくみたいなのところがあって、ボランティアグループの方たちも不満も何も持っていらっしゃらなくて、山が好きだから、黒髪山が好きだから

らと言って、快くボランティアをしていただいております。ライトアップのときも、山内のまちづくり課の方たちとか商工会とか、いろんな方たちのボランティアによって、いい夫婦のライトアップがされたんですが、ことしがたまたまだったかもしれないんですが、ちょっと近過ぎたんですね。物産まつりの17日、18日であつたら、今度は22日という形でですね。ここはもう総動員してライトアップにというふうな形にならなくてもよかったかもしれないですが、日程的な形は、いい夫婦の日という選定はすごくいいと思うんですが、この物産まつりというのが今不定期に動いているんじゃないかなというふうに思うんですね。そこら辺の計画というのはないのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

後ろのほうから、今から考えると言ってくれと言われましたので、一応基本的な方針とすれば、あれなんですよね、民陶火祭りもそうなんですが、あと山内で窯開きが23日を中心にやられていたと。これね、メリットとデメリットがあつて、やっぱり一緒にやったほうが、一緒の日に、23日にこれらの祭りをやったほうがいいのか、その前後に、そうすると、夫婦の日と23日は重なるわけですよ。そうすることによって、省力化がひよつとすると図られるかもしれない。ですが、場合によっては雨になる可能性があるわけですね。そうすると、ことしは晴れて、去年も晴れてよかったんですが、大概是晴れてよかったんですが、全部アウトになる可能性があるわけですね。ですので、やっぱり重なることのメリットと離すこと、でも、余り離すと、これがまたちょっとあれなんです。やっぱり、何というんですかね、余りうまく言えないんですけども、効果を減殺してしまう可能性がありますので、一回これちゃんと話し合おうと、各団体の皆さんたちに寄ってもらって、そこで全員が満足するものはないかもしれませんが、納得するようにね、納得していただくように、その集まりをやっぱり一回しなきゃいけないなと思っています。ですので、私個人的には、個人的にはですよ、イベントは重なったほうが、雨の問題とかはありますけどね、重なって、例えば福岡から物産まつりに来ましたと、で、待っていると、そこで御飯を食べて、どこかでお茶を飲んで、夫婦岩のところからライトアップを見に行こうというような流れがあつていいのかなと。物産まつりのときは夜の流れが余りなかったんですね。確かにフェイスブック学会の影響で、泊まる人たちが多くて、そのときに武雄は全部ソールドアウトだったんですよ。全部もう売り切れで佐賀市まで、宿泊が足りないというぐらいまで、皆さん全国からお越しいただいたんですけども、そういうふうに、フェイスブック学会はもう4年に一遍にしますので、僕は学会長ですので、4年に一遍にしますので、来年泊まっていたくような仕掛けをするには、やっぱり夫婦岩、22日、その前の日にあるじゃないですか、夫婦岩を見て、泊まって、物産まつりに参加をするというのは一つのあり方だし、例えば民陶火祭りが23日に

ありますので、ライトアップが終わって午後から民陶火祭りに行ってみようとか、山内町の窯開きに行ってみようとかというような流れができればいいなと思っていますけど、これは押しつけるつもりは全くありませんので、会の中で、集まりの中で決めていただければありがたいなというふうに思っています。どう決まっても、我々は全面的に応援をします。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に黒髪山のライトアップとか自然を愛して、本当に自然の公園という形で、とてもいいお祭りなので、いい形で残していただきたいし、行政とのボランティアの方たちとの連携というのが一番だと思うんですね。もう本当に気持ちよくボランティアの方たちも参加してくださっているので、そこら辺の連携を、今後よりよくしていただきたいなというふうに思います。

それでは、次に行きます。

次に、各種行事の連携と統一。さっきのお祭りに関しても、よく似ていたんですが、今度、このチラシのように、（チラシを示す）人権フェスタ in たけおというのが、初めて武雄市民男女共同参画啓発イベントと合体して講演会をすることになりました。これは活動している人たちの声からも上がっていたんですが、もういろんな講演会が武雄市は今あっているんですが、こういうふうに何か一緒にやれるものは一緒にしたらどうだろうかという声も上がっていたし、多分そういうところで、こういう形になったと思うんですが、ほかにもいろいろ人権フェスタとか社明大会とか、いろんなPTAの教育講演会とか、いろんな行事、啓発の講演会とかあっていると思うんですね。だから、行政として指導できるかどうかはわかりませんが、これはまず第1回で12月22日にありますので、結果がどうだったとかこうだったとかはまだありませんが、こういう形で連携して統一していったりできないかというふうに、今後ですね、思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

議員さん御紹介のとおり、今年度は初の試みとしまして人権フェスタと男女共同参画啓発イベントということを合同開催しております。また、これまでもトムソーヤフェスティバルと子育て応援フェスタ、これを、トムソーヤ・ジャンボリーということで一体化して実施してきております。こういうことで、先ほども市長が申しておりましたように、相乗効果が出るというものは積極的に一緒になって、いわゆるアピール効果が高まるようにやっていくべきだというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口裕子議員

○4 番（山口裕子君）〔登壇〕

いろいろたくさんのを重ねることによって、啓蒙啓発できるかもしれませんが、どの会に行っても、同じような顔ぶれで、やっぱり動員されてばたばたしている様子があったりとか見受けられますので、より内容のよい、市民に啓蒙啓発できるような形にしようとしたら、こういうふうに、あっていませんけど、まだどういう結果かわかりませんが、人権といえば、いじめとか、そういうのもそうだし、だから、そういうふうにとめることができたなら、今後そういうふうな形ですべていけたらどうかというふうなふうに思って、ここで上げさせていただきました。12月22日はこういう形ですので、皆さん、その成果が出るかどうかかわかりませんが、みんなで参加できたらいいんじゃないかなというふうに思っています。

それでは、最後の質問に行かせていただきます。

最後の広報についてです。広報は2つ上げさせていただいておりますが、まず、今回、物産まつりで6万人のお客さんとかという形で、大変なたくさんお客さんに来ていただきましたが、このポスターについて、私のところにたくさんお尋ねがありました。「ひと」と「もの」の、グリーンと黄色の字がひっくり返っていると、あれは反対じゃなかろうとか、意味はどういう意味だろうとか、何でこういうふうなポスターになったんだろうとか、本当にたくさんのお客さんがありましたので、市長から、きちんとそのポスターの意味を言っていたらなと思いますので、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この答弁はまた物議を醸しそうなので、ちょっと冷静に答えたいと思いますけれども、物議を醸そうと思って、あのポスターをつくりました。というのは、今、ポスター見てもらえばわかるんですけど、武雄市の庁舎だけでも四、五十、ポスターを張ってあるじゃないですか。もう全部アピールをして、けばけばしくなって、なおかつ、あのポスター群を見るだけで、もういいやって、だから全く逆のことをやろうと思ったんですよ、逆のことを。だから、青と黄色がすごく似ていて、近寄らないとわからないんですよ。近寄らないとわからない。それともう1つが、字を「もの」と「ひと」をひっくり返した、これはデザイナーの中野さんのアイデアで、僕はいいなと思っているんですけども、考える、そこで。あのね、禅の禅寺はやっぱり考える仕掛けがあるらしいんですよ、そこで。だから、ここは禅の思想を十分に取り入れて、禅の思想を。そこで、立ちどまってやっぱり考えてみると。現代人は立ちどまらないで、考えないじゃないですか。だから、一旦立ちどまって、考えていく。これは私は議員各位からそれを学びました。立ちどまって考えると。そして、一呼吸置いて発信をするということを考えるということ、あのポスターにはそういう意味を込めました。その

結果、どういうことが起きたかという、賛否両論。あれでもいいという方もいらっしゃいます。もうこれじゃ全然だめだという方もいらっしゃいます。それで、あのポスターを見て、ああ、物産まつりというのはこの日なんだとわかっていただくことが達成できたということをお思いますので、我々はやっぱりタブーを破りたいんですね。タブーを破る。それと、これは吉川議員からもありましたように、今までの固定観念じゃなくて、そこから外れたところからもう一回見てみるというのは、私は山口裕子議員から学んだので、それをそのままさせていただいているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にあれは、役割はいろんな形で私はあったと思うんですね。やっぱり今はいろんな見方があるんだという意識改革というかな、そういう分を含めて、あれにはあったと思うんですね。だから、私は尋ねられた方に、あなたがそう言うように、ああこれは何だろうかというふうな、もうそれで効果があったというか、そういうポスターじゃないだろうかというふうに私は答えたんですが、それと同時に、もう1つ食育、もうずらっといっぱい書いた武雄の食育のポスターと、あと郷土芸能のポスターと、本当に比較がきちんとできるようなポスターが4枚もあったわけですね。だから、やっぱり市民の今までの価値観でいる人とか、あれはわかるよ、あれはよかったねという人の意見とかがいっぱい交錯したわけですね。私は私なりに、そうやって皆さんには説明しました。そしてまた、国会議員の小泉進次郎さんが来られてですよ、武雄を訪れられたときに、うわっ、このポスターはいいねって、すごい声を上げられましたよね。市長、これはすごいです。やっぱりこんなふうに改革しないといけないみたいなことを言われたので、やっぱりそういう意識がわかる方とか、そうではない方とかで、やっぱりいろいろ問題があるので、そこはやっぱり丁寧に言ってあげないといけないかなと私は思いました。やっぱりインターネットとか、フェイスブックとか、ホームページとか、いろんなもので情報をとれない人は、ああいうポスターを見て、どこに行けばいいのかなとか、同時に、どんな開催がされているのかなというのをやっぱり確かめたいわけなんですね。それにしても不親切で、もったいないポスターだったというのを、私に声を寄せられました。

それと、職員に尋ねられたそうです。このポスターは何だろうか、どがん意味のあるとねと。そしたら、職員がわかりませんということだったんですね。だから、余り職員の意識とか市民の意識も離れないぐらいに、ちょっと意識改革の意味もあるでしょうが、やっぱりそこら辺のことはわかっていただきたいなと。いろんな形で、だから、あのチラシも悪くはなかったと思いますが、そんな意見があったということで、再度市長の答弁を求めておきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

わかりました。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

またいろいろとびっくりするようなことがあるかもしれませんが、それなりに皆さんが理解して行って、いいほうに進んでいけばなと思っています。

それでは、広報についての最後です。モニターをすみません。

（モニター使用）これが次、イノシシの鳥獣害対策で上げられていますが、これの、私、広報で上げているのは、お肉がここの加工所でできているわけですね。それで、この加工所の方たちも本当一生懸命頑張っていて、どんなふうにして売ってあるんだろうなということでお尋ねしたら、物産館と道の駅で売っているということで、あとは、ここに来たら買えるということなんですが、ちょっと市長もどんなふうにしてあるかなと思って、ここで上げさせていただきました。やはりイノシシの害が多いという形で、これを一つの武雄の名物という形で打ち出されたと思うんですね。だから、もう本当に一生懸命頑張っておられるし、あとパトロール3人、捕獲隊が5人という形で、これも行政のほうからしっかりと、人員も確保していただいているので、ここで働いている方たちも、本当に職員の方たち頑張っているというので、ありがたいということで、まずまず運営がうまくいきましたということでした。

ここが、武雄地域鳥獣食肉加工センターというところですね。これが、ちょうど私が取材に行ったときに、イノシシがとれましたという形で持ってこられました。この方が持ち込んだ人で、こちらはお肉加工の人なんですが、まず、こうやって洗われるそうなんですね。そして、もう、ここ本当に狭いんですが、肉がやっとなら加工できるような感じで。もうこれは私もびっくりして、行ったらもうぶら下がっていたんですよ。（発言する者あり）それで、一生懸命2人でされています。これが商品なんですね。これがスライスした肉。売れるときは塊でも売っていらっしゃるそうです。これが新商品のハンバーグです。これは1個200円で、2個で400円売りです。2個入りです。これがカレー味のイノシシ肉です。そして、これはウインナーですね、3本。これ結構長いので、これが500円、500円です。これが400円ですね。これはいろんな上中下とか、いろいろ肉はグラム700円とか、500円とか、種類によってあるそうですが、佐賀牛より高いイノシシ肉じゃないですかとか、いろんな、余り喜んで、武雄の名物として愛されないといけないのに、なかなか、もうイノシシねという形になっているので、ここの加工所の方たちは本当に一生懸命、何とか広報して、今やっとなら調に

進んでいるという形で、本当に武雄市の職員も頑張っていて、いろんなところに販売の応援をしてくれたりとしているということだから、この販売の応援をもう少し、仕掛けた市長として、応援をしていただきたいということですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

モニターをちょっと変えてほしいんですけれども、（モニター使用）今ですね、これは業界誌なんですけれども、これは料理関係者の大抵の方が読まれている、「素材のちから」というところに、武雄のイノシシを集中的に今取り上げてもらっていて、これをごらんになられた有名旅館の方とか、あるいはレストランの方が武雄のイノシシを使っていたかということになって、肉の卸売業者さんとも直接関東、関西、九州にパイプができています。こういうプロ向きなところと、あと、やっぱり一般向けが大事なんです。これは「素材のちから」というのに書かれた中身なんですけれども、このように特集をされていて、写真もすごくきれいなんですよ。ですので、こういうふうにしていただいています。

一方で、先ほどの、ちょっとモニターを山口裕子議員さんののにしていただきたいんですけれども、これ、加工品になると、かなりやっぱり安くなるんですよ。安くなりますので、これをF&B良品等でちゃんと取り扱いたいと思っています。

実際ですね、さっきにちょっと話戻るんですけれども、私、那須町に呼ばれたときに泊まった旅館で、そのメインディッシュがイノシシだったんですよ。イノシシで非常においしい。本当においしくて、これ、出されているんですかと聞いたら、一番の人気。選ばせるそうなんです。イノシシと牛と魚と選ばせるらしいんですけど、やっぱり今は健康指向でイノシシを選ばれる頻度が高いそうなんです。ですので、これ本当にいろんな層でできると。やっぱりおっしゃるとおり、これをもっと安くしなきゃいけない。安くするためにはどうしなきゃいけないかって、やっぱり売れることなんです。売れば売れるほど、やっぱり安くなっていくと我々は思っていますので、とにかくF&B良品に、こういう加工品もそうなんですけれども、鍋セットみたいな形で寒いときに出していければいいなと。みそは角さんのところのみそとか、豆腐は平川豆腐とかというふうにして、地元の、単にイノシシだけじゃなくて、そういう鍋で売っていくということが大事だし、その鍋はもう例えば武雄の中の窯元のものを使うとかというふうにできればいいなというふうに思っておりますので、一生懸命売っていきたく思っていますし、各フェアがもうあっちこっちであるんですよ。広島球場とか——今は広島のマツダズームズームスタジアムとかね、東京ビジネスサミットとか、いろんなところでもちゃんと出していくということで、認知度を上げていこうと思っております。ですので、議員の皆さん方におかれては3食イノシシをお願いしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

こうやってイノシシがですよ、持ってこられても、これは3分の1ぐらいしか肉にはならないそうなんです。脂の乗り方とか処理の仕方とかによって、3分の1は肉にできるけど、あとは月2万円ぐらいの廃棄処理もかかっているという形で聞いています。それで、これは肉ですね。そして、こうやって、この物産まつりのときも、イノシシの串カツとか、いろんな形で一生懸命アピールして、一生懸命販売促進をされていました。あと、場所がこうやって、最初見ていただきましたが、ここの事務所が本当に1.5坪という形で、もうこの加工所も狭いんですが、本当に視察が多いそうなんです。視察に来られても、本当どこも通すことができなかつたりで、あとは肉の販売に来られても、販売というお店になっていないし、とても狭くって困っているということで、だから自分たちも販売促進をして、自分たちの努力をして、前のところにプレハブでもいいから事務所と店舗を構えたいようにもおっしゃっているんで、さらにそれぐらい努力されているので、そういう形になっていけばいいかなというふうに、私もここに尋ねに行って感じたところであります。視察が本当にふえていて、対応がこの中ではもうできない状態だそうなので、そこら辺も含めて、市長の今後のあり方についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、拡張も含めて応援したいと思います。私も同じことを聞いていて、やっぱり視察に来られた方というのは、来たあかしで、やっぱりお土産でもそうだし、帰ってまた説明しなきゃいけないですもんね、加工品という意味でも。最後は胃袋に入ると思うんですが、そういう意味で、ぜひここにやっぱり買えるものを置く。そうすると、特に山内町の方を中心として、ここは結構交通の要路でもありますので、帰りしなに買っていくとかなればいかなと思っていますので、これはちょっと県と農水省と相談をして、できるだけ拡張の方向で考えたいと思います。なおかつ、ここの皆さんとよく相談をして、どういう拡張の仕方をすればいいのかということも含めて考えたいと思っています。

さっき、ごめんなさい、答弁ちょっとし忘れたんですけど、ぜひお願いがあるのは、牟田前議長さんからお話がありましたけれども、旅館組合の皆さんたちにはお願いしたいのは、今、どういうふうに武雄の食が言われているかというのと、どの旅館で食べても、大体もう京懐石と同じようなのが出てくると。私、先般、世界遺産の五箇山に行きました。そしたら、そこは刺身なんか出るわけじゃないんですよ、もう山の中だから。で、山菜料理ばっかりです。海がないので、イワナの炭火焼きです。山菜の漬け物とかですね、もうむちゃくちゃおいし

いんですよ。自分たちはこれしかありませんっておっしゃっているんですけど、それが実はごちそうなんですよね。ですので、やっぱり武雄でしか出せない、例えばこのイノシシね、高い高いって旅館組合の方はおっしゃいますけれども、刺身もいいと思いますよ、いいと思うんだけど、やっぱりこの旅館に来れば、例えばイノシシが食べられると、例えば、あの旅館に行ったら、すごく新鮮なお刺身が食べられるというふうに特色づけをしていかないと、恐らくもうもたないと思います。みんな食というのはすごく大事だと思っていますし、我々が、実際市民が日ごろ食べているものをやっぱり出していくということが、由布院が今はそう切りかわっているんですよ、思いっきり切りかわっているの、そういうふうの日ごろのおもてなしがごちそうになるように、やっぱり旅館も考えてほしいなということを思います。もうフルセットで出てきても、食べ切れないですもんね。ですので、そこはぜひお考えいただければありがたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当ですね、加工所の方も捕獲隊の方たちも大変努力をされています。イノシシの害も大変だということで、これをいい形につないでいくということで、加工所ができて上がっていますので、本当にいい形になっていくことを願っています。加工所は9時から16時まであいているようで、販売はそこでしているということです。また、捕獲隊の人たちが捕獲のところで、イノシシが最近賢くなっていて、なかなかかわなに入らないということで、大変苦勞されているということも聞きましたし、これはある意味おもしろい打ち出しで、市民に愛される食卓に、お客さんが来られたときとか、そういう打ち出しになればいいんじゃないかなという形で、職員の方も、加工所の方、捕獲隊の方たちも、パトロールの方たちも一生懸命努力されているところを市民みんなで応援して、つないでいけたらなという形で上げさせていただきました。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で4番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 16時3分